

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
キャリアビジョン（デベロップメント）（Q3）
担当教員氏名
魚谷 滋己 原田 淳
研究室の場所
広島キャンパス キャリアセンター
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
随時（事前にメール、チャット、あるいは、電話で連絡し面談の予約をすること）。
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
ハイブリット
授業の形式・方式
対面形式とオンライン（オンデマンド）型式のハイブリッド。授業は配布資料にしたがって進める講義形式と、学生による演習・発表形式を併用して実施する。状況に応じてオンライン形式（リアルタイム・オンデマンド）のみで実施する。受講者数は60人を上限とし、希望者が60人を越えた場合は、3年生以上を優先し、抽選により決定する。
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
全学科 2年次対象
免許等指定科目
キーワード
キャリア開発，論理的思考，チームワーク，プレゼンテーション
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ

本科目では、自分自身のキャリアを形成してゆく見識を身につけると同時に、社会で必要とされる論理的思考力、プレゼンテーション力を身につけることを目標とする。

【到達目標】

<知識・技能の観点>

1. 商品企画における戦略的思考について理解している。

2. 日本と海外の違い、多様性について理解している。

3. シナリオライティング、プレゼンテーションの基本について理解している。

<思考力・判断力・表現力の観点>

4. 市場の将来変化（働き方、暮らし方）について考え、ターゲットカスタマーにどのような価値を提供するか考えることができる。

<主体性・協働性の観点>

5. ブレインストーミングやグループワークに積極的に取り組み、シナリオ作成に貢献する。

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は、全学共通教育科目「キャリア開発」（キャリア）の一つとして位置づけられている。

授業の内容
「グローバル商品企画」をテーマに、グループによる商品企画に取り組む。グループで企画した内容について中間段階と最終段階のプレゼンテーションを実施する。
成績評価の方法
講義中の演習50％，レポート課題20％，最終プレゼンテーション30％で評価する。
テキスト
「グローバル商品企画」のテキストをTeamsからダウンロード。
参考文献
参考文献は適宜紹介する。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
【実務経験を活かした実践的な教育について】 グローバル市場における商品企画の経験を有する教員が、10年後の自動車の商品企画をテーマとして、正解のない課題にチームで取り組む際に必要となるチームビルディングや論理的な思考法について指導する。 チームによる演習が主体となる為、グループワークに協力的でないメンバーの存在は演習の運営や効果に大きな悪影響を及ぼす為、グループワークに積極的な参画の意志のない学生は履修を控える事を薦める。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	オリエンテーション ・講義の目的と概要 ・商品企画の基礎 ・生成AIの活用 ・ループリック記入 ・グループワーク（最近の事例で考える、世界の変化とあなたの生活/人生の関わり）	コースカタログ・シラバスを読んでおく。
第2回	ブレインストーミング ・ブレインストーミング ・グループワーク（新しい文房具を考える）	コースカタログ・シラバスを読んでおく。
第3回	グループワークのためのチームビルディング オンライン（リアルタイム）	オンラインのグループワークに用いるツールに関する説明を読み、ひととおり操作しておく。
第4回	グループワークのためのチームビルディング オンライン（リアルタイム）	オンラインのグループワークに用いるツールに関する説明を読み、ひととおり操作しておく。
第5回	モノ作り発想の限界 ・チーム分け、チーム名決定	講義前日までに、講義資料を読んでおく。
第6回	シナリオライティング ・グループワーク（10年後に自分たちが欲しいクルマ）	講義前日までに、講義資料を読んでおく。
第7回	海外主要市場（米国・欧州・中国）の概要 ・担当市場決定	講義前日までに、ビデオ（主要市場の概要）を視聴しておく。
第8回	海外主要市場（米国・欧州・中国）の概要 ・グループワーク（自分たちの考える、担当市場での働き方と暮らし方の特徴	講義前日までに、ビデオ（主要市場の概要）を視聴しておく。

	(ヒト・モノのモビリティの要素を必ず入れる))	
第9回	グローバルな将来変化シナリオの概要 ・グループワーク（10年後の働き方と暮らし方：自分たちの考える魅力的なキーとなる将来変化）	前回までのグループワークでまとめた内容を整理しておく。
第10回	クルマの変化CASE ・グループワーク（10年後の働き方と暮らし方：自分たちの考える魅力的なキーとなる将来変化）	前回までのグループワークでまとめた内容を整理しておく。
第11回	アイデア発想法 ・グループワーク（将来変化を踏まえたターゲットカスタマー像（新しい働き方と暮らし方、ヒト・モノのモビリティの変化を必ず入れる））	前回までのグループワークでまとめた内容を整理しておく。
第12回	アイデア発想法 ・グループワーク（将来変化を踏まえたターゲットカスタマー像（新しい働き方と暮らし方、ヒト・モノのモビリティの変化を必ず入れる））	前回までのグループワークでまとめた内容を整理しておく。
第13回	プレゼンテーション ・プレゼンテーションの基本	前回までのグループワークでまとめた内容を整理しておく。
第14回	プレゼンテーション ・グループワーク（最終発表に向けたコンセプトシナリオ作成（ターゲットカスタマー → 新しい提供価値 → 実現手段））	前回までのグループワークでまとめた内容を整理しておく。
第15回	最終プレゼンテーションとまとめ ・全チームによる最終プレゼンテーション	講義前日までにプレゼンテーション資料を完成させ提出する。
第16回	最終プレゼンテーションとまとめ ・全チームによる最終プレゼンテーション ・受講生による評価 ・講師による企画例の紹介 ・まとめ（これから必要になる力） ・ループリック記入	講義前日までにプレゼンテーション資料を完成させ提出する。

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ループリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください
ループリック（キャリアビジョン（グローバル商品企画））.pdf

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
インターンシップ（Q1・Q2火曜ペア）
担当教員氏名
粟島 浩二 岡本 弘道 富田 哲治 原田 淳 古田 歩 村上 恵子
研究室の場所
広島キャンパス
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
随時（アポを取ってください）
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
対面授業。事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、週1回の授業を、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に2週間行う。学生は、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と2週間の実習が義務づけられる。
単位数
2
時間数
60
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
全学科2・3年次対象
免許等指定科目
キーワード

自己分析，進路選択，就業体験，職業選択，職業適性，ビジネスマナー
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ
この科目では、将来職業に就くために、職業選択，職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対する関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。 【到達目標】 <知識・技能の観点> 1. ビジネスマナーの基本について理解している。 2. 自己紹介（自己PR）の基本について理解している。 <思考力・判断力・表現力の観点> 3. 将来の進路・就職について考え、就業体験先について検討する。 <主体性・協働性の観点> 4. 事前学習で行うペアワーク・グループワークに積極的に参加している。 【カリキュラム上の位置づけ】 本科目は、全学共通教育科目のキャリア科目の一つとして位置づけられている。
授業の内容
企業，行政機関，福祉施設，各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。事前学習では、オリエンテーション，ビジネスマナー講座，自己目標を明確にするグループ別発表・討論を行う。実習は原則として夏期休業期間中の1週間以上とする。 事後学習では、就業体験の発表を，グループ別発表・討論として行う。さらに，実習報告書を作成し，提出させる。
成績評価の方法
事前学習及び事後学習における課題（20％），授業中の演習（20％），実習受入先の評価（30％），実習報告書等（30％）を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題，報告書等の提出物をすべて提出すること，授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと，受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。
テキスト
a．教科書 なし
参考文献
b．参考文献 第1回の授業において印刷資料として提示する。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。 履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示，学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の中途での放棄，事前学習，実習，事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。実習において必要となる費用は，原則として学生の個人負担とする。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では，企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては，実践的な研修を行う。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	受講ガイダンス① a) 授業概要の説明，注意事項の伝達，応募票の書き方について b) 前年度のインターンシップ実習報告会	これまで学んできたことをふまえて、自分の将来について考えて整理する。
第2回	受講ガイダンス② 受入れ企業・団体の紹介 1回目	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。
第3回	受講ガイダンス③ （概要）仕事をするとは，社会・会社で働く（役割を果たす）とはどういうことかを考え，インターンシップ生として社会に飛び込む“心構え”を持つ。 講師：ジョータツ株式会社 代表取締役社長 竹田和憲	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。
第4回	受講ガイダンス④ 受入れ企業・団体の紹介 2回目	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について調べる。

第5回	受講ガイダンス⑤ 一次マッチングにかかる学内申込み状況の説明と学内調整	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について調べる。
第6回	プレゼンテーション講座① 講師：県立広島大学 魚谷特任教授	前回の資料を振り返りを行う。
第7回	プレゼンテーション講座② 講師：県立広島大学 魚谷特任教授	前回の資料を振り返りを行う。
第8回	プレゼンテーション講座③ 講師：県立広島大学 魚谷特任教授	前回の資料を振り返りを行う。
第9回	社会人入門講座 講師：県立広島大学 魚谷特任教授	前回の資料を振り返りを行う。
第10回	コミュニケーション講座①（ビジネスマナー：実践） ★スーツ着用外部講師	前回の資料を振り返りを行う。
第11回	コミュニケーション講座②（ビジネスマナー：実践） ★スーツ着用外部講師	前回の資料を振り返りを行う。
第12回	コミュニケーション講座③（ビジネスマナー：実践） ★スーツ着用外部講師	前回の資料を振り返りを行う。
第13回	受入先業種別グループ発表会・討論会 （概要）事前に受入先の業界や企業の業務内容・課題等を調べ、目的意識を明確にすること。そのうえで、実習にかかる自己目標を設定すること。	前回の資料を振り返りを行う。
第14回	最終調整と諸注意の伝達 （概要）注意事項の伝達、事故・トラブル等の発生等の対応と連絡体制、実習要項の最終確認（誓約書の作成、日報・報告書・礼状の作成、提出方法等の連絡）	前回の資料を振り返りを行う。
第15回	受入先業種別グループ報告会（在学生、教職員に公開）	報告会に向けた準備を行う。

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
地域情報発信論（前期集中）
担当教員氏名
広谷 大助 藤井 宣彰 吉田 倫子
研究室の場所
学生便覧参照
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
対面授業（状況によってはオンライン（リアルタイム）で実施） 前期集中講義（4日間。2025年8月25日（月）～8月28日（木）の予定） サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
地域創生学科（旧学部国際文化学科，健康科学科，経営学科，経営情報学科を含む） 2～4年次対象
免許等指定科目
キーワード

新聞，取材，ディベート，ディスカッション，記事，グループワーク，プレゼンテーション

授業の目標とカリキュラム上の位置づけ

【授業の目標】

知能・技能の観点

①自分で考える：授業内容や関連する新たな内容に対して，自分で考え，理解し説明することができる

思考力・判断力・表現力の観点

②調べる：必要な情報を適切な方法で収集し，活用しやすい内容に整理できる。

③文章を構成する：自分の考えを正確にわかりやすく，そして説得力ある形で文章にすることができる。

④プレゼンテーション力：自分の考えを正確にわかりやすく説明でき，質問や批判に適切に対応できる。

⑤コミュニケーション力：他の人の意見を聞き，その内容を理解した上で，積極的に自分の意見を述べることができる。

主体性・協調性の観点

⑥関心度：テーマについて関心があり，テーマについて更に深く掘り下げたいと思っている。

⑦問題を発見する・問いを立てる：新たな課題を発見することができる。あるいは，どんなことを掘り下げればよいかという問いを設定し，その解決をはかることができる。

⑧協調性：他の人の意見を聞き，その上で，ともに問題について考えることができる。また，グループの他の人と協働して作業をすることができる。

⑨リーダーシップ：グループ内の異なる主張や対立を把握した上で，自ら率先してメンバーに問いかけ，グループ内の意見をとりまとめることができる。また，グループメンバーの積極的な参加を促すような発言や行動ができる。

【カリキュラム上の位置づけ】

全学共通教育科目・地域課題

授業の内容

新聞で報じられた地域の情報を素材として，新聞の読み方，取材対象の見方，記事作成の手法を学ぶとともに，新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。

テーマに沿った記事を読み，課題を設定した上で，現地へ出向いて取材し，意見交換を経て記事をまとめるなど，地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに，グループで課題解決への提案をまとめ，プレゼンテーションを行うことを通じて議論を深める。

成績評価の方法

課題レポート（50％）（到達目標①②③⑥⑦）

グループ討議，ポスター発表を含む，授業への参加度（50％）（到達目標④⑤⑧⑨）

なお，単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする

テキスト

事前に配付される新聞記事を用いる

参考文献

適宜紹介する

備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)

日頃より新聞に親しみ，幅広く地域の情報に触れるとともに，報じられている内容に関する情報を積極的に集め，自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。

集中講義の詳細な日程・テーマ等は事前説明会（7月上中旬にオンライン(Teams)にて開催）にて説明する。事前説明会には必ず参加すること。参加がない場合は受講を認めない。

また，本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため，4日間全ての出席が必須となる。よって，1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。

なお，フィールドワークにかかる費用及び試読期間中の新聞購読代金（250円の予定）は自己負担となる。

【実務経験を活かした実践的な教育について】

長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により，取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。

授業計画

授業計画

授業の流れは概ね次のとおり（一部変更の可能性あり）

事前課題：試読期間（7月下旬）に配付された新聞を読み，記事を選んで概要をまとめ，意見を述べる

- 第1日：オリエンテーション，事前課題の確認，テーマに関する講義
第2日：取材計画，取材実習（フィールドワーク），記事風レポート作成
第3日：記事風レポート発表，グループ討議，プレゼンテーション準備
第4日：プレゼンテーション最終準備，プレゼンテーション，振り返り討議

期間中の課題：翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む

事後課題：授業で学び得たことを踏まえて，新たな課題を発見し，レポートをまとめる

シラバス備考

URLリンク

科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

【科目ルーブリック改訂案】「地域情報発信論」.pdf

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
マーケティング概論（Q3）
担当教員氏名
粟島 浩二
研究室の場所
1 6 4 8 研究室
連絡先電話番号
内線 9 8 3 6
オフィスアワー
メールやTeamsのチャットにより適時
E-mail/HP
awashima@pu-hiroshima.ac.jp
授業形態
対面
授業の形式・方式
対面形式の授業になります。 授業の詳細につきましては、第1回目のイントロダクションで説明しますので、履修希望者は必ず出席してください。尚、理解度に応じてシラバスの一部を変更することがあります。campus-Xs（教学ポータル）での掲示を見落とさないようにしてください。Teamsのクラスチームを作成します。作成したら、コードをメールで履修者予定者全員に送ります。授業のレジュメはTeamsのチームファイルにUPLします。（授業開講前日正午）
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
地域創生学部地域創生学科（選択）
履修要件
地域創生学部地域創生学科1年生配当科目（学部学科共通科目）
免許等指定科目
キーワード
マーケティング・コンセプト、顧客価値と顧客満足、環境分析、マーケティング・マネジメント、消費者心理、STP、ブランド戦略、サービス・マネジメント
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ

本講義の目標は次の3点である。

①統合的マーケティングの本質を理論体系から理解できる。

②実際の企業活動としてのマーケティングが我々の生活と密接に関連していることを理解できる。

③以上の理論と実践の両面からマーケティングのマネジメントについて論理的に思考し、表現をする能力やスキルを習得する。

経営系分野の入門編として、2年生配当以降のマネジメント分野の専門科目と連動しているが、学部学科共通科目という位置づけであり、この科目だけを履修することだけでも、十分に社会でマネジメントに携わる能力の一助となると考える。

授業の内容

モダン・マーケティング論の基礎を理解した上で、より実践的なマーケティング戦略の立案について事例をつかって解説する。基本的概念として、マーケティング・コンセプト、顧客価値と顧客満足、戦略計画、環境分析、消費者・購買者分析、競合分析、マーケティングのSTPとブランド戦略、コミュニケーション戦略、サービスなどを取り上げます。授業はテキスト：石井淳蔵他編著[2019]『1からのマーケティング第4版』硯学舎。で整理してある理論の解説と身近な企業や商品によるケーススタディを組み合わせることで理解を深める。

成績評価の方法

・中間レポート30%（主に授業目標①、モダンマーケティングに対する理論的理解）

・最終試験40%（主に授業目標③、理論と実践の両面からマーケティングを理解し、表現する）

・毎時限「課題」30%（主に授業目標②、私たちの生活の中から身近な事例でマーケティングを理解する）

（合計100点満点）成績評価は2/3以上の出席が必要条件となる。最終試験は講義室で通常試験を実施する。（持ち込み不可）出題の傾向や対策は講義中に適時指示を行なう。

テキスト

石井淳蔵、廣田章光、清水信年編著（2019）『1からのマーケティング第4版』硯学舎。

参考文献

備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)

テキストは必ず『1からのマーケティング第4版』を用意してください。3版までの内容は全く異なるため要注意。授業の内容は、ほぼテキスト通りに進行するので、あらかじめテキストを購入しておいてください。レポートは、授業内容に沿った理論的理解を問う。AI利用やネットからコピー＆ペーストした安易なものは評価の対象となりません。授業内で取り上げた事例やテキストの内容に合致していない場合は評価できません。レジュメは毎時配布します。試験やレポート対策として大事に保管してください。毎時学生証での出席確認を行いますので、学生証を必ず持参してください。提示できない場合は欠席となることがあります。

【実戦経験を生かした実践的な教育について】

民間企業におけるマーケティング・マネジメントの実践経験のある教員が、その経験を生かして、豊富な事例からマーケティングの理論的フレームワークと活用を解説します。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	マーケティング発想の経営	テキストに目を通しておく
第2回	マーケティング論の成り立ち	テキストに目を通しておく
第3回	マーケティングの基本概念	「クラフトボス」の事例を理解しておく
第4回	製品のマネジメント	日清「カレー飯」の事例を理解しておく
第5回	価格のマネジメント	明治「ザ・チョコレート」の事例を理解しておく
第6回	広告のマネジメント	P&G「ファブリーズ」の事例を理解しておく
第7回	チャンネルのマネジメント	資生堂「アネッサ」の事例を理解しておく
第8回	サプライチェーンのマネジメント	赤城乳業「ガリガリ君」の事例を理解しておく
第9回	営業のマネジメント	サントリーの営業の事例を理解しておく
第10回	顧客関係のマネジメント	「スノーピーク」の事例を理解しておく
第11回	ビジネスモデルのマネジメント	タニタの製品開発の事例を理解しておく
第12回	顧客理解のマネジメント	マツダ「CXシリーズ」の事例を理解しておく
第13回	ブランド構築のマネジメント	ネスレ「キットカット」の事例を理解しておく
第14回	サービス・マーケティングのマネジメント マーケティング概論の総集編	・「TDRとUSJ」の事例を理解しておく ・ノートやレジュメの見直し、最終試験対策
第15回	最終試験	・対面式、持ち込み物なし、筆記試験
授業計画		

シラバス備考
受講生の理解度に応じてシラバスを変更する可能性があります。
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
基礎情報学入門（Q4）
担当教員氏名
小川 仁士
研究室の場所
広島キャンパス 1548研究室
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
授業日程に従ってTeams上で配布する資料を使って講義を実施する。 学生は、授業への出席、確認問題、課題レポートおよび定期試験の受験が義務付けられる。
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
地域創生学部 1 年次対象
免許等指定科目
キーワード
デジタル、CPU、メモリ、OS、アルゴリズム、インターネット
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ

カリキュラム上の位置づけ： 本科目は地域創生学部の学部学科共通科目に区分される科目である。 情報学を学んでいく上で必要となる「コンピュータ・プログラム・ネットワーク・情報システムに関する基礎知識の習得」を目的としている。 学習到達目標： 1. コンピュータの仕組みについて説明できる。（知識・技能） 2. 情報通信の仕組みについて説明できる。（知識・技能） 3. 情報システムの開発工程、セキュリティについて説明できる。（知識・技能）
授業の内容
本科目では、特に情報学に初めて触れる人を対象に、基礎的事項を網羅的に解説する。具体的には、情報の概念およびコンピュータ上で情報がどのように表現され扱われているかについて、ハードウェアとソフトウェアの観点から講義する。また、情報システムの開発プロセス、ネットワークとセキュリティ、情報システム運用におけるサービスマネジメントに関する基本事項についても講義する。
成績評価の方法
課題レポート50点（到達目標1、2、3）、定期試験50点（到達目標1、2、3）
テキスト
毎回事前にTeams上で資料を配布する。
参考文献
井内善臣ほか 著『情報科学の基礎 改訂版』実教出版、2010 その他、必要に応じて紹介する。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
授業外での積極的な予習・復習に努めること。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 自動車部品メーカーの設計開発部門で勤務経験のある教員が、その経験を活かして、コンピュータ・プログラム・ネットワーク・情報システムなどに関する基礎知識について解説する。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	ガイダンス	情報学について調べておくこと。
第2回	情報の概念 知識・情報・データ、アナログとデジタル、エントロピー、確認問題	左記の事項について予習しておくこと。
第3回	文字と数値の表現 符号化、2進数、補数、浮動小数点、確認問題	前の週の確認問題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第4回	論理回路 論理変数と論理演算、ド・モルガンの定理、主加法標準形、確認問題	左記の事項について予習しておくこと。
第5回	コンピュータの構成 CPU、アセンブラ、主記憶、補助記憶、確認問題	前の週の確認問題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第6回	オペレーティングシステム プロセス管理、記憶管理、ファイル管理、入出力管理、確認問題	左記の事項について予習しておくこと。
第7回	プログラムと開発言語 低水準言語と高水準言語、手続き型プログラミング言語、確認問題	前の週の確認問題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第8回	アルゴリズム 順次処理、選択処理、繰り返し処理、フローチャート、確認問題	左記の事項について予習しておくこと。
第9回	システム開発プロセス 要件定義、外部設計、内部設計、システム開発モデル、確認問題	前の週の確認問題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第10回	データベース データモデル、関係モデル、正規化、関係代数、SQL、確認問題	左記の事項について予習しておくこと。
第11回	コンピュータネットワーク クライアント・サーバ、LAN・WAN、回線交換・パケット交換方式、確認問題	前の週の確認問題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第12回	インターネット TCP/IP、IPアドレス、MACアドレス、ルーティング、DNS、WWW、確認問題	左記の事項について予習しておくこと。
第13回	情報セキュリティと法制度 不正アクセス、マルウェア、標的型攻撃、暗号化、個人情報保護、確認問題	前の週の確認問題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第14回	ITサービスマネジメント サービスデザイン、サービスオペレーション、確認問題	左記の事項について予習しておくこと。

第15回	まとめ	前の週の確認問題に取組み復習しておくこと。
第16回	定期試験 第2回～第14回までの範囲から出題	第2回～第14回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。
授業計画		
他学部 of 学生およびWWLの科目等履修生向けの授業は、履修希望者が居た場合、オンライン（リアルタイム）授業を週2回6限に設定する。		
シラバス備考		
URLリンク		
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください		

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
データ分析とプログラミング（Q4）
担当教員氏名
野呂 正明
研究室の場所
広島キャンパス1643研究室
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
随時（他の用事とのバッティングを避けるため、メールやTeamsで予約することが望ましい）
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
・毎回1時間程度は講義を行い、その後、小テストを行う。 ・プログラミングやデータベースについては、実際にプログラミングやデータベースの操作をコンピュータを用いて行ってもらう。 ・小テストや演習の結果をオンラインで提出してもらう。 ・期末テストと提出物の採点結果をあわせて評価する
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
履修登録者が、使用する教室の収容人数を超える場合は抽選で履修者を決定する。
免許等指定科目
キーワード
数理，データサイエンス，データエンジニアリング，データ分析，プログラミング
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ

カリキュラム上の位置づけ： ・数理・データサイエンスにおける，データから意味を抽出し，他者に伝える能力を身につけること，データ分析のためのプログラムを作成するための基礎能力を修得すること。
学修の到達目標： ①知識・技能の観点「データを持つ意味を数式などで明確にする方法および，データをわかりやすく可視化する方法を理解できる」 ②思考・判断・表現の観点「実際のデータを分析し，データの持つ特性を他者にわかりやすく可視化することができる」
授業の内容
最初に，データサイエンスとデータエンジニアリングのために必要なプログラミングとデータベースの基本的なコンセプトについて学習する。これにより，非常に簡単なプログラミングやデータベースの操作を可能にする。これに続けて，データサイエンスの基礎となる数学の知識を学んだ後，データの分析手法を学習すると共に，演習で実際に行うことで身につける。
成績評価の方法
・筆記試験 40点(到達目標①) ・小テストおよび演習 60点(到達目標①②)
テキスト
北川，竹村編，赤穂他著，データサイエンス入門シリーズ 応応用基礎としてのデータサイエンス 改訂第2版 AI×データ活用の実践，講談社，2025年
参考文献
講義の中で紹介する。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
・毎回の小テストは締切後は期末テストの演習として使えるように設定を変更するため，期末テストの演習として活用してください。 ・期末テストは紙資料の持ち込みを許可するため，配布資料，小テストやその正解は印刷すること。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 ICTメーカの研究所および開発部門での勤務経験のある教員が，その経験を活かし，データサイエンスとデータエンジニアリングのために必要なプログラミング，データベース活用，データ分析の基本的な手法を演習を併用して解説する。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	1.1 データ駆動型社会とデータ分析の進め方 ・データ駆動型社会とSociety 5.0 ・データサイエンス活用事例 ・データ分析の進め方（仮説検証サイクル）	・データサイエンスが活用されている事例（ビジネス，サービス）を調べておくこと
第2回	2.1 ビッグデータとデータエンジニアリング ・情報通信技術(ICT)の進展とビッグデータ ・コンピュータで扱うデータ ・データガバナンス	・データガバナンスについて調べておくこと。
第3回	2.1 ビッグデータとデータエンジニアリング(続き) ・Internet of Things (IoT) ・ビッグデータ活用事例 ・コンピュータ,ネットワークの仕組み ・データの収集	・自分の身の回りでインターネットにつながっている機器を探しておくこと
第4回	2.2 データ表現，プログラミング基礎，アルゴリズム基礎(1) ・データ表現 ・プログラミング基礎	・プログラミングについて調べておくこと
第5回	2.2 データ表現，プログラミング基礎，アルゴリズム基礎(2) ・アルゴリズム基礎	・アルゴリズムと計算量について調べておくこと
第6回	2.2 データ表現，プログラミング基礎，アルゴリズム基礎(3) ・プログラミング演習	・データの並び替え方法，データの探索について調べておくこと
第7回	2.3 データの収集と加工，データベース ・データの整形・加工 ・データの集計 ・データベース管理システムの利用	・データベースについて調べておくこと

第8回	2.3 データの収集と加工, データベース ・データベース演習	・マイクロソフトAccessについて調べておくこと。
第9回	2.4 ITセキュリティ ・情報セキュリティの基礎概念 ・暗号化 ・電子署名 ・認証 ・プライバシー保護	・暗号, 電子署名, 認証について調べておくこと
第10回	1.2 データの記述 ・種々のデータ ・基本統計量 (代表値, 散らばりの指標) ・量的×量的データの要約	・平均値, 標準偏差, 相関係数について調べておくこと
第11回	1.3 データの可視化 ・ヒストグラム, パレート図, ヒートマップ他 ・ビッグデータの可視化	・ヒストグラムについて調べておくこと
第12回	1.4 データ分析の手法(1) ・単回帰分析 ・最小二乗法 ・重回帰分析	・一次関数, 最小二乗法について調べておくこと
第13回	1.4 データ分析の手法(2) ・ロジスティック回帰分析 ・時系列データ分析 ・アソシエーション分析	・時系列データ分析, アソシエーション分析について調べておくこと
第14回	1.4 データ分析の手法(2) ・クラスター分析	・クラスター分析を調べておくこと
第15回	1.5 数学基礎 ・微分積分基礎 ・線形代数基礎 (ベクトル, 行列) ・確率・統計基礎 (順列, 組合せ, 確率)	・微分, 積分, ベクトル, 行列, 順列, 組合せ, 確率について調べておくこと
第16回	期末テスト	

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
博物館概論（Q1）
担当教員氏名
杉山 聖子
研究室の場所
広島キャンパス 1912研究室
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
授業の前後に研究室で対応。事前にメール等で連絡することが望ましい。
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
対面授業による講義形式。
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
地域文化コース2年次対象
免許等指定科目
学芸員資格に係る必修科目
キーワード
博物館、学芸員、文化財、展示、資料
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ

博物館学芸員資格取得のための必修科目。博物館学の入門的な役割を果たす科目である。博物館の専門的業務に従事する学芸員をめざすうえで必要とされる、基礎的知識の習得を目指す。2年次の履修が望ましい。

授業目標

- (1) 博物館に関する基礎的な知識（歴史、法律）を習得する。
- (2) 博物館学芸員の業務・役割を理解する。
- (3) 博物館の抱える問題や課題を説明できるようになる。

授業の内容

博物館の定義と歴史をふまえ、社会的な役割、学芸員の業務・役割など、博物館をめぐる基礎的な事項について学習する。

成績評価の方法

授業の理解度を高めるために、毎回レポート提出を行う（70％）。テーマに基づく期末レポートを提出し、授業内容への理解度を確認する（30％）

テキスト

テキストは使用しない。各回、授業資料を配付する。

参考文献

授業のなかで紹介する。

備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)

毎回レポート提出を行う。感想や疑問点を端的にまとめて提出すること。

キャンパスメンバーズ制度（<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/renkei/post-18.html>）を利用し、自主的に博物館見学を行うこと。

授業計画

回数	授業計画	準備学習
第1回	ガイダンス/博物館の定義 －博物館とは何か－	日本の博物館にはどのようなものがあるか調べてみる。
第2回	博物館の歴史 －日本における博物館（および展覧会）の歴史－	日本における博物館の成立について調べてみる。
第3回	博物館の種類と分類 －登録博物館・相当博物館・類似博物館－	登録博物館・相当博物館・類似博物館の違いを調べてみる。
第4回	博物館の機能 －博物館の4機能（資料収集・保存、調査研究、展示、教育普及）－	博物館の活動にはどのようなものがあるか、考えてみる。
第5回	博物館資料の収集と保存 －資料の収集方法や収蔵庫管理－	博物館における資料の収集方法について考えてみる。
第6回	博物館資料の公開方法 －デジタルデータによる資料公開・デジタルミュージアム－	デジタル公開された資料にはどのようなものがあるか調べてみる。
第7回	博物館資料取扱論（1） －古文書や巻物・掛軸の取扱い－	紙資料を扱う注意点について、考えてみる。
第8回	博物館資料取扱論（2） －絵画や工芸品の取扱い－	絵画や工芸品を扱う注意点について、考えてみる。
第9回	博物館と展示（1） －展示会の企画立案～実施－	展示会の企画立案には、どのような情報が必要か考えてみる。
第10回	博物館と展示（2） －展示会の企画書作成－	展示会の企画立案には、どのような情報が必要か考えてみる。
第11回	博物館と地域 －博物館と地域の関係、文化財の保護－	文化財とはどのようなものか考えてみる。
第12回	博物館と教育 －教育普及活動－	博物館が実施する教育活動にはどのようなものがあるか、調べてみる。
第13回	博物館の運営と組織 －多様化する博物館の運営方法と組織－	博物館の運営方法にはどのようなものがあるか、調べてみる。
第14回	博物館の連携活動 －地域住民や他館との連携活動－	博物館相互の連携の利点について、考えてみる。
第15回	まとめ －博物館の役割と4機能－	博物館の役割と4機能について、考えをまとめてみる。

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

シラバス検索 > 検索結果一覧 > シラバス参照

授業科目名
キャリアビジョン（デベロップメント）（Q3）
担当教員氏名
魚谷 滋己 原田 淳
研究室の場所
広島キャンパス キャリアセンター
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
随時（事前にメール、チャット、あるいは、電話で連絡し面談の予約をすること）。
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
ハイブリット
授業の形式・方式
対面形式とオンライン（オンデマンド）型式のハイブリッド。授業は配布資料にしたがって進める講義形式と、学生による演習・発表形式を併用して実施する。状況に応じてオンライン形式（リアルタイム・オンデマンド）のみで実施する。受講者数は60人を上限とし、希望者が60人を越えた場合は、3年生以上を優先し、抽選により決定する。
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
全学科 2年次対象
免許等指定科目
キーワード
キャリア開発，論理的思考，チームワーク，プレゼンテーション
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ

本科目では、自分自身のキャリアを形成してゆく見識を身につけると同時に、社会で必要とされる論理的思考力、プレゼンテーション力を身につけることを目標とする。

【到達目標】

＜知識・技能の観点＞

- 1. 商品企画における戦略的思考について理解している。
- 2. 日本と海外の違い、多様性について理解している。
- 3. シナリオライティング、プレゼンテーションの基本について理解している。

＜思考力・判断力・表現力の観点＞

- 4. 市場の将来変化（働き方、暮らし方）について考え、ターゲットカスタマーにどのような価値を提供するか考えることができる。

＜主体性・協働性の観点＞

- 5.ブレインストーミングやグループワークに積極的に取り組み、シナリオ作成に貢献する。

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は、全学共通教育科目「キャリア開発」（キャリア）の一つとして位置づけられている。

授業の内容

「グローバル商品企画」をテーマに、グループによる商品企画に取り組む。グループで企画した内容について中間段階と最終段階のプレゼンテーションを実施する。

成績評価の方法

講義中の演習50％，レポート課題20％，最終プレゼンテーション30％で評価する。

テキスト

「グローバル商品企画」のテキストをTeamsからダウンロード。

参考文献

参考文献は適宜紹介する。

備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)

【実務経験を活かした実践的な教育について】

グローバル市場における商品企画の経験を有する教員が、10年後の自動車の商品企画をテーマとして、正解のない課題にチームで取り組む際に必要となるチームビルディングや論理的な思考法について指導する。
チームによる演習が主体となる為、グループワークに協力的でないメンバーの存在は演習の運営や効果に大きな悪影響を及ぼす為、グループワークに積極的な参画の意志のない学生は履修を控える事を薦める。

授業計画

回数	授業計画	準備学習
第1回	オリエンテーション ・講義の目的と概要 ・商品企画の基礎 ・生成AIの活用 ・ループリック記入 ・グループワーク（最近の事例で考える、世界の変化とあなたの生活/人生の関わり）	コースカタログ・シラバスを読んでおく。
第2回	ブレインストーミング ・ブレインストーミング ・グループワーク（新しい文房具を考える）	コースカタログ・シラバスを読んでおく。
第3回	グループワークのためのチームビルディング オンライン（リアルタイム）	オンラインのグループワークに用いるツールに関する説明を読み、ひととおり操作しておく。
第4回	グループワークのためのチームビルディング オンライン（リアルタイム）	オンラインのグループワークに用いるツールに関する説明を読み、ひととおり操作しておく。
第5回	モノ作り発想の限界 ・チーム分け、チーム名決定	講義前日までに、講義資料を読んでおく。
第6回	シナリオライティング ・グループワーク（10年後に自分たちが欲しいクルマ）	講義前日までに、講義資料を読んでおく。
第7回	海外主要市場（米国・欧州・中国）の概要 ・担当市場決定	講義前日までに、ビデオ（主要市場の概要）を視聴しておく。
第8回	海外主要市場（米国・欧州・中国）の概要 ・グループワーク（自分たちの考える、担当市場での働き方と暮らし方の特徴	講義前日までに、ビデオ（主要市場の概要）を視聴しておく。

	(ヒト・モノのモビリティの要素を必ず入れる))	
第9回	グローバルな将来変化シナリオの概要 ・グループワーク（10年後の働き方と暮らし方：自分たちの考える魅力的なキーとなる将来変化）	前回までのグループワークでまとめた内容を整理しておく。
第10回	クルマの変化CASE ・グループワーク（10年後の働き方と暮らし方：自分たちの考える魅力的なキーとなる将来変化）	前回までのグループワークでまとめた内容を整理しておく。
第11回	アイデア発想法 ・グループワーク（将来変化を踏まえたターゲットカスタマー像（新しい働き方と暮らし方、ヒト・モノのモビリティの変化を必ず入れる））	前回までのグループワークでまとめた内容を整理しておく。
第12回	アイデア発想法 ・グループワーク（将来変化を踏まえたターゲットカスタマー像（新しい働き方と暮らし方、ヒト・モノのモビリティの変化を必ず入れる））	前回までのグループワークでまとめた内容を整理しておく。
第13回	プレゼンテーション ・プレゼンテーションの基本	前回までのグループワークでまとめた内容を整理しておく。
第14回	プレゼンテーション ・グループワーク（最終発表に向けたコンセプトシナリオ作成（ターゲットカスタマー → 新しい提供価値 → 実現手段））	前回までのグループワークでまとめた内容を整理しておく。
第15回	最終プレゼンテーションとまとめ ・全チームによる最終プレゼンテーション	講義前日までにプレゼンテーション資料を完成させ提出する。
第16回	最終プレゼンテーションとまとめ ・全チームによる最終プレゼンテーション ・受講生による評価 ・講師による企画例の紹介 ・まとめ（これから必要になる力） ・ループリック記入	講義前日までにプレゼンテーション資料を完成させ提出する。

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ループリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください
ループリック（キャリアビジョン（グローバル商品企画））.pdf

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
インターンシップ（Q1・Q2火曜ペア）
担当教員氏名
粟島 浩二 岡本 弘道 富田 哲治 原田 淳 古田 歩 村上 恵子
研究室の場所
広島キャンパス
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
随時（アポを取ってください）
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
対面授業。事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、週1回の授業を、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に2週間行う。学生は、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と2週間の実習が義務づけられる。
単位数
2
時間数
60
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
全学科2・3年次対象
免許等指定科目
キーワード

自己分析，進路選択，就業体験，職業選択，職業適性，ビジネスマナー
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ
この科目では、将来職業に就くために、職業選択，職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対する関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。 【到達目標】 ＜知識・技能の観点＞ 1. ビジネスマナーの基本について理解している。 2. 自己紹介（自己PR）の基本について理解している。 ＜思考力・判断力・表現力の観点＞ 3. 将来の進路・就職について考え、就業体験先について検討する。 ＜主体性・協働性の観点＞ 4. 事前学習で行うペアワーク・グループワークに積極的に参加している。 【カリキュラム上の位置づけ】 本科目は、全学共通教育科目のキャリア科目の一つとして位置づけられている。
授業の内容
企業，行政機関，福祉施設，各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。事前学習では、オリエンテーション，ビジネスマナー講座，自己目標を明確にするグループ別発表・討論を行う。実習は原則として夏期休業期間中の1週間以上とする。 事後学習では、就業体験の発表を，グループ別発表・討論として行う。さらに，実習報告書を作成し，提出させる。
成績評価の方法
事前学習及び事後学習における課題（20％），授業中の演習（20％），実習受入先の評価（30％），実習報告書等（30％）を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題，報告書等の提出物をすべて提出すること，授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと，受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。
テキスト
a．教科書 なし
参考文献
b．参考文献 第1回の授業において印刷資料として提示する。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。 履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示，学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の中途での放棄，事前学習，実習，事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。実習において必要となる費用は，原則として学生の個人負担とする。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では，企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては，実践的な研修を行う。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	受講ガイダンス① a) 授業概要の説明，注意事項の伝達，応募票の書き方について b) 前年度のインターンシップ実習報告会	これまで学んできたことをふまえて、自分の将来について考えて整理する。
第2回	受講ガイダンス② 受入れ企業・団体の紹介 1 回目	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。
第3回	受講ガイダンス③ （概要）仕事をするとは，社会・会社で働く（役割を果たす）とはどういうことかを考え，インターンシップ生として社会に飛び込む“心構え”を持つ。 講師：ジョータツ株式会社 代表取締役社長 竹田和憲	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。
第4回	受講ガイダンス④ 受入れ企業・団体の紹介 2 回目	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について調べる。

第5回	受講ガイダンス⑤ 一次マッチングにかかる学内申込み状況の説明と学内調整	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について調べる。
第6回	プレゼンテーション講座① 講師：県立広島大学 魚谷特任教授	前回の資料を振り返りを行う。
第7回	プレゼンテーション講座② 講師：県立広島大学 魚谷特任教授	前回の資料を振り返りを行う。
第8回	プレゼンテーション講座③ 講師：県立広島大学 魚谷特任教授	前回の資料を振り返りを行う。
第9回	社会人入門講座 講師：県立広島大学 魚谷特任教授	前回の資料を振り返りを行う。
第10回	コミュニケーション講座①（ビジネスマナー：実践） ★スーツ着用外部講師	前回の資料を振り返りを行う。
第11回	コミュニケーション講座②（ビジネスマナー：実践） ★スーツ着用外部講師	前回の資料を振り返りを行う。
第12回	コミュニケーション講座③（ビジネスマナー：実践） ★スーツ着用外部講師	前回の資料を振り返りを行う。
第13回	受入先業種別グループ発表会・討論会 （概要）事前に受入先の業界や企業の業務内容・課題等を調べ、目的意識を明確にすること。そのうえで、実習にかかる自己目標を設定すること。	前回の資料を振り返りを行う。
第14回	最終調整と諸注意の伝達 （概要）注意事項の伝達、事故・トラブル等の発生等の対応と連絡体制、実習要項の最終確認（誓約書の作成、日報・報告書・礼状の作成、提出方法等の連絡）	前回の資料を振り返りを行う。
第15回	受入先業種別グループ報告会（在学生、教職員に公開）	報告会に向けた準備を行う。

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
地域情報発信論（前期集中）
担当教員氏名
広谷 大助 藤井 宣彰 吉田 倫子
研究室の場所
学生便覧参照
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
対面授業（状況によってはオンライン（リアルタイム）で実施） 前期集中講義（4日間。2025年8月25日（月）～8月28日（木）の予定） サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
地域創生学科（旧学部国際文化学科，健康科学科，経営学科，経営情報学科を含む） 2～4年次対象
免許等指定科目
キーワード

新聞，取材，ディベート，ディスカッション，記事，グループワーク，プレゼンテーション

授業の目標とカリキュラム上の位置づけ

【授業の目標】

知能・技能の観点

①自分で考える：授業内容や関連する新たな内容に対して，自分で考え，理解し説明することができる

思考力・判断力・表現力の観点

②調べる：必要な情報を適切な方法で収集し，活用しやすい内容に整理できる。

③文章を構成する：自分の考えを正確にわかりやすく，そして説得力ある形で文章にすることができる。

④プレゼンテーション力：自分の考えを正確にわかりやすく説明でき，質問や批判に適切に対応できる。

⑤コミュニケーション力：他の人の意見を聞き，その内容を理解した上で，積極的に自分の意見を述べることができる。

主体性・協調性の観点

⑥関心度：テーマについて関心があり，テーマについて更に深く掘り下げたいと思っている。

⑦問題を発見する・問いを立てる：新たな課題を発見することができる。あるいは，どんなことを掘り下げればよいかという問いを設定し，その解決をはかることができる。

⑧協調性：他の人の意見を聞き，その上で，ともに問題について考えることができる。また，グループの他の人と協働して作業をすることができる。

⑨リーダーシップ：グループ内の異なる主張や対立を把握した上で，自ら率先してメンバーに問いかけ，グループ内の意見をとりまとめることができる。また，グループメンバーの積極的な参加を促すような発言や行動ができる。

【カリキュラム上の位置づけ】

全学共通教育科目・地域課題

授業の内容

新聞で報じられた地域の情報を素材として，新聞の読み方，取材対象の見方，記事作成の手法を学ぶとともに，新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。

テーマに沿った記事を読み，課題を設定した上で，現地へ出向いて取材し，意見交換を経て記事をまとめるなど，地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに，グループで課題解決への提案をまとめ，プレゼンテーションを行うことを通じて議論を深める。

成績評価の方法

課題レポート（50％）（到達目標①②③⑥⑦）

グループ討議，ポスター発表を含む，授業への参加度（50％）（到達目標④⑤⑧⑨）

なお，単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする

テキスト

事前に配付される新聞記事を用いる

参考文献

適宜紹介する

備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)

日頃より新聞に親しみ，幅広く地域の情報に触れるとともに，報じられている内容に関する情報を積極的に集め，自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。

集中講義の詳細な日程・テーマ等は事前説明会（7月上中旬にオンライン(Teams)にて開催）にて説明する。事前説明会には必ず参加すること。参加がない場合は受講を認めない。

また，本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため，4日間全ての出席が必須となる。よって，1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。

なお，フィールドワークにかかる費用及び試読期間中の新聞購読代金（250円の予定）は自己負担となる。

【実務経験を活かした実践的な教育について】

長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により，取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。

授業計画

授業計画

授業の流れは概ね次のとおり（一部変更の可能性あり）

事前課題：試読期間（7月下旬）に配付された新聞を読み，記事を選んで概要をまとめ，意見を述べる

- 第1日：オリエンテーション，事前課題の確認，テーマに関する講義
第2日：取材計画，取材実習（フィールドワーク），記事風レポート作成
第3日：記事風レポート発表，グループ討議，プレゼンテーション準備
第4日：プレゼンテーション最終準備，プレゼンテーション，振り返り討議

期間中の課題：翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む

事後課題：授業で学び得たことを踏まえて，新たな課題を発見し，レポートをまとめる

シラバス備考

URLリンク

科目ループブックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

【科目ループブック改訂案】「地域情報発信論」.pdf

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
マーケティング概論（Q3）
担当教員氏名
粟島 浩二
研究室の場所
1 6 4 8 研究室
連絡先電話番号
内線 9 8 3 6
オフィスアワー
メールやTeamsのチャットにより適時
E-mail/HP
awashima@pu-hiroshima.ac.jp
授業形態
対面
授業の形式・方式
対面形式の授業になります。 授業の詳細につきましては、第1回目のイントロダクションで説明しますので、履修希望者は必ず出席してください。尚、理解度に応じてシラバスの一部を変更することがあります。campus-Xs（教学ポータル）での掲示を見落とさないようにしてください。Teamsのクラスチームを作成します。作成したら、コードをメールで履修者予定者全員に送ります。授業のレジュメはTeamsのチームファイルにUPLします。（授業開講前日正午）
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
地域創生学部地域創生学科（選択）
履修要件
地域創生学部地域創生学科1年生配当科目（学部学科共通科目）
免許等指定科目
キーワード
マーケティング・コンセプト、顧客価値と顧客満足、環境分析、マーケティング・マネジメント、消費者心理、STP、ブランド戦略、サービス・マネジメント
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ

本講義の目標は次の3点である。

- ①統合的マーケティングの本質を理論体系から理解できる。
- ②実際の企業活動としてのマーケティングが我々の生活と密接に関連していることを理解できる。
- ③以上の理論と実践の両面からマーケティングのマネジメントについて論理的に思考し、表現をする能力やスキルを習得する。

経営系分野の入門編として、2年生配当以降のマネジメント分野の専門科目と連動しているが、学部学科共通科目という位置づけであり、この科目だけを履修することだけでも、十分に社会でマネジメントに携わる能力の一助となると考える。

授業の内容
モダン・マーケティング論の基礎を理解した上で、より実践的なマーケティング戦略の立案について事例をつかって解説する。基本的概念として、マーケティング・コンセプト、顧客価値と顧客満足、戦略計画、環境分析、消費者・購買者分析、競合分析、マーケティングのSTPとブランド戦略、コミュニケーション戦略、サービスなどを取り上げます。授業はテキスト：石井淳蔵他編著[2019]『1からのマーケティング第4版』硯学舎。で整理してある理論の解説と身近な企業や商品によるケーススタディを組み合わせることで理解を深める。
成績評価の方法
・中間レポート30%（主に授業目標①、モダンマーケティングに対する理論的理解） ・最終試験40%（主に授業目標③、理論と実践の両面からマーケティングを理解し、表現する） ・毎時限「課題」30%（主に授業目標②、私たちの生活の中から身近な事例でマーケティングを理解する） （合計100点満点）成績評価は2/3以上の出席が必要条件となる。最終試験は講義室で通常試験を実施する。（持ち込み不可）出題の傾向や対策は講義中に適時指示を行なう。
テキスト
石井淳蔵、廣田章光、清水信年編著（2019）『1からのマーケティング第4版』硯学舎。
参考文献
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
テキストは必ず『1からのマーケティング第4版』を用意してください。3版までの内容は全く異なるため要注意。授業の内容は、ほぼテキスト通りに進行するので、あらかじめテキストを購入しておいてください。レポートは、授業内容に沿った理論的理解を問う。AI利用やネットからコピー＆ペーストした安易なものは評価の対象となりません。授業内で取り上げた事例やテキストの内容に合致していない場合は評価できません。レジュメは毎時配布します。試験やレポート対策として大事に保管してください。毎時学生証での出席確認を行いますので、学生証を必ず持参してください。提示できない場合は欠席となることがあります。 【実戦経験を生かした実践的な教育について】 民間企業におけるマーケティング・マネジメントの実践経験のある教員が、その経験を生かして、豊富な事例からマーケティングの理論的フレームワークと活用を解説します。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	マーケティング発想の経営	テキストに目を通しておく
第2回	マーケティング論の成り立ち	テキストに目を通しておく
第3回	マーケティングの基本概念	「クラフトボス」の事例を理解しておく
第4回	製品のマネジメント	日清「カレー飯」の事例を理解しておく
第5回	価格のマネジメント	明治「ザ・チョコレート」の事例を理解しておく
第6回	広告のマネジメント	P&G「ファブリーズ」の事例を理解しておく
第7回	チャンネルのマネジメント	資生堂「アネッサ」の事例を理解しておく
第8回	サプライチェーンのマネジメント	赤城乳業「ガリガリ君」の事例を理解しておく
第9回	営業のマネジメント	サントリーの営業の事例を理解しておく
第10回	顧客関係のマネジメント	「スノーピーク」の事例を理解しておく
第11回	ビジネスモデルのマネジメント	タニタの製品開発の事例を理解しておく
第12回	顧客理解のマネジメント	マツダ「CXシリーズ」の事例を理解しておく
第13回	ブランド構築のマネジメント	ネスレ「キットカット」の事例を理解しておく
第14回	サービス・マーケティングのマネジメント マーケティング概論の総集編	・「TDRとUSJ」の事例を理解しておく ・ノートやレジュメの見直し、最終試験対策
第15回	最終試験	・対面式、持ち込み物なし、筆記試験
授業計画		

シラバス備考
受講生の理解度に応じてシラバスを変更する可能性があります。
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
基礎情報学入門（Q4）
担当教員氏名
小川 仁士
研究室の場所
広島キャンパス 1548研究室
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
授業日程に従ってTeams上で配布する資料を使って講義を実施する。 学生は、授業への出席、確認問題、課題レポートおよび定期試験の受験が義務付けられる。
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
地域創生学部 1 年次対象
免許等指定科目
キーワード
デジタル、CPU、メモリ、OS、アルゴリズム、インターネット
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ

カリキュラム上の位置づけ： 本科目は地域創生学部の学部学科共通科目に区分される科目である。 情報学を学んでいく上で必要となる「コンピュータ・プログラム・ネットワーク・情報システムに関する基礎知識の習得」を目的としている。 学習到達目標： 1. コンピュータの仕組みについて説明できる。（知識・技能） 2. 情報通信の仕組みについて説明できる。（知識・技能） 3. 情報システムの開発工程、セキュリティについて説明できる。（知識・技能）
授業の内容
本科目では、特に情報学に初めて触れる人を対象に、基礎的事項を網羅的に解説する。具体的には、情報の概念およびコンピュータ上で情報がどのように表現され扱われているかについて、ハードウェアとソフトウェアの観点から講義する。また、情報システムの開発プロセス、ネットワークとセキュリティ、情報システム運用におけるサービスマネジメントに関する基本事項についても講義する。
成績評価の方法
課題レポート50点（到達目標1、2、3）、定期試験50点（到達目標1、2、3）
テキスト
毎回事前にTeams上で資料を配布する。
参考文献
井内善臣ほか 著『情報科学の基礎 改訂版』実教出版、2010 その他、必要に応じて紹介する。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
授業外での積極的な予習・復習に努めること。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 自動車部品メーカーの設計開発部門で勤務経験のある教員が、その経験を活かして、コンピュータ・プログラム・ネットワーク・情報システムなどに関する基礎知識について解説する。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	ガイダンス	情報学について調べておくこと。
第2回	情報の概念 知識・情報・データ、アナログとデジタル、エントロピー、確認問題	左記の事項について予習しておくこと。
第3回	文字と数値の表現 符号化、2進数、補数、浮動小数点、確認問題	前の週の確認問題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第4回	論理回路 論理変数と論理演算、ド・モルガンの定理、主加法標準形、確認問題	左記の事項について予習しておくこと。
第5回	コンピュータの構成 CPU、アセンブラ、主記憶、補助記憶、確認問題	前の週の確認問題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第6回	オペレーティングシステム プロセス管理、記憶管理、ファイル管理、入出力管理、確認問題	左記の事項について予習しておくこと。
第7回	プログラムと開発言語 低水準言語と高水準言語、手続き型プログラミング言語、確認問題	前の週の確認問題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第8回	アルゴリズム 順次処理、選択処理、繰り返し処理、フローチャート、確認問題	左記の事項について予習しておくこと。
第9回	システム開発プロセス 要件定義、外部設計、内部設計、システム開発モデル、確認問題	前の週の確認問題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第10回	データベース データモデル、関係モデル、正規化、関係代数、SQL、確認問題	左記の事項について予習しておくこと。
第11回	コンピュータネットワーク クライアント・サーバ、LAN・WAN、回線交換・パケット交換方式、確認問題	前の週の確認問題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第12回	インターネット TCP/IP、IPアドレス、MACアドレス、ルーティング、DNS、WWW、確認問題	左記の事項について予習しておくこと。
第13回	情報セキュリティと法制度 不正アクセス、マルウェア、標的型攻撃、暗号化、個人情報保護、確認問題	前の週の確認問題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第14回	ITサービスマネジメント サービスデザイン、サービスオペレーション、確認問題	左記の事項について予習しておくこと。

第15回	まとめ	前の週の確認問題に取り組み復習しておくこと。
第16回	定期試験 第2回～第14回までの範囲から出題	第2回～第14回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。
授業計画		
他学部 of 学生およびWWLの科目等履修生向けの授業は、履修希望者が居た場合、オンライン（リアルタイム）授業を週2回6限に設定する。		
シラバス備考		
URLリンク		
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください		

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
データ分析とプログラミング（Q4）
担当教員氏名
野呂 正明
研究室の場所
広島キャンパス1643研究室
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
随時（他の用事とのバッティングを避けるため、メールやTeamsで予約することが望ましい）
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
・毎回1時間程度は講義を行い、その後、小テストを行う。 ・プログラミングやデータベースについては、実際にプログラミングやデータベースの操作をコンピュータを用いて行ってもらう。 ・小テストや演習の結果をオンラインで提出してもらう。 ・期末テストと提出物の採点結果をあわせて評価する
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
履修登録者が、使用する教室の収容人数を超える場合は抽選で履修者を決定する。
免許等指定科目
キーワード
数理，データサイエンス，データエンジニアリング，データ分析，プログラミング
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ

カリキュラム上の位置づけ： ・数理・データサイエンスにおける，データから意味を抽出し，他者に伝える能力を身につけること，データ分析のためのプログラムを作成するための基礎能力を修得すること。
学修の到達目標： ①知識・技能の観点「データを持つ意味を数式などで明確にする方法および，データをわかりやすく可視化する方法を理解できる」 ②思考・判断・表現の観点「実際のデータを分析し，データの持つ特性を他者にわかりやすく可視化することができる」
授業の内容
最初に，データサイエンスとデータエンジニアリングのために必要なプログラミングとデータベースの基本的なコンセプトについて学習する。これにより，非常に簡単なプログラミングやデータベースの操作を可能にする。これに続けて，データサイエンスの基礎となる数学の知識を学んだ後，データの分析手法を学習すると共に，演習で実際に行うことで身につける。
成績評価の方法
・筆記試験 40点(到達目標①) ・小テストおよび演習 60点(到達目標①②)
テキスト
北川，竹村編，赤穂他著，データサイエンス入門シリーズ 応応用基礎としてのデータサイエンス 改訂第2版 AI×データ活用の実践，講談社，2025年
参考文献
講義の中で紹介する。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
・毎回の小テストは締切後は期末テストの演習として使えるように設定を変更するため，期末テストの演習として活用してください。 ・期末テストは紙資料の持ち込みを許可するため，配布資料，小テストやその正解は印刷すること。
【実務経験を活かした実践的な教育について】 ICTメーカの研究所および開発部門での勤務経験のある教員が，その経験を活かし，データサイエンスとデータエンジニアリングのために必要なプログラミング，データベース活用，データ分析の基本的な手法を演習を併用して解説する。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	1.1 データ駆動型社会とデータ分析の進め方 ・データ駆動型社会とSociety 5.0 ・データサイエンス活用事例 ・データ分析の進め方（仮説検証サイクル）	・データサイエンスが活用されている事例（ビジネス，サービス）を調べておくこと
第2回	2.1 ビッグデータとデータエンジニアリング ・情報通信技術(ICT)の進展とビッグデータ ・コンピュータで扱うデータ ・データガバナンス	・データガバナンスについて調べておくこと。
第3回	2.1 ビッグデータとデータエンジニアリング(続き) ・Internet of Things (IoT) ・ビッグデータ活用事例 ・コンピュータ,ネットワークの仕組み ・データの収集	・自分の身の回りでインターネットにつながっている機器を探しておくこと
第4回	2.2 データ表現，プログラミング基礎，アルゴリズム基礎(1) ・データ表現 ・プログラミング基礎	・プログラミングについて調べておくこと
第5回	2.2 データ表現，プログラミング基礎，アルゴリズム基礎(2) ・アルゴリズム基礎	・アルゴリズムと計算量について調べておくこと
第6回	2.2 データ表現，プログラミング基礎，アルゴリズム基礎(3) ・プログラミング演習	・データの並び替え方法，データの探索について調べておくこと
第7回	2.3 データの収集と加工，データベース ・データの整形・加工 ・データの集計 ・データベース管理システムの利用	・データベースについて調べておくこと

第8回	2.3 データの収集と加工, データベース ・データベース演習	・マイクロソフトAccessについて調べておくこと。
第9回	2.4 ITセキュリティ ・情報セキュリティの基礎概念 ・暗号化 ・電子署名 ・認証 ・プライバシー保護	・暗号, 電子署名, 認証について調べておくこと
第10回	1.2 データの記述 ・種々のデータ ・基本統計量 (代表値, 散らばりの指標) ・量的×量的データの要約	・平均値, 標準偏差, 相関係数について調べておくこと
第11回	1.3 データの可視化 ・ヒストグラム, パレート図, ヒートマップ他 ・ビッグデータの可視化	・ヒストグラムについて調べておくこと
第12回	1.4 データ分析の手法(1) ・単回帰分析 ・最小二乗法 ・重回帰分析	・一次関数, 最小二乗法について調べておくこと
第13回	1.4 データ分析の手法(2) ・ロジスティック回帰分析 ・時系列データ分析 ・アソシエーション分析	・時系列データ分析, アソシエーション分析について調べておくこと
第14回	1.4 データ分析の手法(2) ・クラスター分析	・クラスター分析を調べておくこと
第15回	1.5 数学基礎 ・微分積分基礎 ・線形代数基礎 (ベクトル, 行列) ・確率・統計基礎 (順列, 組合せ, 確率)	・微分, 積分, ベクトル, 行列, 順列, 組合せ, 確率について調べておくこと
第16回	期末テスト	

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
人的資源管理論（後期集中）
担当教員氏名
平野 実
研究室の場所
広島キャンパス 1646研究室
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
随時（メールで事前に予約をすること）
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
【対面授業】 本授業は、春季集中講義で実施する。授業では、教科書を中心に、人的資源管理論の主要な概念および枠組みを事例を取り上げながら解説する。
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
地域創生学部地域創生学科地域産業コース 2年次対象
免許等指定科目
キーワード
キャリア形成，雇用管理，目標管理制度，専門職制度
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ

本講義の主要な目標は2つある。
第1は,受講者が,企業で展開されている多様な人事制度を学習することによって, 人的資源管理論に関する理解を深めることである。 第2は,受講者が,人的資源管理論の概念や枠組みを活用し, 企業の多様な人事制度に関して,論理的に考える能力やスキルを習得し表現できることである。
授業の内容
サービスの経済化・高齢化が進行するわが国の企業経営において, 終身雇用制が大きく変貌するとともに, さまざまな雇用形態が登場し多様化している。講義では, このような経営組織の環境変化の中で, 社員のキャリア形成と, 経営組織の求める人材の確保のあり方について考察する。
成績評価の方法
授業への参加度（20％）、および、グループワークへの貢献度と課題発表（80％）の割合で総合的に評価する。 ① 人的資源管理論の概念や枠組みを活用し, 企業の多様な人事制度に関して論理的に考える能力やスキルを習得し表現できる（グループワークへの貢献度と課題発表 80点） ② 企業で展開されている多様な人事制度を学習することによって, 人的資源管理論に関する理解を深めることができる（授業への参加度 20点）
テキスト
教科書 奥林康司編著『入門 人的資源管理』中央経済社, 2003。
参考文献
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
日本経済新聞を精読し講義に臨むことを受講の条件とする（授業中に, これらの新聞記事について紹介して貰うことがある）。 また, 講義中の飲食, 携帯電話・スマートフォンの使用（携帯電話, スマートフォンは, かばん等にしまっておくこと）, 私語雑談, 居眠り, 内職, 帽子の着用, 途中退室は厳禁する。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	イントロダクション	初回授業までにシラバスを熟読し, 授業の内容を理解しておくこと。 授業前日, もしくは, 当日の日本経済新聞を精読しておくこと。
第2回	人的資源管理の生成	授業前日, もしくは, 当日の日本経済新聞を精読しておくこと。
第3回	雇用管理（1）	授業前日, もしくは, 当日の日本経済新聞を精読しておくこと。
第4回	雇用管理（2）	授業前日, もしくは, 当日の日本経済新聞を精読しておくこと。
第5回	キャリア開発	授業前日, もしくは, 当日の日本経済新聞を精読しておくこと。
第6回	課題発表前グループ・ワーク ＊必ずPCを持参すること。	授業前日, もしくは, 当日の日本経済新聞を精読しておくこと。
第7回	課題発表前グループ・ワーク ＊必ずPCを持参すること。	授業前日, もしくは, 当日の日本経済新聞を精読しておくこと。
第8回	課題発表前グループ・ワーク ＊必ずPCを持参すること。	授業前日, もしくは, 当日の日本経済新聞を精読しておくこと。
第9回	課題発表（学生によるプレゼンテーション） ＊必ずPCを持参すること。	発表者は, 発表日に発表資料を一部提出すること。 授業前日, もしくは, 当日の日本経済新聞を精読しておくこと。

第10回	課題発表（学生によるプレゼンテーション） ＊必ずPCを持参すること。	発表者は、発表日に発表資料を一部提出すること。 授業前日、もしくは、当日の日本経済新聞を精読しておくこと。
第11回	課題発表（学生によるプレゼンテーション） ＊必ずPCを持参すること。	発表者は、発表日に発表資料を一部提出すること。 授業前日、もしくは、当日の日本経済新聞を精読しておくこと。
第12回	課題発表（学生によるプレゼンテーション） ＊必ずPCを持参すること。	発表者は、発表日に発表資料を一部提出すること。 授業前日、もしくは、当日の日本経済新聞を精読しておくこと。
第13回	課題発表（学生によるプレゼンテーション） ＊必ずPCを持参すること。	発表者は、発表日に発表資料を一部提出すること。 授業前日、もしくは、当日の日本経済新聞を精読しておくこと。
第14回	課題発表（学生によるプレゼンテーション） ＊必ずPCを持参すること。	発表者は、発表日に発表資料を一部提出すること。 授業前日、もしくは、当日の日本経済新聞を精読しておくこと。
第15回	課題発表（学生によるプレゼンテーション） ＊必ずPCを持参すること。	発表者は、発表日に発表資料を一部提出すること。 授業前日、もしくは、当日の日本経済新聞を精読しておくこと。

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
画像情報処理（Q2）
担当教員氏名
肖 業貴
研究室の場所
広島キャンパス 1 5 6 3 研究室
連絡先電話番号
電話：082-251-9731(直通)
オフィスアワー
毎週月曜日 9時から金曜日 1 8 時（在室のときはいつでも可），場所は担当教員研究室
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
対面授業 授業日程に従って，主に下記の参考書および別途配布するプリント資料を用いて実施する。
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
地域産業コース 2年次対象
免許等指定科目
IoT・AI応用技術認定（中級）プログラム 選択科目
キーワード
視覚情報処理，デジタル画像，画像処理，静止画，動画，3原色原理，カラー画像，画像圧縮，Biometrics，顔画像の処理，Matlab Programming
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ

本科目は、情報化において映像情報の活用が欠かせない現状を踏まえて、情報科学の重要な分野として、視覚情報処理・画像処理の基礎、特にデジタル画像に関する基礎知識を習得させるために実施するものである。デジタル画像の基礎知識を習得させるとともに、演習を通して画像処理の基本技法を体験する。

学修到達目標は以下の通り。

<<知識・技能>>

①デジタル画像の生成プロセス、処理の基本技法（静止画圧縮を含む）が説明できる。②CG画像の生成やDCTによる静止画圧縮をシミュレーションできる。

<<思考・判断・表現>>

③空間的filteringや圧縮に関する技術の発想を自らの言葉で表現できる。

授業の内容

デジタル画像情報は、生産、電気電子、機械、交通、気象、農水産業、宇宙といった様々な分野にとどまらず、我々の社会生活、日常生活においても活用されるようになっている。特に、IoT・AT応用技術の発展においてはその利活用が欠かせない。本科目をコースの基礎専門科目と位置づけ、デジタル画像情報処理の基礎知識や技術を身につけることを目的とする。具体的には、①デジタル画像の生成（空間サンプリング、量子化、CG生成）、②デジタル画像の基本処理技術（幾何学処理、各種空間フィルタリング）、③画像圧縮技術（静止画と動画の圧縮）、④画像処理基本技術演習、を主な授業内容とする。授業後半にMATLABを用いて演習を行い、画像情報の基本処理技術への理解を深める。

成績評価の方法

4回以上の欠席は評価の対象外とする。
演習課題と期末試験または最終レポートは70%（学修到達目標 ①、③）、演習への取り組みは30%（学修到達目標 ②）の割合で、出席状況も考慮して、総合的に評価する。

テキスト

特に指定しないが、授業関係プリントをまとめて、TEAMSにてpdf配信する。

参考文献

参考書：酒井『デジタル画像処理入門』コロナ社、1997。平井『視覚と記憶の情報処理』倍風館、1995。藤岡 他『画像処理の基礎』昭晃堂、2002。田村『コンピュータ画像処理』オーム社、2002。谷口『画像処理工学』共立出版、1996。鳥脇『パターン認識と画像処理』朝倉書店、1997。

備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)

【実務経験を活かした実践的な教育について】

大学教員になる前にIT業界で情報システムの開発に従事していた。特にコンピュータ配電自動化システムの開発プロジェクトに参加し、機能設計、プログラム設計、試験設計等に加え、プログラム作成や現地試験にも参加した。教員になってからも幾度も企業との共同研究開発を長年にわたって行った。そういった実務経験を授業に活かすためには、画像処理理論のみならずその実応用における活用現状、あり方、利用拡大の可能性等についても言及し、多くの実例や例題を通して学生の興味や自ら考える・学が姿勢を引き出しながら授業内容への理解の深化を図ることにしている。

授業計画

回数	授業計画	準備学習
第1回	①授業計画の説明、②序論：人と計算機はどう違うか？なぜ人の情報処理を解明する必要があるか？	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第2回	脳における情報処理： ①大脳皮質における情報処理、②神経細胞の構造・機能、③神経インパルスの発生と伝達	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第3回	①視覚情報処理の流れ、②網膜における情報処理、③受光細胞、④双極細胞、⑤神経細胞、	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第4回	①デジタル画像処理の歴史、②デジタル画像処理の応用分野、③デジタル画像処理の基本課題	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第5回	デジタル画像の基礎（１）： ①デジタル画像の生成（空間サンプリング、量子化）、②画像の空間解像度、③輝度分解能	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第6回	デジタル画像の基礎（２）： ①色彩の基本、②3原色原理、③カラー画像	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第7回	画像の基本処理（１）： ①画像の拡大・縮小、②画像の回転、③画像の濃度変換	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第8回	画像の基本処理（２）： ①空間フィルタリング手法、②平滑化フィルタ、③特徴抽出フィルタ、④鮮鋭化フィルタ	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第9回	静止画の圧縮： ①情報保存型圧縮（Huffman coding, ARIによるPredictive coding）、②情報非保存型圧縮（直交変換2-D DCTなどを用いた圧縮、ベクトル量子化による圧縮（Vector quantization (VQ)））	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第10回	動画の圧縮： 動きベクトルの検出（Motion estimation）による圧縮	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと

第11回	画像処理演習（Matlab使用）準備：①Matlabのコマンド、②Matlabプログラム形式、③Matlabでの画像読み込みと書き込み	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第12回	画像処理演習（１）： デジタル画像の拡大・縮小（プログラム作成と処理画像による確認）	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第13回	画像処理演習（２）： デジタル画像のフィルタリング（エッジ検出プログラムの作成とエッジ画像による確認）	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第14回	画像処理演習（３）： 静止画の圧縮（2-D DCTを用いた圧縮と画質の確認）	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第15回	①（時間があれば）顔画像による個人識別の技術、②授業統括（予備日）	ノートや参考書などを読んで講義内容を復習し、期末試験または最終レポート作成に向けて勉強すること。
第16回	期末試験か、最終レポート提出。	ノートや参考書などを読んで講義内容を復習し、期末試験または最終レポート作成に向けて勉強すること。

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

シラバス検索 > 検索結果一覧 > シラバス参照

授業科目名
キャリアビジョン（デベロップメント）（Q3）
担当教員氏名
魚谷 滋己 原田 淳
研究室の場所
広島キャンパス キャリアセンター
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
随時（事前にメール、チャット、あるいは、電話で連絡し面談の予約をすること）。
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
ハイブリット
授業の形式・方式
対面形式とオンライン（オンデマンド）型式のハイブリッド。授業は配布資料にしたがって進める講義形式と、学生による演習・発表形式を併用して実施する。状況に応じてオンライン形式（リアルタイム・オンデマンド）のみで実施する。受講者数は60人を上限とし、希望者が60人を越えた場合は、3年生以上を優先し、抽選により決定する。
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
全学科 2年次対象
免許等指定科目
キーワード
キャリア開発，論理的思考，チームワーク，プレゼンテーション
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ

本科目では、自分自身のキャリアを形成してゆく見識を身につけると同時に、社会で必要とされる論理的思考力、プレゼンテーション力を身につけることを目標とする。

【到達目標】

<知識・技能の観点>

1. 商品企画における戦略的思考について理解している。

2. 日本と海外の違い、多様性について理解している。

3. シナリオライティング、プレゼンテーションの基本について理解している。

<思考力・判断力・表現力の観点>

4. 市場の将来変化（働き方、暮らし方）について考え、ターゲットカスタマーにどのような価値を提供するか考えることができる。

<主体性・協働性の観点>

5. ブレインストーミングやグループワークに積極的に取り組み、シナリオ作成に貢献する。

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は、全学共通教育科目「キャリア開発」（キャリア）の一つとして位置づけられている。

授業の内容
「グローバル商品企画」をテーマに、グループによる商品企画に取り組む。グループで企画した内容について中間段階と最終段階のプレゼンテーションを実施する。
成績評価の方法
講義中の演習50％，レポート課題20％，最終プレゼンテーション30％で評価する。
テキスト
「グローバル商品企画」のテキストをTeamsからダウンロード。
参考文献
参考文献は適宜紹介する。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
【実務経験を活かした実践的な教育について】 グローバル市場における商品企画の経験を有する教員が、10年後の自動車の商品企画をテーマとして、正解のない課題にチームで取り組む際に必要となるチームビルディングや論理的な思考法について指導する。 チームによる演習が主体となる為、グループワークに協力的でないメンバーの存在は演習の運営や効果に大きな悪影響を及ぼす為、グループワークに積極的な参画の意志のない学生は履修を控える事を薦める。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	オリエンテーション ・講義の目的と概要 ・商品企画の基礎 ・生成AIの活用 ・ループリック記入 ・グループワーク（最近の事例で考える、世界の変化とあなたの生活/人生の関わり）	コースカタログ・シラバスを読んでおく。
第2回	ブレインストーミング ・ブレインストーミング ・グループワーク（新しい文房具を考える）	コースカタログ・シラバスを読んでおく。
第3回	グループワークのためのチームビルディング オンライン（リアルタイム）	オンラインのグループワークに用いるツールに関する説明を読み、ひととおり操作しておく。
第4回	グループワークのためのチームビルディング オンライン（リアルタイム）	オンラインのグループワークに用いるツールに関する説明を読み、ひととおり操作しておく。
第5回	モノ作り発想の限界 ・チーム分け、チーム名決定	講義前日までに、講義資料を読んでおく。
第6回	シナリオライティング ・グループワーク（10年後に自分たちが欲しいクルマ）	講義前日までに、講義資料を読んでおく。
第7回	海外主要市場（米国・欧州・中国）の概要 ・担当市場決定	講義前日までに、ビデオ（主要市場の概要）を視聴しておく。
第8回	海外主要市場（米国・欧州・中国）の概要 ・グループワーク（自分たちの考える、担当市場での働き方と暮らし方の特徴	講義前日までに、ビデオ（主要市場の概要）を視聴しておく。

	(ヒト・モノのモビリティの要素を必ず入れる))	
第9回	グローバルな将来変化シナリオの概要 ・グループワーク（10年後の働き方と暮らし方：自分たちの考える魅力的なキーとなる将来変化）	前回までのグループワークでまとめた内容を整理しておく。
第10回	クルマの変化CASE ・グループワーク（10年後の働き方と暮らし方：自分たちの考える魅力的なキーとなる将来変化）	前回までのグループワークでまとめた内容を整理しておく。
第11回	アイデア発想法 ・グループワーク（将来変化を踏まえたターゲットカスタマー像（新しい働き方と暮らし方、ヒト・モノのモビリティの変化を必ず入れる））	前回までのグループワークでまとめた内容を整理しておく。
第12回	アイデア発想法 ・グループワーク（将来変化を踏まえたターゲットカスタマー像（新しい働き方と暮らし方、ヒト・モノのモビリティの変化を必ず入れる））	前回までのグループワークでまとめた内容を整理しておく。
第13回	プレゼンテーション ・プレゼンテーションの基本	前回までのグループワークでまとめた内容を整理しておく。
第14回	プレゼンテーション ・グループワーク（最終発表に向けたコンセプトシナリオ作成（ターゲットカスタマー → 新しい提供価値 → 実現手段））	前回までのグループワークでまとめた内容を整理しておく。
第15回	最終プレゼンテーションとまとめ ・全チームによる最終プレゼンテーション	講義前日までにプレゼンテーション資料を完成させ提出する。
第16回	最終プレゼンテーションとまとめ ・全チームによる最終プレゼンテーション ・受講生による評価 ・講師による企画例の紹介 ・まとめ（これから必要になる力） ・ループリック記入	講義前日までにプレゼンテーション資料を完成させ提出する。

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ループリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください
ループリック（キャリアビジョン（グローバル商品企画））.pdf

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
インターンシップ（Q1・Q2火曜ペア）
担当教員氏名
粟島 浩二 岡本 弘道 富田 哲治 原田 淳 古田 歩 村上 恵子
研究室の場所
広島キャンパス
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
随時（アポを取ってください）
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
対面授業。事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、週1回の授業を、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に2週間行う。学生は、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と2週間の実習が義務づけられる。
単位数
2
時間数
60
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
全学科2・3年次対象
免許等指定科目
キーワード

自己分析，進路選択，就業体験，職業選択，職業適性，ビジネスマナー
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ
この科目では、将来職業に就くために、職業選択，職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対する関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。 【到達目標】 ＜知識・技能の観点＞ 1. ビジネスマナーの基本について理解している。 2. 自己紹介（自己PR）の基本について理解している。 ＜思考力・判断力・表現力の観点＞ 3. 将来の進路・就職について考え、就業体験先について検討する。 ＜主体性・協働性の観点＞ 4. 事前学習で行うペアワーク・グループワークに積極的に参加している。 【カリキュラム上の位置づけ】 本科目は、全学共通教育科目のキャリア科目の一つとして位置づけられている。
授業の内容
企業，行政機関，福祉施設，各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。事前学習では、オリエンテーション，ビジネスマナー講座，自己目標を明確にするグループ別発表・討論を行う。実習は原則として夏期休業期間中の1週間以上とする。 事後学習では、就業体験の発表を，グループ別発表・討論として行う。さらに，実習報告書を作成し，提出させる。
成績評価の方法
事前学習及び事後学習における課題（20％），授業中の演習（20％），実習受入先の評価（30％），実習報告書等（30％）を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題，報告書等の提出物をすべて提出すること，授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと，受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。
テキスト
a．教科書 なし
参考文献
b．参考文献 第1回の授業において印刷資料として提示する。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。 履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示，学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の中途での放棄，事前学習，実習，事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。実習において必要となる費用は，原則として学生の個人負担とする。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では，企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては，実践的な研修を行う。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	受講ガイダンス① a) 授業概要の説明，注意事項の伝達，応募票の書き方について b) 前年度のインターンシップ実習報告会	これまで学んできたことをふまえて、自分の将来について考えて整理する。
第2回	受講ガイダンス② 受入れ企業・団体の紹介 1回目	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。
第3回	受講ガイダンス③ （概要）仕事をするとは，社会・会社で働く（役割を果たす）とはどういうことかを考え，インターンシップ生として社会に飛び込む“心構え”を持つ。 講師：ジョータツ株式会社 代表取締役社長 竹田和憲	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。
第4回	受講ガイダンス④ 受入れ企業・団体の紹介 2回目	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について調べる。

第5回	受講ガイダンス⑤ 一次マッチングにかかる学内申込み状況の説明と学内調整	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について調べる。
第6回	プレゼンテーション講座① 講師：県立広島大学 魚谷特任教授	前回の資料を振り返りを行う。
第7回	プレゼンテーション講座② 講師：県立広島大学 魚谷特任教授	前回の資料を振り返りを行う。
第8回	プレゼンテーション講座③ 講師：県立広島大学 魚谷特任教授	前回の資料を振り返りを行う。
第9回	社会人入門講座 講師：県立広島大学 魚谷特任教授	前回の資料を振り返りを行う。
第10回	コミュニケーション講座①（ビジネスマナー：実践） ★スーツ着用外部講師	前回の資料を振り返りを行う。
第11回	コミュニケーション講座②（ビジネスマナー：実践） ★スーツ着用外部講師	前回の資料を振り返りを行う。
第12回	コミュニケーション講座③（ビジネスマナー：実践） ★スーツ着用外部講師	前回の資料を振り返りを行う。
第13回	受入先業種別グループ発表会・討論会 （概要）事前に受入先の業界や企業の業務内容・課題等を調べ、目的意識を明確にすること。そのうえで、実習にかかる自己目標を設定すること。	前回の資料を振り返りを行う。
第14回	最終調整と諸注意の伝達 （概要）注意事項の伝達、事故・トラブル等の発生等の対応と連絡体制、実習要項の最終確認（誓約書の作成、日報・報告書・礼状の作成、提出方法等の連絡）	前回の資料を振り返りを行う。
第15回	受入先業種別グループ報告会（在学生、教職員に公開）	報告会に向けた準備を行う。

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
地域情報発信論（前期集中）
担当教員氏名
広谷 大助 藤井 宣彰 吉田 倫子
研究室の場所
学生便覧参照
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
対面授業（状況によってはオンライン（リアルタイム）で実施） 前期集中講義（4日間。2025年8月25日（月）～8月28日（木）の予定） サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
地域創生学科（旧学部国際文化学科，健康科学科，経営学科，経営情報学科を含む） 2～4年次対象
免許等指定科目
キーワード

新聞，取材，ディベート，ディスカッション，記事，グループワーク，プレゼンテーション
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ
【授業の目標】 知能・技能の観点 ①自分で考える：授業内容や関連する新たな内容に対して，自分で考え，理解し説明することができる 思考力・判断力・表現力の観点 ②調べる：必要な情報を適切な方法で収集し，活用しやすい内容に整理できる。 ③文章を構成する：自分の考えを正確にわかりやすく，そして説得力ある形で文章にすることができる。 ④プレゼンテーション力：自分の考えを正確にわかりやすく説明でき，質問や批判に適切に対応できる。 ⑤コミュニケーション力：他の人の意見を聞き，その内容を理解した上で，積極的に自分の意見を述べることができる。 主体性・協調性の観点 ⑥関心度：テーマについて関心があり，テーマについて更に深く掘り下げたいと思っている。 ⑦問題を発見する・問いを立てる：新たな課題を発見することができる。あるいは，どんなことを掘り下げればよいかという問いを設定し，その解決をはかることができる。 ⑧協調性：他の人の意見を聞き，その上で，ともに問題について考えることができる。また，グループの他の人と協働して作業をすることができる。 ⑨リーダーシップ：グループ内の異なる主張や対立を把握した上で，自ら率先してメンバーに問いかけ，グループ内の意見をとりまとめることができる。また，グループメンバーの積極的な参加を促すような発言や行動ができる。 【カリキュラム上の位置づけ】 全学共通教育科目・地域課題
授業の内容
新聞で報じられた地域の情報を素材として，新聞の読み方，取材対象の見方，記事作成の手法を学ぶとともに，新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み，課題を設定した上で，現地へ出向いて取材し，意見交換を経て記事をまとめるなど，地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに，グループで課題解決への提案をまとめ，プレゼンテーションを行うことを通じて議論を深める。
成績評価の方法
課題レポート（50％）（到達目標①②③⑥⑦） グループ討議，ポスター発表を含む，授業への参加度（50％）（到達目標④⑤⑧⑨） なお，単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする
テキスト
事前に配付される新聞記事を用いる
参考文献
適宜紹介する
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
日頃より新聞に親しみ，幅広く地域の情報に触れるとともに，報じられている内容に関する情報を積極的に集め，自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は事前説明会（7月上中旬にオンライン(Teams)にて開催）にて説明する。事前説明会には必ず参加すること。参加がない場合は受講を認めない。 また，本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため，4日間全ての出席が必須となる。よって，1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお，フィールドワークにかかる費用及び試読期間中の新聞購読代金（250円の予定）は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により，取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。

授業計画
授業計画
授業の流れは概ね次のとおり（一部変更の可能性あり） 事前課題：試読期間（7月下旬）に配付された新聞を読み，記事を選んで概要をまとめ，意見を述べる

- 第1日：オリエンテーション，事前課題の確認，テーマに関する講義
第2日：取材計画，取材実習（フィールドワーク），記事風レポート作成
第3日：記事風レポート発表，グループ討議，プレゼンテーション準備
第4日：プレゼンテーション最終準備，プレゼンテーション，振り返り討議

期間中の課題：翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む

事後課題：授業で学び得たことを踏まえて，新たな課題を発見し，レポートをまとめる

シラバス備考

URLリンク

科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

【科目ルーブリック改訂案】「地域情報発信論」.pdf

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
マーケティング概論（Q3）
担当教員氏名
粟島 浩二
研究室の場所
1 6 4 8 研究室
連絡先電話番号
内線 9 8 3 6
オフィスアワー
メールやTeamsのチャットにより適時
E-mail/HP
awashima@pu-hiroshima.ac.jp
授業形態
対面
授業の形式・方式
対面形式の授業になります。 授業の詳細につきましては、第1回目のイントロダクションで説明しますので、履修希望者は必ず出席してください。尚、理解度に応じてシラバスの一部を変更することがあります。campus-Xs（教学ポータル）での掲示を見落とさないようにしてください。Teamsのクラスチームを作成します。作成したら、コードをメールで履修者予定者全員に送ります。授業のレジュメはTeamsのチームファイルにUPLします。（授業開講前日正午）
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
地域創生学部地域創生学科（選択）
履修要件
地域創生学部地域創生学科1年生配当科目（学部学科共通科目）
免許等指定科目
キーワード
マーケティング・コンセプト、顧客価値と顧客満足、環境分析、マーケティング・マネジメント、消費者心理、STP、ブランド戦略、サービス・マネジメント
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ

本講義の目標は次の3点である。

①統合的マーケティングの本質を理論体系から理解できる。

②実際の企業活動としてのマーケティングが我々の生活と密接に関連していることを理解できる。

③以上の理論と実践の両面からマーケティングのマネジメントについて論理的に思考し、表現をする能力やスキルを習得する。

経営系分野の入門編として、2年生配当以降のマネジメント分野の専門科目と連動しているが、学部学科共通科目という位置づけであり、この科目だけを履修することだけでも、十分に社会でマネジメントに携わる能力の一助となると考える。

授業の内容

モダン・マーケティング論の基礎を理解した上で、より実践的なマーケティング戦略の立案について事例をつかって解説する。基本的概念として、マーケティング・コンセプト、顧客価値と顧客満足、戦略計画、環境分析、消費者・購買者分析、競合分析、マーケティングのSTPとブランド戦略、コミュニケーション戦略、サービスなどを取り上げます。授業はテキスト：石井淳蔵他編著[2019]『1からのマーケティング第4版』硯学舎。で整理してある理論の解説と身近な企業や商品によるケーススタディを組み合わせることで理解を深める。

成績評価の方法

・中間レポート30%（主に授業目標①、モダンマーケティングに対する理論的理解）

・最終試験40%（主に授業目標③、理論と実践の両面からマーケティングを理解し、表現する）

・毎時限「課題」30%（主に授業目標②、私たちの生活の中から身近な事例でマーケティングを理解する）

（合計100点満点）成績評価は2/3以上の出席が必要条件となる。最終試験は講義室で通常試験を実施する。（持ち込み不可）出題の傾向や対策は講義中に適時指示を行なう。

テキスト

石井淳蔵、廣田章光、清水信年編著（2019）『1からのマーケティング第4版』硯学舎。

参考文献

備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)

テキストは必ず『1からのマーケティング第4版』を用意してください。3版までの内容は全く異なるため要注意。授業の内容は、ほぼテキスト通りに進行するので、あらかじめテキストを購入しておいてください。レポートは、授業内容に沿った理論的理解を問う。AI利用やネットからコピー＆ペーストした安易なものは評価の対象となりません。授業内で取り上げた事例やテキストの内容に合致していない場合は評価できません。レジュメは毎時配布します。試験やレポート対策として大事に保管してください。毎時学生証での出席確認を行いますので、学生証を必ず持参してください。提示できない場合は欠席となることがあります。

【実戦経験を生かした実践的な教育について】

民間企業におけるマーケティング・マネジメントの実践経験のある教員が、その経験を生かして、豊富な事例からマーケティングの理論的フレームワークと活用を解説します。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	マーケティング発想の経営	テキストに目を通しておく
第2回	マーケティング論の成り立ち	テキストに目を通しておく
第3回	マーケティングの基本概念	「クラフトボス」の事例を理解しておく
第4回	製品のマネジメント	日清「カレー飯」の事例を理解しておく
第5回	価格のマネジメント	明治「ザ・チョコレート」の事例を理解しておく
第6回	広告のマネジメント	P&G「ファブリーズ」の事例を理解しておく
第7回	チャンネルのマネジメント	資生堂「アネッサ」の事例を理解しておく
第8回	サプライチェーンのマネジメント	赤城乳業「ガリガリ君」の事例を理解しておく
第9回	営業のマネジメント	サントリーの営業の事例を理解しておく
第10回	顧客関係のマネジメント	「スノーピーク」の事例を理解しておく
第11回	ビジネスモデルのマネジメント	タニタの製品開発の事例を理解しておく
第12回	顧客理解のマネジメント	マツダ「CXシリーズ」の事例を理解しておく
第13回	ブランド構築のマネジメント	ネスレ「キットカット」の事例を理解しておく
第14回	サービス・マーケティングのマネジメント マーケティング概論の総集編	・「TDRとUSJ」の事例を理解しておく ・ノートやレジュメの見直し、最終試験対策
第15回	最終試験	・対面式、持ち込み物なし、筆記試験
授業計画		

シラバス備考
受講生の理解度に応じてシラバスを変更する可能性があります。
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
基礎情報学入門（Q4）
担当教員氏名
小川 仁士
研究室の場所
広島キャンパス 1548研究室
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
授業日程に従ってTeams上で配布する資料を使って講義を実施する。 学生は、授業への出席、確認問題、課題レポートおよび定期試験の受験が義務付けられる。
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
地域創生学部 1 年次対象
免許等指定科目
キーワード
デジタル、CPU、メモリ、OS、アルゴリズム、インターネット
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ

カリキュラム上の位置づけ： 本科目は地域創生学部の学部学科共通科目に区分される科目である。 情報学を学んでいく上で必要となる「コンピュータ・プログラム・ネットワーク・情報システムに関する基礎知識の習得」を目的としている。 学習到達目標： 1. コンピュータの仕組みについて説明できる。（知識・技能） 2. 情報通信の仕組みについて説明できる。（知識・技能） 3. 情報システムの開発工程、セキュリティについて説明できる。（知識・技能）
授業の内容
本科目では、特に情報学に初めて触れる人を対象に、基礎的事項を網羅的に解説する。具体的には、情報の概念およびコンピュータ上で情報がどのように表現され扱われているかについて、ハードウェアとソフトウェアの観点から講義する。また、情報システムの開発プロセス、ネットワークとセキュリティ、情報システム運用におけるサービスマネジメントに関する基本事項についても講義する。
成績評価の方法
課題レポート50点（到達目標1、2、3）、定期試験50点（到達目標1、2、3）
テキスト
毎回事前にTeams上で資料を配布する。
参考文献
井内善臣ほか 著『情報科学の基礎 改訂版』実教出版、2010 その他、必要に応じて紹介する。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
授業外での積極的な予習・復習に努めること。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 自動車部品メーカーの設計開発部門で勤務経験のある教員が、その経験を活かして、コンピュータ・プログラム・ネットワーク・情報システムなどに関する基礎知識について解説する。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	ガイダンス	情報学について調べておくこと。
第2回	情報の概念 知識・情報・データ、アナログとデジタル、エントロピー、確認問題	左記の事項について予習しておくこと。
第3回	文字と数値の表現 符号化、2進数、補数、浮動小数点、確認問題	前の週の確認問題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第4回	論理回路 論理変数と論理演算、ド・モルガンの定理、主加法標準形、確認問題	左記の事項について予習しておくこと。
第5回	コンピュータの構成 CPU、アセンブラ、主記憶、補助記憶、確認問題	前の週の確認問題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第6回	オペレーティングシステム プロセス管理、記憶管理、ファイル管理、入出力管理、確認問題	左記の事項について予習しておくこと。
第7回	プログラムと開発言語 低水準言語と高水準言語、手続き型プログラミング言語、確認問題	前の週の確認問題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第8回	アルゴリズム 順次処理、選択処理、繰り返し処理、フローチャート、確認問題	左記の事項について予習しておくこと。
第9回	システム開発プロセス 要件定義、外部設計、内部設計、システム開発モデル、確認問題	前の週の確認問題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第10回	データベース データモデル、関係モデル、正規化、関係代数、SQL、確認問題	左記の事項について予習しておくこと。
第11回	コンピュータネットワーク クライアント・サーバ、LAN・WAN、回線交換・パケット交換方式、確認問題	前の週の確認問題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第12回	インターネット TCP/IP、IPアドレス、MACアドレス、ルーティング、DNS、WWW、確認問題	左記の事項について予習しておくこと。
第13回	情報セキュリティと法制度 不正アクセス、マルウェア、標的型攻撃、暗号化、個人情報保護、確認問題	前の週の確認問題に取組み復習しておくこと。 左記の事項について予習しておくこと。
第14回	ITサービスマネジメント サービスデザイン、サービスオペレーション、確認問題	左記の事項について予習しておくこと。

第15回	まとめ	前の週の確認問題に取り組み復習しておくこと。
第16回	定期試験 第2回～第14回までの範囲から出題	第2回～第14回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。
授業計画		
他学部 of 学生およびWWLの科目等履修生向けの授業は、履修希望者が居た場合、オンライン（リアルタイム）授業を週2回6限に設定する。		
シラバス備考		
URLリンク		
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください		

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
データ分析とプログラミング（Q4）
担当教員氏名
野呂 正明
研究室の場所
広島キャンパス1643研究室
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
随時（他の用事とのバッティングを避けるため、メールやTeamsで予約することが望ましい）
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
・毎回1時間程度は講義を行い、その後、小テストを行う。 ・プログラミングやデータベースについては、実際にプログラミングやデータベースの操作をコンピュータを用いて行ってもらう。 ・小テストや演習の結果をオンラインで提出してもらう。 ・期末テストと提出物の採点結果をあわせて評価する
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
履修登録者が、使用する教室の収容人数を超える場合は抽選で履修者を決定する。
免許等指定科目
キーワード
数理，データサイエンス，データエンジニアリング，データ分析，プログラミング
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ

カリキュラム上の位置づけ： ・数理・データサイエンスにおける，データから意味を抽出し，他者に伝える能力を身につけること，データ分析のためのプログラムを作成するための基礎能力を修得すること。
学修の到達目標： ①知識・技能の観点「データを持つ意味を数式などで明確にする方法および，データをわかりやすく可視化する方法を理解できる」 ②思考・判断・表現の観点「実際のデータを分析し，データの持つ特性を他者にわかりやすく可視化することができる」
授業の内容
最初に，データサイエンスとデータエンジニアリングのために必要なプログラミングとデータベースの基本的なコンセプトについて学習する。これにより，非常に簡単なプログラミングやデータベースの操作を可能にする。これに続けて，データサイエンスの基礎となる数学の知識を学んだ後，データの分析手法を学習すると共に，演習で実際に行うことで身につける。
成績評価の方法
・筆記試験 40点(到達目標①) ・小テストおよび演習 60点(到達目標①②)
テキスト
北川，竹村編，赤穂他著，データサイエンス入門シリーズ 応応用基礎としてのデータサイエンス 改訂第2版 AI×データ活用の実践，講談社，2025年
参考文献
講義の中で紹介する。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
・毎回の小テストは締切後は期末テストの演習として使えるように設定を変更するため，期末テストの演習として活用してください。 ・期末テストは紙資料の持ち込みを許可するため，配布資料，小テストやその正解は印刷すること。
【実務経験を活かした実践的な教育について】 ICTメーカの研究所および開発部門での勤務経験のある教員が，その経験を活かし，データサイエンスとデータエンジニアリングのために必要なプログラミング，データベース活用，データ分析の基本的な手法を演習を併用して解説する。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	1.1 データ駆動型社会とデータ分析の進め方 ・データ駆動型社会とSociety 5.0 ・データサイエンス活用事例 ・データ分析の進め方（仮説検証サイクル）	・データサイエンスが活用されている事例（ビジネス，サービス）を調べておくこと
第2回	2.1 ビッグデータとデータエンジニアリング ・情報通信技術(ICT)の進展とビッグデータ ・コンピュータで扱うデータ ・データガバナンス	・データガバナンスについて調べておくこと。
第3回	2.1 ビッグデータとデータエンジニアリング(続き) ・Internet of Things (IoT) ・ビッグデータ活用事例 ・コンピュータ,ネットワークの仕組み ・データの収集	・自分の身の回りでインターネットにつながっている機器を探しておくこと
第4回	2.2 データ表現，プログラミング基礎，アルゴリズム基礎(1) ・データ表現 ・プログラミング基礎	・プログラミングについて調べておくこと
第5回	2.2 データ表現，プログラミング基礎，アルゴリズム基礎(2) ・アルゴリズム基礎	・アルゴリズムと計算量について調べておくこと
第6回	2.2 データ表現，プログラミング基礎，アルゴリズム基礎(3) ・プログラミング演習	・データの並び替え方法，データの探索について調べておくこと
第7回	2.3 データの収集と加工，データベース ・データの整形・加工 ・データの集計 ・データベース管理システムの利用	・データベースについて調べておくこと

第8回	2.3 データの収集と加工, データベース ・データベース演習	・マイクロソフトAccessについて調べておくこと。
第9回	2.4 ITセキュリティ ・情報セキュリティの基礎概念 ・暗号化 ・電子署名 ・認証 ・プライバシー保護	・暗号, 電子署名, 認証について調べておくこと
第10回	1.2 データの記述 ・種々のデータ ・基本統計量 (代表値, 散らばりの指標) ・量的×量的データの要約	・平均値, 標準偏差, 相関係数について調べておくこと
第11回	1.3 データの可視化 ・ヒストグラム, パレート図, ヒートマップ他 ・ビッグデータの可視化	・ヒストグラムについて調べておくこと
第12回	1.4 データ分析の手法(1) ・単回帰分析 ・最小二乗法 ・重回帰分析	・一次関数, 最小二乗法について調べておくこと
第13回	1.4 データ分析の手法(2) ・ロジスティック回帰分析 ・時系列データ分析 ・アソシエーション分析	・時系列データ分析, アソシエーション分析について調べておくこと
第14回	1.4 データ分析の手法(2) ・クラスター分析	・クラスター分析を調べておくこと
第15回	1.5 数学基礎 ・微分積分基礎 ・線形代数基礎 (ベクトル, 行列) ・確率・統計基礎 (順列, 組合せ, 確率)	・微分, 積分, ベクトル, 行列, 順列, 組合せ, 確率について調べておくこと
第16回	期末テスト	

授業計画

シラバス備考

URLリンク

科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
食品加工学（Q3）
担当教員氏名
谷本 昌太
研究室の場所
広島キャンパス 1536研究室
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
特に定めていません。研究室に来て声をかけてみてください。
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
対面授業。授業日程に従って、講義形式で実施する。1回の講義（2時間）について、学生の自習4時間を想定した授業を行う。ワークシート・復習毎週コメントシート・レポートを課し、次週の授業開始時に提出させる。学生は、授業に出席し、上記課題を作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
必修
履修要件
健康科学コース 1年次対象
免許等指定科目
管理栄養士国家試験受験資格に係る必修
キーワード
食品加工法，食品の保存法，加工食品の規格・表示
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ

管理栄養士として必要となる食品加工の基礎的知識を身につけることを目的としている。また、本科目の目標は、下記の項目についてできることである。知識・技能の観点：（１）食品加工の目的について説明できる。（２）原料の食品加工特性や加工方法を説明できる。（３）食品の保存方法の原理について説明できる。（４）食品の規格・表示について説明できる。本科目は、健康科学コース科の専門科目・食の分野に区分されている。一方、管理栄養士養成施設のカリキュラムには、専門基礎分野の教育内容の一つとして「食べ物と健康」の規定があり、本科目は当該分野の主要な科目の一つとして位置づけられている。
授業の内容
食品加工の目的、意義、原理、農産食品の加工、水畜産食品の加工、畜産食品の加工、油脂およびその加工品、発酵食品の製造、食品貯蔵の原理、包装、加工食品の表示・規格について解説する。
成績評価の方法
期末試験（40％）、中間試験（40％）、ワークシート、コメントシート、レポート（20％）の結果に基づいて総合的に評価される。中間および期末試験は指定された試験日の授業時間（60分）内で実施する。
テキスト
食品加工貯蔵学（新スタンダード栄養・食物シリーズ7）東京化学同人 ISBN：9784807916672 食品学（新スタンダード栄養・食物シリーズ5）（第2版）東京化学同人 ISBN：9784807916832
参考文献
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
履修者は、必ず予習・復習をして授業に臨むこと。授業に関する連絡は、正式には教学ポータルのお知らせ配信、教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。 【実務経験を活かした実践的な教育について】本授業は、公設の研究機関において、食品関係の中小企業を指導してきた教員がその経験を踏まえて、食品加工および保存の考え方について解説する。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	授業のガイダンスをする。食品加工の目的、意義、原理について詳しく説明する。植物性食品の加工（p11-p15）について詳しく説明する。	テキストの該当する箇所の予習をし、あらかじめ配布したワークシートの穴埋めをして授業開始までにTeamsに提出する。授業後にわからないこと、授業の気づき、教科書の内容について復習しまとめたこと、さらに調べたことなどをコメントシート（Wordで500字以上、学籍番号、名前はヘッダーに）として提出する。尚、コメントシートにはサイエンスチャンネル THE MAKING http://sciencechannel.jst.go.jp/B980601/index.html の食品加工の番組を1つ以上視聴し、これについても記述する。コメントシートは、授業の行った次の週のまでにTeamsに提出する。ワークシートの提出は、プリントアウトしたワークシートに手書きで穴埋めを行いこれを写真に撮って提出も可とする。過去の授業の録画がStreamに保存されています。それを見て予習をしてもかまいません。
第2回	植物性食品の加工（p16-p26 2・2・2 大豆の成分まで）について詳しく説明する。	テキストの該当する箇所の予習をし、あらかじめ配布したワークシートの穴埋めをして授業開始までにTeamsに提出する。授業後にわからないこと、授業の気づき、教科書の内容について復習しまとめたこと、さらに調べたことなどをコメントシート（Wordで500字以上、学籍番号、名前はヘッダーに）として提出する。尚、コメントシートにはサイエンスチャンネル THE MAKING http://sciencechannel.jst.go.jp/B980601/index.html の食品加工の番組を1つ以上視聴し、これについても記述する。コメントシートは、授業の行った次の週のまでにTeamsに提出する。ワークシートの提出は、プリントアウトしたワークシートに手書きで穴埋めを行いこれを写真に撮って提出も可とする。過去の授業の録画がStreamに保存されています。それを見て予習をしてもかまいません。
第3回	植物性食品の加工（p26-p37）について詳しく説明する。	テキストの該当する箇所の予習をし、あらかじめ配布したワークシートの穴埋めをして授業開始までにTeamsに提出する。授業後にわからないこと、授業の気づき、教科書の内容について復習しまとめたこと、さらに調べたことなどをコメントシート（Wordで

		500字以上、学籍番号、名前はヘッダーに）として提出する。尚、コメントシートにはサイエンス チャンネル THE MAKING http://sciencechannel.jst.go.jp/B980601/index.html の食品加工の番組を1つ以上視聴し、これについても記述する。コメントシートは、授業の行った次の週のまでにTeamsに提出する。ワークシートの提出は、プリントアウトしたワークシートに手書きで穴埋めを行いこれを写真に撮って提出も可とする。過去の授業の録画がStreamに保存されています。それを見て予習をしてもかまいません。
第4回	植物性食品の加工（p38-51）について詳しく説明する。	テキストの該当する箇所の予習をし、あらかじめ配布したワークシートの穴埋めをして授業開始までにTeamsに提出する。授業後にわからないこと、授業の気づき、教科書の内容について復習しまとめたこと、さらに調べたことなどをコメントシート（Wordで500字以上、学籍番号、名前はヘッダーに）として提出する。尚、コメントシートにはサイエンス チャンネル THE MAKING http://sciencechannel.jst.go.jp/B980601/index.html の食品加工の番組を1つ以上視聴し、これについても記述する。コメントシートは、授業の行った次の週のまでにTeamsに提出する。ワークシートの提出は、プリントアウトしたワークシートに手書きで穴埋めを行いこれを写真に撮って提出も可とする。過去の授業の録画がStreamに保存されています。それを見て予習をしてもかまいません。
第5回	動物性食品の加工（p52-p64）について詳しく説明する。	テキストの該当する箇所の予習をし、あらかじめ配布したワークシートの穴埋めをして授業開始までにTeamsに提出する。授業後にわからないこと、授業の気づき、教科書の内容について復習しまとめたこと、さらに調べたことなどをコメントシート（Wordで500字以上、学籍番号、名前はヘッダーに）として提出する。尚、コメントシートにはサイエンス チャンネル THE MAKING http://sciencechannel.jst.go.jp/B980601/index.html の食品加工の番組を1つ以上視聴し、これについても記述する。コメントシートは、授業の行った次の週のまでにTeamsに提出する。ワークシートの提出は、プリントアウトしたワークシートに手書きで穴埋めを行いこれを写真に撮って提出も可とする。過去の授業の録画がStreamに保存されています。それを見て予習をしてもかまいません。
第6回	動物性食品の加工（p65-74）について詳しく説明する。	テキストの該当する箇所の予習をし、あらかじめ配布したワークシートの穴埋めをして授業開始までにTeamsに提出する。授業後にわからないこと、授業の気づき、教科書の内容について復習しまとめたこと、さらに調べたことなどをコメントシート（Wordで500字以上、学籍番号、名前はヘッダーに）として提出する。尚、コメントシートにはサイエンス チャンネル THE MAKING http://sciencechannel.jst.go.jp/B980601/index.html の食品加工の番組を1つ以上視聴し、これについても記述する。コメントシートは、授業の行った次の週のまでにTeamsに提出する。ワークシートの提出は、プリントアウトしたワークシートに手書きで穴埋めを行いこれを写真に撮って提出も可とする。過去の授業の録画がStreamに保存されています。それを見て予習をしてもかまいません。
第7回	動物性食品の加工（p75-85）について詳しく説明する。	テキストの該当する箇所の予習をし、あらかじめ配布したワークシートの穴埋めをして授業開始までにTeamsに提出する。授業後にわからないこと、授業の気づき、教科書の内容について復習しまとめたこと、さらに調べたことなどをコメントシート（Wordで500字以上、学籍番号、名前はヘッダーに）として提出する。尚、コメントシートにはサイエンス チャンネル THE MAKING http://sciencechannel.jst.go.jp/B980601/index.html の食品加工の番組を1つ以上視聴し、これについても記述する。コメントシートは、授業の行った次の週のまでにTeamsに提出する。ワークシートの提出は、プリントアウトしたワークシートに手書きで穴埋めを行いこれを写真に撮って提出も可とする。過去の授業の録画がStreamに保存されています。それを見て予習をしてもかまいません。
第8回	中間試験。前半のまとめを行う。	テキストの該当する箇所の予習をし、あらかじめ配布したワークシートの穴埋めをして授業開始までにTeamsに提出する。授業後にわからないこと、授業の気づき、教科書の内容について復習しまとめたこと、さらに調べたことなどをコメントシート（Wordで

		500字以上、学籍番号、名前はヘッダーに）として提出する。尚、コメントシートにはサイエンス チャンネル THE MAKING http://sciencechannel.jst.go.jp/B980601/index.html の食品加工の番組を1つ以上視聴し、これについても記述する。コメントシートは、授業の行った次の週のまでにTeamsに提出する。ワークシートの提出は、プリントアウトしたワークシートに手書きで穴埋めを行いこれを写真に撮って提出も可とする。過去の授業の録画がStreamに保存されています。それを見て予習をしてもかまいません。
第9回	油脂およびその加工品について詳しく説明する。	テキストの該当する箇所の予習をし、あらかじめ配布したワークシートの穴埋めをして授業開始までにTeamsに提出する。授業後にわからないこと、授業の気づき、教科書の内容について復習しとめたこと、さらに調べたことなどをコメントシート（Wordで500字以上、学籍番号、名前はヘッダーに）として提出する。尚、コメントシートにはサイエンス チャンネル THE MAKING http://sciencechannel.jst.go.jp/B980601/index.html の食品加工の番組を1つ以上視聴し、これについても記述する。コメントシートは、授業の行った次の週のまでにTeamsに提出する。ワークシートの提出は、プリントアウトしたワークシートに手書きで穴埋めを行いこれを写真に撮って提出も可とする。過去の授業の録画がStreamに保存されています。それを見て予習をしてもかまいません。
第10回	調味料、嗜好品について詳しく説明する。	テキストの該当する箇所の予習をし、あらかじめ配布したワークシートの穴埋めをして授業開始までにTeamsに提出する。授業後にわからないこと、授業の気づき、教科書の内容について復習しとめたこと、さらに調べたことなどをコメントシート（Wordで500字以上、学籍番号、名前はヘッダーに）として提出する。尚、コメントシートにはサイエンス チャンネル THE MAKING http://sciencechannel.jst.go.jp/B980601/index.html の食品加工の番組を1つ以上視聴し、これについても記述する。コメントシートは、授業の行った次の週のまでにTeamsに提出する。ワークシートの提出は、プリントアウトしたワークシートに手書きで穴埋めを行いこれを写真に撮って提出も可とする。過去の授業の録画がStreamに保存されています。それを見て予習をしてもかまいません。
第11回	貯蔵の劣化要因、貯蔵法各論（p 143 8・1・4 乾燥と食品成分の品質まで）について詳しく説明する。	テキストの該当する箇所の予習をし、あらかじめ配布したワークシートの穴埋めをして授業開始までにTeamsに提出する。授業後にわからないこと、授業の気づき、教科書の内容について復習しとめたこと、さらに調べたことなどをコメントシート（Wordで500字以上、学籍番号、名前はヘッダーに）として提出する。尚、コメントシートにはサイエンス チャンネル THE MAKING http://sciencechannel.jst.go.jp/B980601/index.html の食品加工の番組を1つ以上視聴し、これについても記述する。コメントシートは、授業の行った次の週のまでにTeamsに提出する。ワークシートの提出は、プリントアウトしたワークシートに手書きで穴埋めを行いこれを写真に撮って提出も可とする。過去の授業の録画がStreamに保存されています。それを見て予習をしてもかまいません。
第12回	貯蔵法各論（p 143-158）について詳しく説明する。	テキストの該当する箇所の予習をし、あらかじめ配布したワークシートの穴埋めをして授業開始までにTeamsに提出する。授業後にわからないこと、授業の気づき、教科書の内容について復習しとめたこと、さらに調べたことなどをコメントシート（Wordで500字以上、学籍番号、名前はヘッダーに）として提出する。尚、コメントシートにはサイエンス チャンネル THE MAKING http://sciencechannel.jst.go.jp/B980601/index.html の食品加工の番組を1つ以上視聴し、これについても記述する。コメントシートは、授業の行った次の週のまでにTeamsに提出する。ワークシートの提出は、プリントアウトしたワークシートに手書きで穴埋めを行いこれを写真に撮って提出も可とする。過去の授業の録画がStreamに保存されています。それを見て予習をしてもかまいません。
第13回	包装について詳しく説明する。	テキストの該当する箇所の予習をし、あらかじめ配布したワークシートの穴埋めをして授業開始までにTeamsに提出する。授業後にわからないこと、授業の気づき、教科書の内容について復習しとめたこと、さらに調べたことなどをコメントシート（Wordで

		500字以上、学籍番号、名前はヘッダーに）として提出する。尚、コメントシートにはサイエンス チャンネル THE MAKING http://sciencechannel.jst.go.jp/B980601/index.html の食品加工の番組を1つ以上視聴し、これについても記述する。コメントシートは、授業の行った次の週のまでにTeamsに提出する。ワークシートの提出は、プリントアウトしたワークシートに手書きで穴埋めを行いこれを写真に撮って提出も可とする。過去の授業の録画がStreamに保存されています。それを見て予習をしてもかまいません。
第14回	食品の表示と規格（p233-p245 16・5 栄養成分表示まで）について詳しく説明する。	テキストの該当する箇所の予習をし、あらかじめ配布したワークシートの穴埋めをして授業開始までにTeamsに提出する。授業後にわからないこと、授業の気づき、教科書の内容について復習しまとめたこと、さらに調べたことなどをコメントシート（Wordで500字以上、学籍番号、名前はヘッダーに）として提出する。尚、コメントシートにはサイエンス チャンネル THE MAKING http://sciencechannel.jst.go.jp/B980601/index.html の食品加工の番組を1つ以上視聴し、これについても記述する。コメントシートは、授業の行った次の週のまでにTeamsに提出する。ワークシートの提出は、プリントアウトしたワークシートに手書きで穴埋めを行いこれを写真に撮って提出も可とする。過去の授業の録画がStreamに保存されています。それを見て予習をしてもかまいません。
第15回	食品の表示と規格（p245-p252）について詳しく説明する。	テキストの該当する箇所の予習をし、あらかじめ配布したワークシートの穴埋めをして授業開始までにTeamsに提出する。授業後にわからないこと、授業の気づき、教科書の内容について復習しまとめたこと、さらに調べたことなどをコメントシート（Wordで500字以上、学籍番号、名前はヘッダーに）として提出する。尚、コメントシートにはサイエンス チャンネル THE MAKING http://sciencechannel.jst.go.jp/B980601/index.html の食品加工の番組を1つ以上視聴し、これについても記述する。コメントシートは、授業の行った次の週のまでにTeamsに提出する。ワークシートの提出は、プリントアウトしたワークシートに手書きで穴埋めを行いこれを写真に撮って提出も可とする。過去の授業の録画がStreamに保存されています。それを見て予習をしてもかまいません。
第16回	期末試験。	しっかり勉強しておくこと。

授業計画
シラバス備考
春休み期間中に希望者には工場見学を実施する。ワークシートはTeamsまたは教学ポータルのお知らせ配信を通じてアップロードします。各自でダウンロード、プリントアウト等をしてください。
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

シラバス検索 > 検索結果一覧 > シラバス参照

授業科目名
キャリアビジョン（デベロップメント）Q1(庄原C)
担当教員氏名
魚谷 滋己 原田 淳
研究室の場所
広島キャンパス キャリアセンター
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
随時（事前にメール、チャット、あるいは、電話で連絡し面談の予約をすること）。
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
ハイブリット
授業の形式・方式
対面形式とオンライン（オンデマンド）型式のハイブリッド。授業は配布資料にしたがって進める講義形式と、学生による演習・発表形式を併用して実施する。状況に応じてオンライン形式（リアルタイム・オンデマンド）のみで実施する。受講者数は60人を上限とし、希望者が60人を越えた場合は、3年生以上を優先し、抽選により決定する。
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
全学科 2年次対象
免許等指定科目
キーワード
キャリア開発，論理的思考，チームワーク，プレゼンテーション
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ

本科目では、自分自身のキャリアを形成してゆく見識を身につけると同時に、社会で必要とされる論理的思考力、プレゼンテーション力を身につけることを目標とする。

【到達目標】

＜知識・技能の観点＞

1. 商品企画における戦略的思考について理解している。

2. 日本と海外の違い、多様性について理解している。

3. シナリオライティング、プレゼンテーションの基本について理解している。

＜思考力・判断力・表現力の観点＞

4. 市場の将来変化（働き方、暮らし方）について考え、ターゲットカスタマーにどのような価値を提供するか考えることができる。

＜主体性・協働性の観点＞

5. ブレインストーミングやグループワークに積極的に取り組み、シナリオ作成に貢献する。

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は、全学共通教育科目「キャリア開発」（キャリア）の一つとして位置づけられている。

授業の内容
「グローバル商品企画」をテーマに、グループによる商品企画に取り組む。グループで企画した内容について中間段階と最終段階のプレゼンテーションを実施する。
成績評価の方法
講義中の演習50％，レポート課題20％，最終プレゼンテーション30％で評価する。
テキスト
「グローバル商品企画」のテキストをTeamsからダウンロード。
参考文献
参考文献は適宜紹介する。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
【実務経験を活かした実践的な教育について】 グローバル市場における商品企画の経験を有する教員が、10年後の自動車の商品企画をテーマとして、正解のない課題にチームで取り組む際に必要となるチームビルディングや論理的な思考法について指導する。 チームによる演習が主体となる為、グループワークに協力的でないメンバーの存在は演習の運営や効果に大きな悪影響を及ぼす為、グループワークに積極的な参画の意志のない学生は履修を控える事を薦める。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	オリエンテーション ・講義の目的と概要 ・商品企画の基礎 ・生成AIの活用 ・ループリック記入 ・グループワーク（最近の事例で考える、世界の変化とあなたの生活/人生の関わり）	コースカタログ・シラバスを読んでおく。
第2回	ブレインストーミング ・ブレインストーミング ・グループワーク（新しい文房具を考える）	コースカタログ・シラバスを読んでおく。
第3回	グループワークのためのチームビルディング オンライン（リアルタイム）	オンラインのグループワークに用いるツールに関する説明を読み、ひととおり操作しておく。
第4回	グループワークのためのチームビルディング オンライン（リアルタイム）	オンラインのグループワークに用いるツールに関する説明を読み、ひととおり操作しておく。
第5回	モノ作り発想の限界 ・チーム分け、チーム名決定	講義前日までに、講義資料を読んでおく。
第6回	シナリオライティング ・グループワーク（10年後に自分たちが欲しいクルマ）	講義前日までに、講義資料を読んでおく。
第7回	海外主要市場（米国・欧州・中国）の概要 ・担当市場決定	講義前日までに、ビデオ（主要市場の概要）を視聴しておく。
第8回	海外主要市場（米国・欧州・中国）の概要 ・グループワーク（自分たちの考える、担当市場での働き方と暮らし方の特徴	講義前日までに、ビデオ（主要市場の概要）を視聴しておく。

	(ヒト・モノのモビリティの要素を必ず入れる))	
第9回	グローバルな将来変化シナリオの概要 ・グループワーク（10年後の働き方と暮らし方：自分たちの考える魅力的なキーとなる将来変化）	前回までのグループワークでまとめた内容を整理しておく。
第10回	クルマの変化CASE ・グループワーク（10年後の働き方と暮らし方：自分たちの考える魅力的なキーとなる将来変化）	前回までのグループワークでまとめた内容を整理しておく。
第11回	アイデア発想法 ・グループワーク（将来変化を踏まえたターゲットカスタマー像（新しい働き方と暮らし方、ヒト・モノのモビリティの変化を必ず入れる））	前回までのグループワークでまとめた内容を整理しておく。
第12回	アイデア発想法 ・グループワーク（将来変化を踏まえたターゲットカスタマー像（新しい働き方と暮らし方、ヒト・モノのモビリティの変化を必ず入れる））	前回までのグループワークでまとめた内容を整理しておく。
第13回	プレゼンテーション ・プレゼンテーションの基本	前回までのグループワークでまとめた内容を整理しておく。
第14回	プレゼンテーション ・グループワーク（最終発表に向けたコンセプトシナリオ作成（ターゲットカスタマー → 新しい提供価値 → 実現手段））	前回までのグループワークでまとめた内容を整理しておく。
第15回	最終プレゼンテーションとまとめ ・全チームによる最終プレゼンテーション	講義前日までにプレゼンテーション資料を完成させ提出する。
第16回	最終プレゼンテーションとまとめ ・全チームによる最終プレゼンテーション ・受講生による評価 ・講師による企画例の紹介 ・まとめ（これから必要になる力） ・ループリック記入	講義前日までにプレゼンテーション資料を完成させ提出する。

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ループリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください
ループリック（キャリアビジョン（グローバル商品企画））.pdf

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
インターンシップ通年
担当教員氏名
橋本 温 原田 淳 吉野 智之
研究室の場所
連絡先電話番号
オフィスアワー
E-mail/HP
授業形態
対面
授業の形式・方式
対面授業。通年集中講義。 事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に行う。学生は、原則として、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と実習が義務づけられる。
単位数
2
時間数
60
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
地域資源開発学科，生命環境学科 2・3・4年次対象 生命科学科，環境科学科 2・3年次対象
免許等指定科目
キーワード
自己分析，就業体験，職業選択，職業適性，ビジネスマナー

授業の目標とカリキュラム上の位置づけ この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。 本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対して関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。 【到達目標】 ＜知識・技能の観点＞ 1. ビジネスマナーの基本について理解している。 2. 自己紹介（自己PR）の基本について理解している。 ＜思考力・判断力・表現力の観点＞ 3. 将来の進路・就職について考え、就業体験先について検討する。 ＜主体性・協働性の観点＞ 4. 事前学習で行うペアワーク・グループワークに積極的に参加している。 【カリキュラム上の位置づけ】 本科目は、全学共通教育科目の一つとして位置づけられている。また、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担うものである。
授業の内容 企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。 事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論等を行う。実習は原則として夏期休業期間中の2週間程度とする。 事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。
成績評価の方法 提出書類100点（報告書50%・活動日誌40%・自己評価表10%）で評価する。ただし、実習受入先の評価（10点満点）、および、報告会での発表者（10点満点）や質問回数（2点/回）を加点し、最終的に100点満点で評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。
テキスト
必要に応じて配布する。
参考文献
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等) 履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。 授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の中途での放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	ガイダンス	シラバス・コースカタログを事前に目をとおすこと
第2回	応募手続き等の説明	ガイダンスの内容をよく理解すること
第3回	応募手続きとビジネスマナー等事前学習	前回の復習および就業体験に関する情報を収集すること
第4回	事前学習、グループワーク	就業体験先企業等の情報を得ておくこと
第5回	就業体験	就業体験先企業等について理解をはかり、これまでの復習をしておくこと
第6回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第7回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第8回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第9回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第10回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第11回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと

第12回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第13回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第14回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第15回	事後学習および成果発表準備	就業体験時の記録をまとめておくこと
第16回	事後学習および成果発表	就業体験時の記録をまとめておくこと

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
地域情報発信論Q2前期集中夏季
担当教員氏名
広谷 大助 藤井 宣彰 吉田 倫子
研究室の場所
学生便覧参照
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
対面授業（状況によってはオンライン（リアルタイム）で実施） 前期集中講義（4日間。2025年8月25日（月）～8月28日（木）の予定） サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
地域資源開発学科，生命環境学科（旧学部の生命科学科，環境科学科を含む）2～4年次対象
免許等指定科目
キーワード

新聞，取材，ディベート，ディスカッション，記事，グループワーク，プレゼンテーション

授業の目標とカリキュラム上の位置づけ

【授業の目標】

知能・技能の観点

①自分で考える：授業内容や関連する新たな内容に対して，自分で考え，理解し説明することができる

思考力・判断力・表現力の観点

②調べる：必要な情報を適切な方法で収集し，活用しやすい内容に整理できる。

③文章を構成する：自分の考えを正確にわかりやすく，そして説得力ある形で文章にすることができる。

④プレゼンテーション力：自分の考えを正確にわかりやすく説明でき，質問や批判に適切に対応できる。

⑤コミュニケーション力：他の人の意見を聞き，その内容を理解した上で，積極的に自分の意見を述べることができる。

主体性・協調性の観点

⑥関心度：テーマについて関心があり，テーマについて更に深く掘り下げたいと思っている。

⑦問題を発見する・問いを立てる：新たな課題を発見することができる。あるいは，どんなことを掘り下げればよいかという問いを設定し，その解決をはかることができる。

⑧協調性：他の人の意見を聞き，その上で，ともに問題について考えることができる。また，グループの他の人と協働して作業をすることができる。

⑨リーダーシップ：グループ内の異なる主張や対立を把握した上で，自ら率先してメンバーに問いかけ，グループ内の意見をとりまとめることができる。また，グループメンバーの積極的な参加を促すような発言や行動ができる。

【カリキュラム上の位置づけ】

全学共通教育科目・地域課題

授業の内容

新聞で報じられた地域の情報を素材として，新聞の読み方，取材対象の見方，記事作成の手法を学ぶとともに，新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。

テーマに沿った記事を読み，課題を設定した上で，現地へ出向いて取材し，意見交換を経て記事をまとめるなど，地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに，グループで課題解決への提案をまとめ，プレゼンテーションを行うことを通じて議論を深める。

成績評価の方法

課題レポート（50％）（到達目標①②③⑥⑦）

グループ討議，ポスター発表を含む，授業への参加度（50％）（到達目標④⑤⑧⑨）

なお，単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする

テキスト

事前に配付される新聞記事を用いる

参考文献

適宜紹介する

備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)

日頃より新聞に親しみ，幅広く地域の情報に触れるとともに，報じられている内容に関する情報を積極的に集め，自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。

集中講義の詳細な日程・テーマ等は事前説明会（7月上中旬にオンライン(Teams)にて開催）にて説明する。事前説明会には必ず参加すること。参加がない場合は受講を認めない。

また，本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため，4日間全ての出席が必須となる。よって，1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。

なお，フィールドワークにかかる費用及び試読期間中の新聞購読代金（250円の予定）は自己負担となる。

【実務経験を活かした実践的な教育について】

長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により，取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。

授業計画

授業計画

授業の流れは概ね次のとおり（一部変更の可能性あり）

事前課題：試読期間（7月下旬）に配付された新聞を読み，記事を選んで概要をまとめ，意見を述べる

- 第1日：オリエンテーション，事前課題の確認，テーマに関する講義
第2日：取材計画，取材実習（フィールドワーク），記事風レポート作成
第3日：記事風レポート発表，グループ討議，プレゼンテーション準備
第4日：プレゼンテーション最終準備，プレゼンテーション，振り返り討議

期間中の課題：翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む

事後課題：授業で学び得たことを踏まえて，新たな課題を発見し，レポートをまとめる

シラバス備考

URLリンク

科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

【科目ルーブリック改訂案】「地域情報発信論」.pdf

授業科目名
フィールド科学Q3
担当教員氏名
荻田 信二郎 甲村 浩之 谷垣 悠介 原田 浩幸 朴 壽永 藤田 景子 古山 真一 増田 泰三 馬淵 良太 村田 和賀代 山本 幸弘 吉野 智之
研究室の場所
学生便覧参照
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
随時
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
1回目から7回目は現在大講義室からの対面講義を予定している。期間限定でオンデマンド動画配信を行う場合は別途指示する。 8回目は中間とりまとめと今後の取組み解説、9週目以降は対面授業およびTeams等を活用したディスカッションおよびグループワークを行い、最終的にグループ毎にプレゼンテーションを行う。 実績として各回のFormsで収集した質問や提案を、講義後半で教材に活用して議論を深めると共に、庄原市役所をはじめとした外部講師の方々に「学生の声」として実際にフィードバックする仕組みを整備している。したがって各回を真剣に考えた積極的な回答が望まれる。
単位数
2
時間数
30

学科または専攻ごとの 必修・選択の別
学生便覧参照
履修要件
地域資源開発学科（必修），生命環境学科（選択） 1 年次対象 ＊本科目は，3，4 年次配当の地域課題解決型研究における生物資源科学部独自の履修要件の一部となっています。
免許等指定科目
地域教養ゼミナールは，全学部共通 副専攻プログラム「地域課題解決リーダー養成プログラム」の選択科目であり，認定要件です。詳しくは学生便覧を確認してください。
キーワード
フィールド，中山間地域，地域振興，地域資源，地域自然，食文化，環境保全，6次産業
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ
専門教育科目の学科基礎（その他）であり，入門的内容である。 フィールド科学実習ⅠおよびⅡと共に地域社会の課題を学修することができる。
授業の目標 ①.地域（特に備北地域）の行政，自然，文化，産業等についての概要を説明できる。 ②.自らの得た知識を生かして地域課題解決に関する分析や議論ができる。 ③.自らの得た知識を生かして地域課題解決のアイデアを提案できる。
授業の内容
別途掲示等で指示する。 （学外体験学修のプログラムを実施する場合があります）
成績評価の方法
原則として第1週から4週目（1－8回目）の講義に関しては，毎回Formsで地域課題に対する考察を提出する（60%，到達目標①②）。後半9回目以降は提出済みの考察から地域課題の解決方法をグループ毎に調査・KJ法等を活用して取りまとめ、プレゼンテーションで提案する（40%，到達目標②③）。 詳細は別途指示する。
テキスト
教科書は定めない。配信される動画等は本講義の学修のみに活用し，コピーや二次加工，転送などはしないこと。
参考文献
講義の中で随時紹介する。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
ループリックのレベルを示します。標準的な到達レベル以上をめざしましょう。 【理想的な到達レベル】外部講師の講義内容に基づき，地域の直面する課題についてそのほとんどを適切に説明でき，課題解決に向けた調査や具体的な提案ができる。 【標準的な到達レベル】外部講師の講義内容に基づき，地域の直面する課題について幾つかを説明でき，課題解決に向けた調査や提案ができる。 【未到達のレベル】地域の直面する課題について十分な説明ができない。また課題解決に向けた調査や提案が不十分である。 日頃より地域の自然に親しみ，地域の文化や社会状況に関心を持つこと。 地域との交流事業などに積極的に参加し，地域理解に努めること。 講義には積極的に参加すること。1，2限連続した講義となるため、出席には十分留意すること。 地域資源開発学科の学生は，本講義の単位修得が必須である。 種々のアナウンスおよびレポート提出はWeb上で行うため，配信されるメール連絡や掲示は必ず確認すること。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 地域課題の解決にかかる研究を実施している本学の教員，または，関連する地域の専門家，行政担当者等を外部講師として講義を行う。また，実際に地域の課題に対して解決手段を調査・考察・発表することにより，地域課題解決の実践力をつけるための基礎を指導する。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	ガイダンス（講義取りまとめ代表教員） 庄原市 全体について（外部講師 1） 1週目 1限	シラバス、コースカタログを熟読し、どういう科目なのかを理解して初回到臨すること。
第2回	庄原市 行政について（外部講師 2） 1週目 2限 【対面】	ホームページで、庄原市についてみておくこと。
第3回	庄原市の産業に関する内容（外部講師 3） 2週目 1限	庄原市の産業に関わること（商工会議所、他）、インターネットなどで調べてくること。
第4回	庄原市の産学官等の活動内容の紹介（外部講師 4） 2週目 2限	産官学連携やスマート農業、6次産業等について調べてくること。
第5回	庄原（備北地域）の活性化に関する内容（外部講師 5） 3週目 1限	地域活性化対策の例について調べてくること。
第6回	庄原（備北地域）の観光や自然環境に関する内容（外部講師 6） 3週目 2限	庄原市観光協会や自然について調べてくること。
第7回	庄原（備北地域）に関する内容。OB／OG地方での起業（外部講師 7） 4週目 1限	これまでの講義を参考に庄原（備北地域）について調べてくること。特に6回目の内容も考慮すること。別途指示する。
第8回	中間とりまとめおよび今後の説明（講義取りまとめ代表教員） 4週目 2限	これまでFormsで回答した全員分の質問や考察をフィードバックするので、これらを集計、取りまとめる。
第9回	実践実習（グループワーク 1） 5週目 1限	これまでFormsで回答した全員分の質問や考察をフィードバックするので、これらを集計、取りまとめる。
第10回	実践実習（グループワーク 2） 5週目 2限	これまでFormsで回答した全員分の質問や考察をフィードバックするので、これらを集計、取りまとめる。
第11回	実践実習（グループワーク 3） 6週目 1限	グループ毎にプレゼンテーションを取りまとめて評価を行う。
第12回	実践実習（グループワーク 4） 6週目 2限	グループ毎にプレゼンテーションを取りまとめて評価を行う。
第13回	フィールド実践実習（プレゼン発表） 7週目 1限 【対面】	各班で設定した地域課題に対して、その解決方法を提案するプレゼンテーションを行う。
第14回	フィールド実践実習（プレゼン発表） 7週目 2限 【対面】	各班で設定した地域課題に対して、その解決方法を提案するプレゼンテーションを行う。
第15回	フィールド科学の総まとめ 8週目 1限 【対面】	フィールド科学の講義内容を振り返ると共に、今後の地域課題解決型研究などについて考察する。

授業計画
シラバス備考
本講義は外部講師によるオムニバス形式を主としたものであるため、講師の人選や講義の詳細な内容、については、上記の授業計画から変更となる場合がある。 詳細は事前の掲示および 1 回目のガイダンスで説明するので、必ず出席すること。
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
フィールド科学実習Ⅰ 通年：地域資源開発学科
担当教員氏名
荻田 信二郎 甲村 浩之 谷垣 悠介 原田 浩幸 朴 壽永 藤田 景子 古山 真一 増田 泰三 馬淵 良太 未定 村田 和賀代 山下 泰尚 山本 幸弘 吉野 智之
研究室の場所
学生便覧参照
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
随時（事前にメールにより連絡してください）
E-mail/HP
学生便覧参照 甲村先生、谷垣先生を参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
実習形式。基本的には面接（対面）実施 地域資源開発学科1年生を対象（約40名）に毎週受講により通年で30回開催される。 附属フィールド科学研究センターにおいて、圃場、水田、食品加工場、環境工学棟、植物工場などの施設を活用し、作物栽培、スマート農業、食品加工、環境課題に関わる技術について実地に習得する。さらに、中山間地の実情や農林業・畜産関係施設、地域活性化、6次産業化に関わる事業などについて現場に出向き見学を行う。
単位数
6
時間数
180

学科または専攻ごとの 必修・選択の別
地域資源開発学科／必修
履修要件
地域資源開発学科 1 年次対象(30回, 毎週通年) 本科目は, 3, 4 年次配当の地域課題解決型研究における生物資源科学部独自の履修要件である。
免許等指定科目
食の6次産業プロデューサー (食Pro.) レベル 1・2
キーワード
★【知識・技能】「農」と「食」に関する生産・加工・経営に関して、伝統的な方法から従来の方法、未来を見据えた最新技術に関する基礎知識を身につけている。 【思考力・判断力・表現力】「農」と「食」、経営と地域資源に関する基礎知識と生命科学与環境科学の基礎知識を総合し、柔軟に活用することができる。 【主体性・協働性】「農」と「食」地域資源を総合的に活用する姿勢を身に付け、主体的に対応し、地域創成を担うことができる。 本実習では主に体験学習により、【知識・技能】習得に重きを置く。内容のキーワードは、作物・野菜・果樹・花きおよび水耕栽培等、植物工場・ドローン・環境モニタリング等のスマート農業、食品の加工・衛生管理・分析、6 次産業化・伝統文化・地域産業 (畜産・林業等) の理解
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ
フィールド科学実習 (英語: Field science training) は、「農」「食」の分野に関する6次産業化を含めた基礎知識を習得するための入門的内容の体験学修プログラムである。地域資源開発学科では、並行して国際異文化農業体験研修Ⅰ、2年次にはフィールド科学実習Ⅱと海外研修を含む国際異文化農業体験研修Ⅱ (いずれもシラバスを参照) も必須科目となっている。これらに通ずるためにも重要な体験学修プログラムであることを理解して取り組むこと。 目標 1) 各種作物の栽培技術の概要 (土作り, 定植, 施肥, 支柱,交配・着果促進・摘心・剪定等の栽培管理法) やスマート農業 (植物工場、ドローン、環境モニタリング、撮影アプリ等) を理解する。 目標 2) 食品加工に関する基本技術, 食味官能評価, 食品衛生管理, 色素分析等を理解する。 目標 3) 地域産業の特色, 農林業、畜産などの地域の課題研究, 伝統文化 (餅つき, 焼き芋) , 6 次産業について理解する。 (いずれも備考のルーブリックを参照) 【身につく力】「知識・技能」「主体性・協働性」等 カリキュラムとの関連 Q3で開講する「フィールド科学」も併せて履修することで実際の地域の実情がよく理解できる。
授業の内容
附属フィールド科学教育研究センターの野菜・花き・果樹圃場, 水田, 飼料畑, 食品加工場, 環境工学棟, 植物工場などの施設を活用し, 各種作物の基本的な栽培技術, 病害虫管理, 地域食材や伝統食材の加工法や成分分析, 土壌・植物体の簡易分析、ドローン・遠隔環境計測システム等のスマート農業に関わる技術について実地に習得する。さらに, 中山間地の実情や畜産・林業関係施設, 地域活性化に取り組む事業などについて現場に出向き見学, 調査等を行う。 1日の実習結果について、毎回レポート (A4で1枚程度) をまとめる。作業内容の実施目的 (自分の理解のための目的ではない) 、内容、ポイント、結果をまとめ、考察する。レポートはポータルの課題管理を利用して当日のうちに提出するのが原則。
成績評価の方法
実習態度と毎回のレポートの総合点により評価する (実習態度40%, レポート60%) 。
テキスト
初回到実習の冊子資料を配付するので各回に持参し, 事前に読んでおくこと。また, 必要により随時プリント資料を配布する。参考文献等は, 随時紹介する。
参考文献
フィールド科学教育研究センターの実習教室には, フィールド科学実習Ⅰに関係する多くの蔵書があります。借りて読むことも可能。また, 大学図書館やネット検索ができるルーラル電子図書館 (学内ネットワークに接続されたパソコンから以下にアクセス libd. ruralnet. or. jp) を活用して, 実習で学ぶ視野が広がるよう努力すること。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
「実務経験を活かした実践的教育」本科目は広島県で農業指導職員 (普及、研究、大学校) として勤務経験を持ち、普及指導員資格 (農業、国家資格) も持つ教員が、その経験を活かして栽培等の指導などの総括を行う。また, 指導にあたる専門教育スタッフも農業関連機関や自営農業で実務経験を持つ。 ルーブリックのレベルを示します。理解度はレポートに表れます。標準的な到達レベル以上をめざしましょう。

【理想的な到達レベル】実習内容の各種目的、方法、ポイント、結果についてそのほとんどを説明・考察でき、実践的に作業ができる。

【標準的な到達レベル】実習内容の各種目的、方法、ポイント、結果についてそのいくつかを説明・考察でき、実践的に作業ができる。

【未到達のレベル】実習内容の各種目的、方法、ポイント、結果について説明・考察できない。また

、実践的な作業もできない。

※野外での作業が多いので、動きやすく汚れてもよい服装で参加すること。ハイヒール・スカートなどは禁止。長靴、田靴、軍手や雨ガッパ等はフィールド科学教育研究センターに準備している。また、夏期は帽子を着用し、各自飲料水やタオル等を持参するなどして熱中症の防止に努めること（センターの北側にスポーツ飲料等の自動販売機が設置あり）。マムシが潜む場合があり、草むらには注意すること。また、秋期にはスズメバチが発生することが多く、黒い帽子や黒い服の着用は避ける。秋・冬期の野外作業は気温を考慮して防寒に努めること。花粉症や各種アレルギーについては、自ら注意するとともに、特に症状の重いアレルギー（そばアレルギー等）がある場合は総括担当者に事前に申し出しておくこと。

※※実習時に配布する名札（学科、コース、学籍番号、氏名を記入）を実習時につけること。これは持ち帰らないこと。各自筆記具を準備し、圃場での説明であってもメモを取り、目的や内容の理解に努めること。

※※※授業計画の内容は天候や作物の育ち具合により変更となることがある。

授業計画

回数	授業計画	準備学習
第1回	ガイダンス、マイメロン苗定植・畑作り・マルチ、果樹管理 (甲村・谷垣・藤田)	配布冊子等を事前に確認すること。 圃場の事前準備として必要なことを調べておくこと（事前、事後学修レポート 1時間以上）
第2回	メロン管理（本支柱立て）、果樹管理・摘花 (谷垣・甲村)	配布冊子等で事前にメロン栽培や年間の果樹栽培の流れを確認しておくこと。（事前、事後学修レポート 1時間以上）
第3回	水稻播種、水耕栽培等、果樹管理（りんご摘花） (谷垣・甲村)	配布冊子等を事前に確認すること。 水稻は実習では手植えを行うが、機械植えではどんなことが求められるか調査しておくこと。（事前、事後学修レポート 1時間以上）
第4回	果菜類定植、メロン・果樹管理（ブドウ房づくり、和梨） (谷垣・甲村) 写真技法 (荻田)	配布冊子等を事前に確認すること。 森林に生きる動植物（昆虫含む）にはどんなものがいるか？、どんな役に立ったり、害をなしているか事前に調査しておくこと。また、スマホやカメラを利用した写真撮影技法についても調べておくこと。（事前・事後学修レポート 1時間以上）
第5回	果菜類管理、メロン管理・交配・摘果、果樹管理(ブドウ整房等) (谷垣・藤田)	配布冊子等を事前に確認すること。（事前・事後学修レポート 1時間以上）
第6回	水稻田植え サツマイモ定植、果樹管理（ブドウGA処理、リンゴ袋がけ） (甲村・谷垣・藤田)	配布冊子等を事前に確認すること。 特にサツマイモの特性や利用法について調べておくこと。（事前・事後学修レポート 1時間以上）
第7回	果菜類管理、メロン管理（玉つり）、ブドウGA処理 (谷垣・甲村)	配布冊子等を事前に確認すること。 ジベレリンはどういう由来でどのような性質を持つものか事前に調べておくこと。（事前・事後学修レポート 1時間以上）
第8回	タマネギ収穫調査、メロン・果菜類管理、果樹管理（ブドウ摘粒） (甲村・谷垣)	配布冊子等を事前に確認すること。（事前・事後学修レポート 1時間以上）
第9回	メロン傘かけ、果菜類支柱、圃場片付け、果樹夏季剪定（柿、西圃場ブドウ） (谷垣・藤田)	メロンの傘かけはなぜするのか？。果菜類の支柱や果樹の袋かけが必要な理由を考えておくこと。 夏季剪定とは何か 事前に調べておくこと。（事前・事後学修レポート 1時間以上）
第10回	馬鈴薯収穫調査、水田（防鳥網張り）、果菜類整枝、タマネギ調整 (甲村・谷垣)	タマネギにはどのような種類があり、どんな特性が求められるか事前に調査しておくこと。 バレイショの定植時期、栽培法、品種について事前に調べておくこと。（事前・事後学修レポート 1時間以上）
第11回	メロン・果菜類管理、圃場片付け (谷垣) 病害虫防除法・防除の実際 (奥・甲村)	作物の病害虫にはどんなものがあるか、またこれらの発生に対して農家はどのような対策を取っているのか調べておくこと。（事前・事後学修レポート 1時間以上）
第12回	食品衛生管理・加工 (馬淵) 水耕収穫調整、メロン収穫 (谷垣・甲村)	食品衛生では、日本食品衛生協会の動画 { https://www.youtube.com/watch?v=z7ifn95YVdM&feature=youtu.be } を参照すること。（事前・事後学修レポート 1時間以上）
第13回	牧草栽培（機械による刈取り見学） (農技大) メロン収穫・品質調査 (谷垣)	牧草はどのようにして牛に給餌されるのか事前に調べておくこと。 メロンの品質特性（糖度）やどのようなものを加工品として使うとよいか事前に考えておくこと。（事前・事後学修レポート 1時間以上）

	メロンを使った加工 (吉野・山本)	
第14回	道の駅見学（布野） （村田・朴）	該当する道の駅等のHPを参照すること。2020年度はゆめランド布野。 http://www.pionet.ne.jp/~funo-fureai/ （事前・事後学修レポート 1時間以上）
第15回	各種栽培管理 （甲村 谷垣）	夏季の作業性や収量性の向上にはどのようにしたらよいか考えておくこと。レポートを課します。（事前・事後学修レポート 1時間以上）
第16回	水稻稲刈り・収穫調査、野菜・果樹収穫 (甲村・谷垣・藤田)	農作業事故の低減について事前に調べておくこと。水稻の生育調査にはどのような項目が必要なのか事前に調べておくこと。 （事前・事後学修レポート 1時間以上）

授業計画

天候等の影響により日程、内容が変更となる場合もある。ポータルシステムで連絡しますので注意しておいてください。

シラバス備考

URLリンク

科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

フィールド科学実習 [科目ルーブリック.pdf](#)

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
フィールド科学実習Ⅱ 通年：地域資源開発学科
担当教員氏名
荻田 信二郎 甲村 浩之 谷垣 悠介 原田 浩幸 朴 壽永 藤田 景子 古山 真一 馬淵 良太 未定 村田 和賀代 山本 幸弘 吉野 智之
研究室の場所
甲村 浩之：附属フィールド科学教育研究センター 6501研究室 吉野 智之：4602研究室
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
随時 事前にメールにより連絡してください。
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
自発的な自主学修と現地における実地の実習形式、対面形式を主とする。
単位数
3
時間数
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
地域資源開発学科・必修
履修要件

学生便覧参照
免許等指定科目
キーワード
★【知識・技能】「農」と「食」に関する生産・加工・経営に関して、地域の関係施設に直接おもむき、地域の抱える課題を明らかにするとともに協働してよりよい地域を構築していくことを実践的に体験的に学修するプログラムである。実践的な場で【思考力・判断力・表現力】、【主体性・協働性】を身に付ける。 本実習Ⅱは自主的に現地に赴く、参加型体験学習であり、【知識・技能】習得や実践的な場で【思考力・判断力・表現力】、【主体性・協働性】も身に付けることに重きをおく。内容のキーワードは、地域課題、地域資源発掘、栽培改良、食品加工、教育実践、6次産業化、地域協働、イベント等の企画実践、販売実践、伝統文化、地域の理解等
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ
フィールド科学実習Ⅱ（英語：Applied field science training）は、フィールド科学実習Ⅰ等で学修した「農」と「食」における栽培、食品加工、6次産業化等の知識・技能を活かし、「地域との主体的な連携・協働を通して、より高い実践的な能力を身につける」ことを目標とする。 本科目は、フィールド科学実習Ⅰを履修し、農業（栽培）や食品加工、6次産業化の基礎をある程度学んだ上に位置している。なお、カリキュラムでは地域資源開発学科2年時の学科専門基礎科目に位置し、今後のさらなる専門的な知識、実践力を身につけるための基盤になる。
授業の内容
自主的に各地域や学内で行う実習形式。 地域の団体と連携協働を図りながら、地域課題の解決やイベントなどの企画・実行を実践的に学ぶ。 それぞれの連携先とスケジュールを調整しながら通年で行う。 実習機会ごとに報告書を取りまとめ、各担当教員に送付し、最終的に、プレゼンテーション形式で成果を発表する。
成績評価の方法
各参加回の報告書、連携先への聞き取りやプレゼンテーションで評価する。
テキスト
特になし。複写資料教材を授業時に無料で配布する場合がある。
参考文献
特になし。複写資料教材を授業時に無料で配布する場合がある。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
ルーブリックのレベルを示します。理解度はレポートやプレゼンテーションでの応答に表れます。標準的な到達レベル以上をめざしましょう。 【理想的な到達レベル】地域協働機関等での実践内容の各種目的、方法、主要ポイント、結果についてそのほとんどを説明、とりまとめ、考察ができ、主体的に活動できた。 【標準的な到達レベル】地域協働機関等での実践内容の各種目的、方法、主要ポイント、結果についてそのいくつかを説明、とりまとめ、考察ができ、ほぼ主体的に活動できた。 【未到達のレベル】地域協働機関等での実践内容の各種目的、方法、主要ポイント、結果についてその説明、とりまとめ、考察ができず、積極的な活動も行わなかった。 ※自家用車や公共交通機関を利用して学外に出ることが多いので、交通事故や学外作業時のけが等に気を付けること。学外研修届を提出しておくこと。学外作業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内等での連絡によって行う。学外との連携をするため、大学生としての節度をもって行動すること。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	オリエンテーション 連携テーマを説明する。 実習班や連携先を決定する。	県北地域の地理や産業について調べておくこと。（自分の選ぶテーマについて時間を取ってしっかり調べておくこと）
第2回	集合場所：各連携先等 担当：各教員 専門性の高い実習。各連携先や各教員の指示に従う。ただし、複数で指導する場合がある。	連携先と協議し、準備すること。（事前調査を行い、実地研修後は報告書を毎回まとめておくこと。事前事後学修各1時間）

第3回	集合場所：各連携先等 担当：各教員 専門性の高い実習。各連携先や各教員の指示に従う。ただし、複数で指導する場合がある。	連携先と協議し、準備すること。（事前事後学修各1時間）
第4回	集合場所：各連携先等 担当：各教員 専門性の高い実習。各連携先や各教員の指示に従う。ただし、複数で指導する場合がある。	連携先と協議し、準備すること。（事前事後学修各1時間）
第5回	集合場所：各連携先等 担当：各教員 専門性の高い実習。各連携先や各教員の指示に従う。ただし、複数で指導する場合がある。	連携先と協議し、準備すること。（事前事後学修各1時間）
第6回	集合場所：各連携先等 担当：各教員 専門性の高い実習。各連携先や各教員の指示に従う。ただし、複数で指導する場合がある。	連携先と協議し、準備すること。（事前事後学修各1時間）
第7回	集合場所：各連携先等 担当：各教員 専門性の高い実習。各連携先や各教員の指示に従う。ただし、複数で指導する場合がある。	連携先と協議し、準備すること。（事前事後学修各1時間）
第8回	集合場所：各連携先等 担当：各教員 専門性の高い実習。各連携先や各教員の指示に従う。ただし、複数で指導する場合がある。	連携先と協議し、準備すること。（事前事後学修各1時間）
第9回	集合場所：各連携先等 担当：各教員 専門性の高い実習。各連携先や各教員の指示に従う。ただし、複数で指導する場合がある。	連携先と協議し、準備すること。（事前事後学修各1時間）
第10回	集合場所：各連携先等 担当：各教員 専門性の高い実習。各連携先や各教員の指示に従う。ただし、複数で指導する場合がある。	連携先と協議し、準備すること。（事前事後学修各1時間）
第11回	集合場所：各連携先等 担当：各教員 専門性の高い実習。各連携先や各教員の指示に従う。ただし、複数で指導する場合がある。	連携先と協議し、準備すること。（事前事後学修各1時間）
第12回	集合場所：各連携先等 担当：各教員 専門性の高い実習。各連携先や各教員の指示に従う。ただし、複数で指導する場合がある。	連携先と協議し、準備すること。（事前事後学修各1時間）
第13回	集合場所：各連携先等 担当：各教員 専門性の高い実習。各連携先や各教員の指示に従う。ただし、複数で指導する場合がある。	連携先と協議し、準備すること。（事前事後学修各1時間）
第14回	集合場所：各連携先等 担当：各教員 専門性の高い実習。各連携先や各教員の指示に従う。ただし、複数で指導する場合がある。	連携先と協議し、準備すること。（事前事後学修各1時間）
第15回	プレゼンテーション 成果を報告する。	プレゼンテーション資料を作成すること。（事前事後学修 各2時間以上）

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

--

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
キャリアビジョン（デベロップメント）Q1(庄原C)
担当教員氏名
魚谷 滋己 原田 淳
研究室の場所
広島キャンパス キャリアセンター
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
随時（事前にメール、チャット、あるいは、電話で連絡し面談の予約をすること）。
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
ハイブリット
授業の形式・方式
対面形式とオンライン（オンデマンド）型式のハイブリッド。授業は配布資料にしたがって進める講義形式と、学生による演習・発表形式を併用して実施する。状況に応じてオンライン形式（リアルタイム・オンデマンド）のみで実施する。受講者数は60人を上限とし、希望者が60人を越えた場合は、3年生以上を優先し、抽選により決定する。
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
全学科 2年次対象
免許等指定科目
キーワード
キャリア開発，論理的思考，チームワーク，プレゼンテーション
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ

本科目では、自分自身のキャリアを形成してゆく見識を身につけると同時に、社会で必要とされる論理的思考力、プレゼンテーション力を身につけることを目標とする。

【到達目標】

＜知識・技能の観点＞

1. 商品企画における戦略的思考について理解している。
2. 日本と海外の違い、多様性について理解している。
3. シナリオライティング、プレゼンテーションの基本について理解している。

＜思考力・判断力・表現力の観点＞

4. 市場の将来変化（働き方、暮らし方）について考え、ターゲットカスタマーにどのような価値を提供するか考えることができる。

＜主体性・協働性の観点＞

5. ブレインストーミングやグループワークに積極的に取り組み、シナリオ作成に貢献する。

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は、全学共通教育科目「キャリア開発」（キャリア）の一つとして位置づけられている。

授業の内容

「グローバル商品企画」をテーマに、グループによる商品企画に取り組む。グループで企画した内容について中間段階と最終段階のプレゼンテーションを実施する。

成績評価の方法

講義中の演習50％，レポート課題20％，最終プレゼンテーション30％で評価する。

テキスト

「グローバル商品企画」のテキストをTeamsからダウンロード。

参考文献

参考文献は適宜紹介する。

備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)

【実務経験を活かした実践的な教育について】

グローバル市場における商品企画の経験を有する教員が、10年後の自動車の商品企画をテーマとして、正解のない課題にチームで取り組む際に必要となるチームビルディングや論理的な思考法について指導する。
チームによる演習が主体となる為、グループワークに協力的でないメンバーの存在は演習の運営や効果に大きな悪影響を及ぼす為、グループワークに積極的な参画の意志のない学生は履修を控える事を薦める。

授業計画

回数	授業計画	準備学習
第1回	オリエンテーション ・講義の目的と概要 ・商品企画の基礎 ・生成AIの活用 ・ループリック記入 ・グループワーク（最近の事例で考える、世界の変化とあなたの生活/人生の関わり）	コースカタログ・シラバスを読んでおく。
第2回	ブレインストーミング ・ブレインストーミング ・グループワーク（新しい文房具を考える）	コースカタログ・シラバスを読んでおく。
第3回	グループワークのためのチームビルディング オンライン（リアルタイム）	オンラインのグループワークに用いるツールに関する説明を読み、ひととおり操作しておく。
第4回	グループワークのためのチームビルディング オンライン（リアルタイム）	オンラインのグループワークに用いるツールに関する説明を読み、ひととおり操作しておく。
第5回	モノ作り発想の限界 ・チーム分け、チーム名決定	講義前日までに、講義資料を読んでおく。
第6回	シナリオライティング ・グループワーク（10年後に自分たちが欲しいクルマ）	講義前日までに、講義資料を読んでおく。
第7回	海外主要市場（米国・欧州・中国）の概要 ・担当市場決定	講義前日までに、ビデオ（主要市場の概要）を視聴しておく。
第8回	海外主要市場（米国・欧州・中国）の概要 ・グループワーク（自分たちの考える、担当市場での働き方と暮らし方の特徴	講義前日までに、ビデオ（主要市場の概要）を視聴しておく。

	(ヒト・モノのモビリティの要素を必ず入れる))	
第9回	グローバルな将来変化シナリオの概要 ・グループワーク（10年後の働き方と暮らし方：自分たちの考える魅力的なキーとなる将来変化）	前回までのグループワークでまとめた内容を整理しておく。
第10回	クルマの変化CASE ・グループワーク（10年後の働き方と暮らし方：自分たちの考える魅力的なキーとなる将来変化）	前回までのグループワークでまとめた内容を整理しておく。
第11回	アイデア発想法 ・グループワーク（将来変化を踏まえたターゲットカスタマー像（新しい働き方と暮らし方、ヒト・モノのモビリティの変化を必ず入れる））	前回までのグループワークでまとめた内容を整理しておく。
第12回	アイデア発想法 ・グループワーク（将来変化を踏まえたターゲットカスタマー像（新しい働き方と暮らし方、ヒト・モノのモビリティの変化を必ず入れる））	前回までのグループワークでまとめた内容を整理しておく。
第13回	プレゼンテーション ・プレゼンテーションの基本	前回までのグループワークでまとめた内容を整理しておく。
第14回	プレゼンテーション ・グループワーク（最終発表に向けたコンセプトシナリオ作成（ターゲットカスタマー → 新しい提供価値 → 実現手段））	前回までのグループワークでまとめた内容を整理しておく。
第15回	最終プレゼンテーションとまとめ ・全チームによる最終プレゼンテーション	講義前日までにプレゼンテーション資料を完成させ提出する。
第16回	最終プレゼンテーションとまとめ ・全チームによる最終プレゼンテーション ・受講生による評価 ・講師による企画例の紹介 ・まとめ（これから必要になる力） ・ループリック記入	講義前日までにプレゼンテーション資料を完成させ提出する。

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ループリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください
ループリック（キャリアビジョン（グローバル商品企画））.pdf

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
インターンシップ通年
担当教員氏名
橋本 温 原田 淳 吉野 智之
研究室の場所
連絡先電話番号
オフィスアワー
E-mail/HP
授業形態
対面
授業の形式・方式
対面授業。通年集中講義。 事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に行う。学生は、原則として、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と実習が義務づけられる。
単位数
2
時間数
60
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
地域資源開発学科，生命環境学科 2・3・4年次対象 生命科学科，環境科学科 2・3年次対象
免許等指定科目
キーワード
自己分析，就業体験，職業選択，職業適性，ビジネスマナー

授業の目標とカリキュラム上の位置づけ この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対して関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。 【到達目標】 ＜知識・技能の観点＞ 1. ビジネスマナーの基本について理解している。 2. 自己紹介（自己PR）の基本について理解している。 ＜思考力・判断力・表現力の観点＞ 3. 将来の進路・就職について考え、就業体験先について検討する。 ＜主体性・協働性の観点＞ 4. 事前学習で行うペアワーク・グループワークに積極的に参加している。 【カリキュラム上の位置づけ】 本科目は、全学共通教育科目の一つとして位置づけられている。また、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担うものである。
授業の内容 企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。 事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論等を行う。実習は原則として夏期休業期間中の2週間程度とする。 事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。
成績評価の方法 提出書類100点（報告書50%・活動日誌40%・自己評価表10%）で評価する。ただし、実習受入先の評価（10点満点）、および、報告会での発表者（10点満点）や質問回数（2点/回）を加点し、最終的に100点満点で評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。
テキスト
必要に応じて配布する。
参考文献
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等) 履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。 授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の中途での放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	ガイダンス	シラバス・コースカタログを事前に目をとおすこと
第2回	応募手続き等の説明	ガイダンスの内容をよく理解すること
第3回	応募手続きとビジネスマナー等事前学習	前回の復習および就業体験に関する情報を収集すること
第4回	事前学習、グループワーク	就業体験先企業等の情報を得ておくこと
第5回	就業体験	就業体験先企業等について理解をはかり、これまでの復習をしておくこと
第6回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第7回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第8回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第9回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第10回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第11回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと

第12回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第13回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第14回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第15回	事後学習および成果発表準備	就業体験時の記録をまとめておくこと
第16回	事後学習および成果発表	就業体験時の記録をまとめておくこと

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
地域情報発信論Q2前期集中夏季
担当教員氏名
広谷 大助 藤井 宣彰 吉田 倫子
研究室の場所
学生便覧参照
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
対面授業（状況によってはオンライン（リアルタイム）で実施） 前期集中講義（4日間。2025年8月25日（月）～8月28日（木）の予定） サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
地域資源開発学科，生命環境学科（旧学部の生命科学科，環境科学科を含む）2～4年次対象
免許等指定科目
キーワード

新聞，取材，ディベート，ディスカッション，記事，グループワーク，プレゼンテーション
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ
【授業の目標】 知能・技能の観点 ①自分で考える：授業内容や関連する新たな内容に対して，自分で考え，理解し説明することができる 思考力・判断力・表現力の観点 ②調べる：必要な情報を適切な方法で収集し，活用しやすい内容に整理できる。 ③文章を構成する：自分の考えを正確にわかりやすく，そして説得力ある形で文章にすることができる。 ④プレゼンテーション力：自分の考えを正確にわかりやすく説明でき，質問や批判に適切に対応できる。 ⑤コミュニケーション力：他の人の意見を聞き，その内容を理解した上で，積極的に自分の意見を述べるができる。 主体性・協調性の観点 ⑥関心度：テーマについて関心があり，テーマについて更に深く掘り下げたいと思っている。 ⑦問題を発見する・問いを立てる：新たな課題を発見することができる。あるいは，どんなことを掘り下げればよいかという問いを設定し，その解決をはかることができる。 ⑧協調性：他の人の意見を聞き，その上で，ともに問題について考えることができる。また，グループの他の人と協働して作業をすることができる。 ⑨リーダーシップ：グループ内の異なる主張や対立を把握した上で，自ら率先してメンバーに問いかけ，グループ内の意見をとりまとめることができる。また，グループメンバーの積極的な参加を促すような発言や行動ができる。 【カリキュラム上の位置づけ】 全学共通教育科目・地域課題
授業の内容
新聞で報じられた地域の情報を素材として，新聞の読み方，取材対象の見方，記事作成の手法を学ぶとともに，新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み，課題を設定した上で，現地へ出向いて取材し，意見交換を経て記事をまとめるなど，地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに，グループで課題解決への提案をまとめ，プレゼンテーションを行うことを通じて議論を深める。
成績評価の方法
課題レポート（50％）（到達目標①②③⑥⑦） グループ討議，ポスター発表を含む，授業への参加度（50％）（到達目標④⑤⑧⑨） なお，単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする
テキスト
事前に配付される新聞記事を用いる
参考文献
適宜紹介する
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
日頃より新聞に親しみ，幅広く地域の情報に触れるとともに，報じられている内容に関する情報を積極的に集め，自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は事前説明会（7月上中旬にオンライン(Teams)にて開催）にて説明する。事前説明会には必ず参加すること。参加がない場合は受講を認めない。 また，本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため，4日間全ての出席が必須となる。よって，1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお，フィールドワークにかかる費用及び試読期間中の新聞購読代金（250円の予定）は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により，取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。

授業計画
授業計画
授業の流れは概ね次のとおり（一部変更の可能性あり） 事前課題：試読期間（7月下旬）に配付された新聞を読み，記事を選んで概要をまとめ，意見を述べる

- 第1日：オリエンテーション，事前課題の確認，テーマに関する講義
第2日：取材計画，取材実習（フィールドワーク），記事風レポート作成
第3日：記事風レポート発表，グループ討議，プレゼンテーション準備
第4日：プレゼンテーション最終準備，プレゼンテーション，振り返り討議

期間中の課題：翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む

事後課題：授業で学び得たことを踏まえて，新たな課題を発見し，レポートをまとめる

シラバス備考

URLリンク

科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

【科目ルーブリック改訂案】「地域情報発信論」.pdf

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
フィールド科学Q3
担当教員氏名
荻田 信二郎 甲村 浩之 谷垣 悠介 原田 浩幸 朴 壽永 藤田 景子 古山 真一 増田 泰三 馬淵 良太 村田 和賀代 山本 幸弘 吉野 智之
研究室の場所
学生便覧参照
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
随時
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
1回目から7回目は現在大講義室からの対面講義を予定している。期間限定でオンデマンド動画配信を行う場合は別途指示する。 8回目は中間とりまとめと今後の取組み解説、9週目以降は対面授業およびTeams等を活用したディスカッションおよびグループワークを行い、最終的にグループ毎にプレゼンテーションを行う。 実績として各回のFormsで収集した質問や提案を、講義後半で教材に活用して議論を深めると共に、庄原市役所をはじめとした外部講師の方々に「学生の声」として実際にフィードバックする仕組みを整備している。したがって各回を真剣に考えた積極的な回答が望まれる。
単位数
2
時間数
30

学科または専攻ごとの 必修・選択の別
学生便覧参照
履修要件
地域資源開発学科（必修），生命環境学科（選択） 1 年次対象 ＊本科目は，3，4 年次配当の地域課題解決型研究における生物資源科学部独自の履修要件の一部となっています。
免許等指定科目
地域教養ゼミナールは，全学部共通 副専攻プログラム「地域課題解決リーダー養成プログラム」の選択科目であり，認定要件です。詳しくは学生便覧を確認してください。
キーワード
フィールド，中山間地域，地域振興，地域資源，地域自然，食文化，環境保全，6次産業
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ
専門教育科目の学科基礎（その他）であり，入門的内容である。 フィールド科学実習ⅠおよびⅡと共に地域社会の課題を学修することができる。
授業の目標 ①.地域（特に備北地域）の行政，自然，文化，産業等についての概要を説明できる。 ②.自らの得た知識を生かして地域課題解決に関する分析や議論ができる。 ③.自らの得た知識を生かして地域課題解決のアイデアを提案できる。
授業の内容
別途掲示等で指示する。 （学外体験学修のプログラムを実施する場合があります）
成績評価の方法
原則として第1週から4週目（1－8回目）の講義に関しては，毎回Formsで地域課題に対する考察を提出する（60%，到達目標①②）。後半9回目以降は提出済みの考察から地域課題の解決方法をグループ毎に調査・KJ法等を活用して取りまとめ、プレゼンテーションで提案する（40%，到達目標②③）。 詳細は別途指示する。
テキスト
教科書は定めない。配信される動画等は本講義の学修のみに活用し，コピーや二次加工，転送などはしないこと。
参考文献
講義の中で随時紹介する。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
ループリックのレベルを示します。標準的な到達レベル以上をめざしましょう。 【理想的な到達レベル】外部講師の講義内容に基づき，地域の直面する課題についてそのほとんどを適切に説明でき，課題解決に向けた調査や具体的な提案ができる。 【標準的な到達レベル】外部講師の講義内容に基づき，地域の直面する課題について幾つかを説明でき，課題解決に向けた調査や提案ができる。 【未到達のレベル】地域の直面する課題について十分な説明ができない。また課題解決に向けた調査や提案が不十分である。 日頃より地域の自然に親しみ，地域の文化や社会状況に関心を持つこと。 地域との交流事業などに積極的に参加し，地域理解に努めること。 講義には積極的に参加すること。1，2限連続した講義となるため、出席には十分留意すること。 地域資源開発学科の学生は，本講義の単位修得が必須である。 種々のアナウンスおよびレポート提出はWeb上で行うため，配信されるメール連絡や掲示は必ず確認すること。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 地域課題の解決にかかる研究を実施している本学の教員，または，関連する地域の専門家，行政担当者等を外部講師として講義を行う。また，実際に地域の課題に対して解決手段を調査・考察・発表することにより，地域課題解決の実践力をつけるための基礎を指導する。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	ガイダンス（講義取りまとめ代表教員） 庄原市 全体について（外部講師 1） 1週目 1限	シラバス、コースカタログを熟読し、どういう科目なのかを理解して初回到臨すること。
第2回	庄原市 行政について（外部講師 2） 1週目 2限 【対面】	ホームページで、庄原市についてみておくこと。
第3回	庄原市の産業に関する内容（外部講師 3） 2週目 1限	庄原市の産業に関わること（商工会議所、他）、インターネットなどで調べてくること。
第4回	庄原市の産学官等の活動内容の紹介（外部講師 4） 2週目 2限	産官学連携やスマート農業、6次産業等について調べてくること。
第5回	庄原（備北地域）の活性化に関する内容（外部講師 5） 3週目 1限	地域活性化対策の例について調べてくること。
第6回	庄原（備北地域）の観光や自然環境に関する内容（外部講師 6） 3週目 2限	庄原市観光協会や自然について調べてくること。
第7回	庄原（備北地域）に関する内容。OB／OG地方での起業（外部講師 7） 4週目 1限	これまでの講義を参考に庄原（備北地域）について調べてくること。特に6回目の内容も考慮すること。別途指示する。
第8回	中間とりまとめおよび今後の説明（講義取りまとめ代表教員） 4週目 2限	これまでFormsで回答した全員分の質問や考察をフィードバックするので、これらを集計、取りまとめる。
第9回	実践実習（グループワーク 1） 5週目 1限	これまでFormsで回答した全員分の質問や考察をフィードバックするので、これらを集計、取りまとめる。
第10回	実践実習（グループワーク 2） 5週目 2限	これまでFormsで回答した全員分の質問や考察をフィードバックするので、これらを集計、取りまとめる。
第11回	実践実習（グループワーク 3） 6週目 1限	グループ毎にプレゼンテーションを取りまとめて評価を行う。
第12回	実践実習（グループワーク 4） 6週目 2限	グループ毎にプレゼンテーションを取りまとめて評価を行う。
第13回	フィールド実践実習（プレゼン発表） 7週目 1限 【対面】	各班で設定した地域課題に対して、その解決方法を提案するプレゼンテーションを行う。
第14回	フィールド実践実習（プレゼン発表） 7週目 2限 【対面】	各班で設定した地域課題に対して、その解決方法を提案するプレゼンテーションを行う。
第15回	フィールド科学の総まとめ 8週目 1限 【対面】	フィールド科学の講義内容を振り返ると共に、今後の地域課題解決型研究などについて考察する。

授業計画
シラバス備考
本講義は外部講師によるオムニバス形式を主としたものであるため、講師の人選や講義の詳細な内容、については、上記の授業計画から変更となる場合がある。 詳細は事前の掲示および 1 回目のガイダンスで説明するので、必ず出席すること。
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
細胞・生体機能学後期(2019以前生体機能学読替)
担当教員氏名
齋藤 靖和 長尾 則男
研究室の場所
庄原キャンパス 齋藤（3601）長尾（4504）研究室
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
随時（事前にメールで予約をすることが望ましい）
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
対面授業 ただし、新型コロナウイルスの流行状況によってオンライン等に移行する場合がある。授業形式の変更については、ポータル等でアナウンスするので、確認しておくこと。 詳細は各担当者（齋藤・長尾）のそれぞれの担当初回にて説明を行う（あるいは文書等で示す）。 授業及び資料配布、レポートのやりとり等は必要に応じて、大学ポータルあるいはOffice365Teams等を介して行うことがある。
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択（生命環境学科）
履修要件
生命環境学科 3年次対象
免許等指定科目
キーワード

細胞，組織，ホルモン，成長，代謝，細胞情報伝達，細胞死，免疫，疾患，老化，ストレス，バイオテクノロジー，ゲノム，遺伝子操作，医療，健康，食品
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ
(前半：齋藤担当回) 本科目は、3年半までに学んできた生命科学における基礎知識を基盤に、生命現象を分子レベルでより詳細に理解することを目的とする。ライフサイエンスに対する興味を広げ、より広く、深く学ぶことにより3年次以降のより高度かつ専門的な学習への橋渡しとなる科目として位置づけられる。本科目では、1.細胞の基本的性質とその役割、2.生体機能と細胞の関係、3.生体機能と疾患、4.生体機能と老化などについて理解し、適切なキーワードを使いながら説明、自らの意見を発信、議論できることを到達目標とする。 (後半：長尾担当回) 齋藤先生担当の前半で学ぶ生命現象、特に細胞について、それらを利用応用する技法技術について理解することを目的とする。前半で学ぶ理論や考え方とそれらを組み合わせるバイオ産業について理解を深めて、さらに問題解決能力も身につくように講義を進めていく。
授業の内容
(前半：齋藤担当 第1～8回) 生体、特に細胞レベルでの基本的機能である細胞の増殖、運動、代謝、細胞死などを中心に、遺伝子、タンパク質レベルでの制御の仕組み、それら機能異常と疾患との関わりや、その制御による創薬への応用について学ぶ。より体系的な知識の習得や興味喚起を狙いとして、疾患や老化といった比較的身近で具体的な話題を例に挙げ、細胞生化学の面からその発症、進展背景についても解説する。なお、新しい話題も積極的に取り上げるため、授業計画が変更となる場合がある。 (後半：長尾担当 第9～15回,16回目に長尾担当分の試験実施) 細胞の仕組みを利用する技術について、キートピックとして、動物実験代替法、人工培養肉、抗体医薬、DIYバイオ等を取り上げる。なお、新しい話題も積極的に取り上げるため、授業計画が変更となる場合がある。
成績評価の方法
授業での発表、レポート、テスト等で評価（100％）する。 評価の詳細については授業内で案内する。
テキスト
必用な資料は、プリント配布する。参考図書は、講義中に紹介する。
参考文献
参考文献は必要に応じて紹介する。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
(1)履修者は、簡易でもよいので、授業内容の要点を授業記憶がフレッシュなうちに復習を充分に行なうこと。 (2)授業に関する連絡は、教学課の掲示板に掲示するか、授業中に口頭あるいは文書あるいはポータル配信等で指示する。 (3)授業と関係ない目的でのPC使用、スマートフォンやウェアラブル端末等の取り扱いには禁止する。他の受講生の迷惑行為（私語等）がある場合には、退出を命じる。 (4)レポート等において、インターネットのサイトの情報および他学生の回答等をコピー＆ペーストすることや、ChatGPT等の生成AIを使用することを禁止する。 (5)試験等において、本学で規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則（学則）に基づいて対応する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 企業研究所において医薬品等の研究開発経験を持つ教員が、生体機能のしくみの解明やその応用事例および世界の研究動向などを題材に、科学的なものの考え方や多面的なものの捉え方の重要性についても指導する（第1～15回）。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	履修の判断材料とするための情報を提供する。本授業の目標、カリキュラム上の位置づけ、授業内容と進め方、成績評価の方法などについて説明を行う。今後に向け基本的なプレゼンテーション方法などについて紹介すると共に、必要に応じて最近のトピックスを紹介する。 (齋藤靖和)	コースカタログ、シラバスで授業内容を理解しておく。
第2回	生命現象を支える臓器と栄養素わたしたちの体を構成しているいろいろな種類の細胞は、それぞれ集まって組織や臓器を形成している。そしてこれらが、互いに調和を保ちながら個体を形成している。その調和が乱れれば病気となり、その乱れを緩和、治癒する手段として薬が開発されている。そこで、くすりについて基本的な事を学びながらその役割について考えてみる。 (齋藤靖和)	授業内容に関連する事前レポートを課すので、教員の指示に従うこと。提出レポートは評価対象となる。

第3回	生物や細胞の死とは何か，死のしくみやその意義について学び、考えてみる。 （齋藤靖和）	授業内容に関連する事前レポートを課すので、教員の指示に従うこと。提出レポートは評価対象となる。
第4回	日本人の死因第一である「がん」について学習し，その発生の仕組みについて学び、考えてみる。 （齋藤靖和）	授業内容に関連する事前レポートを課すので、教員の指示に従うこと。提出レポートは評価対象となる。
第5回	皮膚の構造とその役割について学習し，それが我々の体の成長や健康，疾患にどのように関わっているのか学び、考えてみる。 （齋藤靖和）	授業内容に関連する事前レポートを課すので、教員の指示に従うこと。提出レポートは評価対象となる。
第6回	バイオメテックスについて学習し、それが我々の生活や健康，疾患にどのように関わっているのか、その可能性についても考えてみる①。 （齋藤靖和）	授業内容に関連する事前レポートを課すので、教員の指示に従うこと。提出レポートは評価対象となる。
第7回	バイオメテックスについて学習し、それが我々の生活や健康，疾患にどのように関わっているのか、その可能性についても考えてみる②。 （齋藤靖和）	授業内容に関連する事前レポートを課すので、教員の指示に従うこと。提出レポートは評価対象となる。
第8回	これまでのふりかえり（齋藤靖和） 個体の終焉、「死」について、その意義やありかたについて、広く考えてみる。 第1～7回目までの学習内容について復習を行い、到達度を確認する。	ここまで学んだ内容についてよく復習しておくこと。
第9回	（長尾担当回 1） ヒト由来細胞が培養しはじめた頃のエピソードを紹介し、細胞培養をめぐる倫理問題等について考える。	コースカタログ・シラバスで授業の概要を学習しておく。
第10回	（長尾担当回 2） 細胞を調べる方法や技術について学ぶ。 関連レポート課題を課す。	前回の授業の復習と今回の授業内容について自分なりに調べる。
第11回	（長尾担当回 3） 動物実験代替法について解説し、動物倫理について考える。	前回の授業の復習と今回の授業内容について自分なりに調べる。
第12回	（長尾担当回 4） 多能性幹細胞の細胞工学（ES細胞，iPS細胞，STAP細胞）について学び、再生医療、生命倫理、研究倫理について考える。	前回の授業の復習と今回の授業内容について自分なりに調べる。
第13回	（長尾担当回 5） モノクローナル抗体、抗体医薬について学び、その可能性や問題点について考える。	前回の授業の復習と今回の授業内容について自分なりに調べる。
第14回	（長尾担当回 6） 人工培養肉、DIYバイオについて解説する。	前回の授業の復習と今回の授業内容について自分なりに調べる。
第15回	（長尾担当回 7） 学んだ内容について総括を行う。	これまで学んだことを見直すこと。
第16回	長尾担当分についての試験実施。	授業で分からなかった点は調べたり、質問したりして不明点を解決しておくこと。 試験に備え、今までの復習を行うこと。

授業計画
新しい話題を随時取り入れるため、講義テーマについては変更となることがあります（齋藤）
シラバス備考
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
高分子化学Q1(2019以前機能性物質化学読替)
担当教員氏名
青柳 充
研究室の場所
庄原キャンパス 4401研究室
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
随時対応。ただし、事前に必ず電子メールでアポイントメントを取ってください。
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
受講生は、教科書又は配布資料を事前に精読し講義を受講します。 対面授業の下、受講生は主要な内容の解説を受け、残された疑問点などに関する質問を行い、授業後に復習を行って理解度を高めます。 いわゆる、反転授業を受けます。また、タイムラグのあるグループディスカッション（タイムラグ・ディスカッション）を実施します。なお、各種の状況に応じ、リアルタイム・オンライン方式とすることもあります。 （１）授業内容に対する毎回の質問（授業外学修／タイムラグディスカッション） （２）小テスト課題 （３）最終試験 により成績を判定します。 一部、1回ほどレポート課題を課すことがあります。 授業はTeams, Formsを利用します。授業開始までにアナウンスします。 講義内容によっては、一部、オンデマンド方式を採用することがあります。
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
【26年度以降入学生】環境科学科 3年次対象
免許等指定科目

中一種免（理科），高一種免（理科），食品衛生		
キーワード		
高分子化合物，ポリマー，樹脂，プラスチック，立体構造，ゴム・ガラス，熱的性質，ガラス転移点，環境応答ポリマー，環境適合ポリマー，植物バイオマス，天然由来高分子		
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ		
高分子化学（化学）の基本的かつ基礎的な内容を扱います。主に石油を原料とし，化学反応により合成される高分子化合物（プラスチック）は20世紀から21世紀にかけて材料において革命をもたらしました。生産性が高く，自在に性能を制御し，清潔で軽量，安価で豊富な種類を誇り，現在の私たちの生活において不可欠な機能性の高い物質です。また天然の高分子であるセルロース（紙，綿など），タンパク質なども不可欠な材料として用いられています。多くの高分子は「リサイクル」が可能ですが，実際には特定の高分子を除き様々な制約が存在します。そして一般に石油系高分子はリサイクルすると性能が低下するという課題があります。リサイクルのコストが製造コストを超える場合，埋め立て処分や焼却処分されています。その一部は河川や湖沼・海洋に漏出し，近年深刻な環境問題として注目されている「マイクロプラスチック」問題等を生み出しています。このように高分子という機能性物質は環境問題に深くかかわっています。本講義ではこの物質の化学的な解釈を行います。 （A）化学構造や分子の高次構造に基づいて機能を発揮する物質群に対する幅広い知識を獲得し整理できること。（B）環境問題ともかかわりの深い「モノ」を構成する有機物である「プラスチック」や「生体構成物質」などの素材についての化学的知識を得ること。また，講義の目標は以下の4点です：（1）高分子化合物の成り立ちや製造法，使用状況を化学的に理解すること，（2）高分子の種類と合成法，性質との関係を科学的に理解できる，（3）化学構造と物性のかかわりを理解する，（4）高分子のリサイクルや資源循環の知識を整理すること。		
授業の内容		
以下の内容を世界的な環境問題の一つになった「海洋プラスチック汚染」問題，「マイクロプラスチック汚染」問題をプラスチック（高分子材料）のメリットや現在の状況と比較しながら，その原因や問題の本質などについて化学的に考えていきます。 高分子材料は工学的・生化学的分野で器具・道具や研究対象として広く使用されている素材です。取り上げる高分子は現在，社会で広く用いられている基本的かつ実用的なものです。教科書の流れに沿う形で，基本トピックを講義します。講義では基本的な有機化学・物理化学の知識を確認しながら，化学構造・集合状態・強度などの物性など特徴を理解できるように構成します。そして「どのようにして環境問題としてとらえる必要があるか」を考えることをゴールとしてすえます。 高分子を含む化学は「暗記」の学問ではありません。何がどうなって，目の前の現象が生じているのか？それはどのような原理に基づいているのか？それらを考えていきます。いくつかのデモンストレーションも講義の中で行います。人数に応じてアクティブラーニングの要素を加えた講義進行を実施します。教科書の指定範囲の精読は予習として必ず行ってください。読んできたものとして講義が進行します。 専門外の学生も対象とした入門的な高分子物質・素材・材料に関する内容を講義します。講義の内容はシラバスを参考にしますが状況に応じて進捗を変更させます。		
成績評価の方法		
「小テスト課題25%」+「質問票15%」+「最終試験60%」で評価する。 ・授業内容に対する質問（授業外学修／タイムラグディスカッション） ・小テスト課題 ・最終試験により成績を判定します。 期末試験は指定された試験日に学則に従って実施します。 また，試験に関する不正行為は同様に学則に従い対応します。		
テキスト		
【教科書】井上和人ほか著「基礎からわかる高分子材料」森北出版（2015） 毎回の予習、復習、試験範囲等の情報はすべてこの教科書に基づいて行います。		
参考文献		
高分子「化学」について：北野博巳，功刀滋編「高分子の化学」三共出版(株)（2008） 高分子「科学」について：高分子学会編「基礎高分子科学」(株)東京化学同人（2006）		
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)		
履修者は講義の前に指定された教科書該当箇所「精読」し，前回講義のキーワード・キーフレーズを振り返ったうえで講義に臨んでください。 「目を通す」のではなく「読んで」来てください。 講義外の学修としては予習は30分，復習30分，質問票を含めた「勉強」30分を推奨します。特に予習は有効です。 受講に際してイヤホンをしていたり動画・ゲーム等に興じていると教員が判断した場合退室を命じ，その週に2時限分を欠席扱いとすることがあります。 また周囲の受講生に迷惑をかける行為も同様に扱います。		

授業計画		
回数	授業計画	準備学習

第1回	1. 高分子物質とは？（概論：考え方と「化学」との関係）＋高分子化学／科学の歴史＋普及の歴史（生活）身近な高分子化合物を見つける	シラバス・コースカタログを把握しておいてください。
第2回	2. 高分子化合物の合成法（1）線状高分子・連鎖重合／縮合重合	教科書指定範囲を精読すること／前回のキーワード・キーフレーズを振り返り受講すること
第3回	3. 高分子化合物の合成法（2）網目状高分子	教科書指定範囲を精読すること／前回のキーワード・キーフレーズを振り返り受講すること
第4回	4. 合成まとめ／進度調整回	教科書指定範囲を精読すること／前回のキーワード・キーフレーズを振り返り受講すること
第5回	5. 高分子化合物の性質と応用（1）（力学的性質／電氣的性質）「○○だからここで使われている」	教科書指定範囲を精読すること／前回のキーワード・キーフレーズを振り返り受講すること
第6回	6. 高分子化合物の性質と応用（2）（熱的性質）「○○だからここでは使えない」	教科書指定範囲を精読すること／前回のキーワード・キーフレーズを振り返り受講すること
第7回	7. 高分子化合物の性質と応用（3）（様々な性質／溶解性・気体透過性など）「○○の性質を活用して」	教科書指定範囲を精読すること／前回のキーワード・キーフレーズを振り返り受講すること
第8回	8. 高分子化合物の表面の性質「物質と触れるところ」	教科書指定範囲を精読すること／前回のキーワード・キーフレーズを振り返り受講すること
第9回	9. 高分子の種類と用途（1）『プラスチック』としての利用	教科書指定範囲を精読すること／前回のキーワード・キーフレーズを振り返り受講すること
第10回	10. 高分子の種類と用途（2）ゴム・合成繊維・接着剤	教科書指定範囲を精読すること／前回のキーワード・キーフレーズを振り返り受講すること
第11回	11. 高分子の種類と用途（3）特殊用途（生体医療材料・高吸水性材料・分離膜）	教科書指定範囲を精読すること／前回のキーワード・キーフレーズを振り返り受講すること
第12回	12・天然高分子（1）生体高分子ほか	教科書指定範囲を精読すること／前回のキーワード・キーフレーズを振り返り受講すること
第13回	13. 天然高分子（2）セルロース・デンプン・リグニン	教科書指定範囲を精読すること／前回のキーワード・キーフレーズを振り返り受講すること
第14回	14. 高分子材料：成型加工・添加剤（高分子の材料特性の制御）	教科書指定範囲を精読すること／前回のキーワード・キーフレーズを振り返り受講すること
第15回	15. 進度調整：ふりかえり（高性能高分子材料の紹介）	これまでのキーワード・キーフレーズを振り返り受講すること

授業計画
シラバス備考
【実務経験を活かした実践的な教育について】 本講義の講師は高分子加工・プラスチックリサイクル・プラスチックの製品化に関する民間企業での7年間の実務経験を有する。これらの背景を踏まえて、知識・情報と実践のかかわりを含めて解説する。
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

シラバス検索 > 検索結果一覧 > シラバス参照

授業科目名
機能材料化学Q2
担当教員氏名
大竹 才人
研究室の場所
学生便覧参照
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
随時
E-mail/HP
https://www.pu-hiroshima.ac.jp/p/ohtake/
授業形態
対面
授業の形式・方式
授業日程に従って、講義形式で実施する。1回の講義は、授業時間2時間（1回）と学生の自習4時間を想定した授業を行う。状況によりオンラインとすることもあります。
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
【26年度以降入学生】環境科学科 3年次対象
免許等指定科目
中一種免（理科）、高一種免（理科） ※29年度以降入学の環境科学科が対象
キーワード
結晶構造，電子構造，バンド理論，波動関数，強相関電子系，半導体，磁性体，誘電体，発光体
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ

機能の発現には材料の電子物性が深く関わっており、固体中での電子の振る舞いの理解が機能材料を理解するための第一歩である。最近注目されている強相関電子系などはその代表であり、超伝導体に見られる金属-絶縁体転移や、磁界により電気抵抗が大きく変化する巨大磁気抵抗など多彩で魅惑的な物性は、電子が相互に強く関わり合いながら発現する。本講義では機能材料を理解するために、電子の振る舞いに基づいて初歩から解説し、その理解と修得を目標とする。

授業の内容
機能材料として、電気的性質として半導体、磁氣的性質として磁性体、光学的性質として発光体、扱う。またこれらの物性の起源として、それぞれの電子状態を学んでいく。更には、固体中での電子の振る舞いを電子の波動性に着目した波動関数に基づいて理解する。一方で電子の粒子としての振る舞いに着目して、スピン/電荷/軌道の3つの自由度の相互作用に基づいた強相関電子材料について学び、材料の多彩な機能を理解する。
成績評価の方法
期末試験により評価する。
テキスト
なし
参考文献
初学者向け： 量子化学 基礎からのアプローチ 真船文隆 化学同人 一般向け： 量子化学 上巻 原田義也 裳華房
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	材料がもつ特徴的な機能は、組成や構造、電子状態などの要因が影響を与え合い発現される。その多様な性質は、化学の視点から観察することで系統的に理解することができる。具体的な機能材料を幾つか紹介し、その一端に触れることにする。	原子の電子配置について、周期表に基づいて理解しておくこと。
第2回	結晶構造を理解する基本として、4種類の単位格子に7種類の結晶系を適用した14種類のブラベー格子を学ぶ。	結晶構造、特にブラベー格子について予習しておくこと。
第3回	金属結晶とイオン結晶を学ぶ。1種類の元素の繰り返し構造である金属結晶と2種類の元素からなるイオン結晶について結晶構造を解説する。特にイオン結晶では、2種類のイオン半径比が陽イオンの配位数を決定して結晶構造を与えることを理解する。	金属結合又はイオン結合からなる物質の結晶系を予習しておくこと。
第4回	共有結合結晶としてダイヤモンド構造を学ぶ。またイオン結合性や共有結合性が見られるペロブスカイト構造を取り上げ、AサイトおよびBサイトの働きやそれらのイオン半径から導き出される許容因子、更にボーリングの法則についても解説する。	代表的な共有結合結晶について予習しておくこと。
第5回	固体の物性を理解するために、分子軌道法により固体の電子構造を定性的に学ぶ。このとき、エネルギーバンド図を用いた禁制帯幅を指標として金属・半導体・絶縁体の電気伝導特性を理解する。	分子軌道法について予習しておくこと。
第6回	定量的に理解するため、シュレディンガーの波動方程式を学ぶ。これは電子の振る舞いを定常波と捉え、ド・ブロイの式を用いてエネルギー保存則を利用し導出される。この解である波動関数が確率波を与え、絶対値の2乗が物理的意味を持つことを学ぶ。	シュレディンガーの波動方程式について予習しておくこと。
第7回	最も単純化された一次元井戸型ポテンシャル中における電子の振る舞いを扱う。シュレディンガーの波動方程式を解くことにより、波動関数から電子の確率密度と、固有値から量子化されたエネルギーを求め、量子化学の基礎を理解する。	自由電子近似理論について予習しておくこと。
第8回	一次元系の内容に引き続き、三次元系に拡張した箱の中の自由電子近似モデルを取り上げる。このとき単位体積当たり、かつ単位エネルギー当たりのエネルギー状態数を状態密度と定義し、その状態密度関数を利用してフェルミ準位を求める。	状態密度関数について予習しておくこと。
第9回	バンド理論を学習する。E vs k プロットにより、固体の電子状態はバンド構造をとることを理解する。またフェルミ・ディラックの分布関数を解説し、状態密度関数を利用して電子密度を求める。	バンド理論及びフェルミ・ディラック分布関数を予習しておくこと。
第10回	真性半導体、p型半導体、n型半導体のエネルギーバンド図を解説して、それぞれの状態密度、フェルミ・ディラック分布から電子または正孔のキャリア密度を導出	半導体中のキャリア密度分布について予習しておくこと。

	することで、半導体物性の理解を深める。	
第11回	電子遷移を伴う可視光領域の吸収と発光を学ぶ。半導体のバンドギャップは、およそ可視光領域のエネルギーに相当するため、励起による光吸収と、緩和による可視光の発光が可能となる。これらについて解説する。	光の透過と吸収、及び発光を予習しておくこと。
第12回	強相関電子系材料として第一遷移金属酸化物を取り上げ、強相関電子とモット絶縁体及び電荷ギャップについて解説する。	モット・ハバードモデルについて予習しておくこと
第13回	強相関電子の波動性と粒子性は電子の局在（絶縁体）と非局在（金属）の相転移として現れる。この金属-絶縁体転移について、バンド幅制御及びフィリング制御を解説する。	モット転移について予習しておくこと。
第14回	強相関電子にはスピン・電荷・軌道の3つの自由度があり、これらの結合により多彩な電子相が競合して、突然巨大な応答を示す要因となっている。巨大磁気抵抗を例に挙げてこれらを解説する。	スピン・電荷・軌道の交差相関について予習しておくこと。
第15回	ペロブスカイト型マンガン酸化物は、伝導電子が局在スピンと軌道自由度に結合して多彩な電子相を作る。このようなスピンと軌道の結合や、軌道と電荷の結合について解説する。	ペロブスカイト酸化物における強相関電子系相転移として、CE型・A型・C型を予習しておくこと。

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
キャリアビジョン（デベロップメント）（Q1）三原C
担当教員氏名
原田 淳
研究室の場所
学生便覧参照
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
特に時間帯を定めない（事前にメール、チャット、あるいは、電話で連絡し面談の予約をすること）。
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
原則として対面授業。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の受講レポートに授業の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを記す。
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
全コース2年次対象
免許等指定科目
キーワード
キャリア形成，ストレスマネジメント，マインドフルネス
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ

本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けるマインドフルネスを習得する。

【到達目標】

＜知識・技能の観点＞

1. 心理・社会的ストレスのメカニズムと、ストレスが心身や行動に与える影響について説明できる。

2. 瞑想的運動法、呼吸法、瞑想法がストレスマネジメントに有効な理由を説明できる。

＜思考力・判断力・表現力の観点＞

3. 自身の認知や行動を客観的にとらえ言語化できるようになる。

＜主体性・協働性の観点＞

4. 演習で行うペアワーク・グループワークに積極的に参加している。

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は、全学共通教育科目「キャリア開発」（キャリア）の一つとして位置づけられている。

授業の内容
心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りを行うことにより望ましい認知のあり方について考える。
成績評価の方法
講義中の演習50%、期末レポート50%で評価する。
テキスト
テキスト（教科書）は特に指定しない。
参考文献
参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
演習はグループワークを行うため、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 企業に勤務経験のある教員が、その経験をふまえて、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習（呼吸を整える）	
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習（微細な動きを意識する）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを受講レポートに記しておく。
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習（ブリージング・エクササイズ）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを受講レポートに記しておく。
第4回	瞑想的運動法 ・実習（ブリージングエクササイズ、アイソメトリック運動）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを受講レポートに記しておく。
第5回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを受講レポートに記しておく。
第6回	好き・嫌いの感情を克服する ・好き・嫌いが生じるしくみ ・『人間万事塞翁が馬』	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを受講レポートに記しておく。
第7回	呼吸の意識化、呼吸法 ・実習（呼吸の意識化、呼吸法）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを受講レポートに記しておく。

第8回	レジリエンス ・レジリエンスとは ・演習（ライフラインチャート）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第9回	瞑想法 ・実習（リラクセーション反応、ヴィパッサナー瞑想）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第10回	“いま、ここ”を生きる ・マインドフルネス	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第11回	環境調整の方法 ・実習（セクショナルブリージング、完全呼吸法）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第12回	不安への対処 ・実習（オープンモニタリング瞑想）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第13回	執着・こだわりからの解放 ・実習（呼吸法、瞑想法）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第14回	仕事とストレス ・東洋思想の教える仕事への取り組み方	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第15回	まとめ ・実習（アイソメトリック運動、呼吸法、瞑想法） ・授業評価アンケート ・受講レポート提出に関する説明	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ループリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください
ループリック（キャリアビジョン（ストレスマネジメント））.pdf

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
インターンシップ（Q4）
担当教員氏名
原田 淳
研究室の場所
広島キャンパス キャリアセンター
連絡先電話番号
オフィスアワー
随時（事前にメール、チャット、あるいは、電話で連絡し面談の予約をすること）。
E-mail/HP
授業形態
ハイブリット
授業の形式・方式
ハイブリッド授業。通年集中講義。 事前学習及び事後学習は、授業日程にしたがって、主に講義形式及び演習形式で実施する。 就業体験は、授業等のない休日・休暇の期間に実施する。 原則として、事前学習、就業体験、事後学習の欠席・遅刻・早退は認めない。 すべての授業への参加と就業体験が義務づけられる。
単位数
2
時間数
60
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
保健福祉学科2年次対象 保健福祉学部3年生対象
免許等指定科目
キーワード

自己分析、就業体験、職業選択、職業適性、ビジネスマナー
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめるため、就業体験に取り組む。 本科目の目標は、多様な職場や職業に対して関心を持ち、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とする。 【到達目標】 ＜知識・技能の観点＞ 1. ビジネスマナーの基本について理解している。 2. 自己PRの基本について理解している。 ＜思考力・判断力・表現力の観点＞ 3. 将来の進路・就職について考え、就業体験先について検討する。 ＜主体性・協働性の観点＞ 4. 事前学習に積極的に参加している。 【カリキュラム上の位置づけ】 本科目は、全学共通教育科目「キャリア開発」（キャリア）の一つとして位置づけられている。また、進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担うものである。
授業の内容 企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。 事前学習では、ガイダンス、ビジネスマナー講座、自己目標の設定等に取り組む。 就業体験は、授業等のない休日・休暇の期間に実施する。 事後学習では、就業体験の発表を行うとともに、実習報告書を作成し提出する。
成績評価の方法 事前学習の課題（20％）、受入先の評価（30％）、事後学習の発表と実習報告書等（50％）を総合して評価する。課題については、履修登録者を対象とするガイダンス（Teamsによるオンライン）で提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び修行体験における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。
テキスト
事前学習の資料、および、報告書等の様式は、Teamsからダウンロードする。
参考文献
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等) 履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。 履修登録者は、Teamsのチーム『R6インターンシップ（三原キャンパス）』のメンバーとして登録し、チーム内の会議としてガイダンス（オンライン、4月下旬を予定）を実施するので、出席すること（履修登録せずにガイダンスに出席したい場合は、事前にメール、あるいは、チャットで担当教員に連絡すること）。 授業に関する連絡は、Teamsのチームに掲示する。 受講のルールについては、ガイダンスにおいて提示する。 正当な理由なく、履修の途中での放棄、事前学習、就業体験、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 受入先の企業等において、実践的な研修を行う。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	ガイダンス	コースカタログ・シラバスを読んでおく。
第2回	応募手続き等の説明	ガイダンスの内容をよく理解する。
第3回	応募手続きとビジネスマナー等事前学習	前回の復習および就業体験に関する情報を収集しておく。
第4回	事前学習、グループワーク	就業体験先の情報収集をしておく。
第5回	就業体験	就業体験先について理解をはかり、事前学習の復習をしておく。
第6回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第7回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。

第8回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第9回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第10回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第11回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第12回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第13回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第14回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第15回	事後学習および発表準備	就業体験時の記録をまとめておく。
第16回	事後学習および発表	就業体験時の記録をまとめて、発表資料を作成する。

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
地域情報発信論（Q2）
担当教員氏名
広谷 大助 藤井 宣彰 吉田 倫子
研究室の場所
学生便覧参照
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
対面授業（状況によってはオンライン（リアルタイム）で実施） 前期集中講義（4日間。2025年8月25日（月）～8月28日（木）の予定） サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
保健福祉学科（2021年度入学以前の看護学科，理学療法学科，作業療法学科，コミュニケーション障害学科，人間福祉学科を含む） 2～4年次対象
免許等指定科目
キーワード

新聞，取材，ディベート，ディスカッション，記事，グループワーク，プレゼンテーション
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ
【授業の目標】 知能・技能の観点 ①自分で考える：授業内容や関連する新たな内容に対して，自分で考え，理解し説明することができる 思考力・判断力・表現力の観点 ②調べる：必要な情報を適切な方法で収集し，活用しやすい内容に整理できる。 ③文章を構成する：自分の考えを正確にわかりやすく，そして説得力ある形で文章にすることができる。 ④プレゼンテーション力：自分の考えを正確にわかりやすく説明でき，質問や批判に適切に対応できる。 ⑤コミュニケーション力：他の人の意見を聞き，その内容を理解した上で，積極的に自分の意見を述べることができる。 主体性・協調性の観点 ⑥関心度：テーマについて関心があり，テーマについて更に深く掘り下げたいと思っている。 ⑦問題を発見する・問いを立てる：新たな課題を発見することができる。あるいは，どんなことを掘り下げればよいかという問いを設定し，その解決をはかることができる。 ⑧協調性：他の人の意見を聞き，その上で，ともに問題について考えることができる。また，グループの他の人と協働して作業をすることができる。 ⑨リーダーシップ：グループ内の異なる主張や対立を把握した上で，自ら率先してメンバーに問いかけ，グループ内の意見をとりまとめることができる。また，グループメンバーの積極的な参加を促すような発言や行動ができる。 【カリキュラム上の位置づけ】 全学共通教育科目・地域課題
授業の内容
新聞で報じられた地域の情報を素材として，新聞の読み方，取材対象の見方，記事作成の手法を学ぶとともに，新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み，課題を設定した上で，現地へ出向いて取材し，意見交換を経て記事をまとめるなど，地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに，グループで課題解決への提案をまとめ，プレゼンテーションを行うことを通じて議論を深める。
成績評価の方法
課題レポート（50％）（到達目標①②③⑥⑦） グループ討議，ポスター発表を含む，授業への参加度（50％）（到達目標④⑤⑧⑨） なお，単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする
テキスト
事前に配付される新聞記事を用いる
参考文献
適宜紹介する
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
日頃より新聞に親しみ，幅広く地域の情報に触れるとともに，報じられている内容に関する情報を積極的に集め，自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は事前説明会（7月上中旬にオンライン(Teams)にて開催）にて説明する。事前説明会には必ず参加すること。参加がない場合は受講を認めない。 また，本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため，4日間全ての出席が必須となる。よって，1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお，フィールドワークにかかる費用及び試読期間中の新聞購読代金（250円の予定）は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により，取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。

授業計画
授業計画
授業の流れは概ね次のとおり（一部変更の可能性あり） 事前課題：試読期間（7月下旬）に配付された新聞を読み，記事を選んで概要をまとめ，意見を述べる

- 第1日：オリエンテーション，事前課題の確認，テーマに関する講義
第2日：取材計画，取材実習（フィールドワーク），記事風レポート作成
第3日：記事風レポート発表，グループ討議，プレゼンテーション準備
第4日：プレゼンテーション最終準備，プレゼンテーション，振り返り討議

期間中の課題：翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む

事後課題：授業で学び得たことを踏まえて，新たな課題を発見し，レポートをまとめる

シラバス備考

URLリンク

科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

【科目ルーブリック改訂案】「地域情報発信論」.pdf

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
チーム医療福祉論（Q2）
担当教員氏名
梅井 凡子 永野 なおみ 長谷川 純 吉川 ひろみ 渡辺 陽子
研究室の場所
渡辺（3415）, 吉川（3404）, 梅井（2504）, 長谷川（3517）, 永野（4524）
連絡先電話番号
学生便覧を参照
オフィスアワー
各教員に連絡を取り日程調整すること
E-mail/HP
学生便覧を参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
グループワークを中心とする
単位数
1
時間数
15
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
全コース必修
履修要件
1年次必修科目
免許等指定科目
キーワード

ヘルスケア専門職，ヘルスサポーターマインド，チームアプローチ，患者中心医療，利用者主体のサービス，リハビリテーション，倫理
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ
【授業の目標】 1. 異なる専門領域の学生が共に学ぶ機会を得ることにより，お互いを尊重する姿勢を学ぶ。 2. ケアチームの概念，チームワークの難しさと効果，リーダーシップ，組織管理について学習する。 3. グループワークを通して連携の方法論とグループダイナミクスについて考察する。 上記により将来よりよいチームアプローチを実践するための基礎を培う。 具体的な到達目標と成績評価との関係 知識・技能の観点 ①疾病・障害予防，リハビリテーション，福祉において，どの専門職がどのように関わるかについて説明できる。 思考・判断・表現の観点 ②講義の内容を参考に，各専門職の役割と連携・協働のあり方について，自己の考えを述べることができる。 主体性・協働性の観点 ③課題に主体的に取り組み，その成果を提出締め切りまでに提出できる。 ④他の学生と互恵的関係を築き，グループの学修成果への責任を果たすことができる。 【科目の位置づけ】 「地域包括ケアシステムを発展させる科目」群に位置づけられている。
授業の内容
学科横断的に編成するグループで，演習を通してチームとしての成長を経験する。
成績評価の方法
授業後の課題60点（到達目標①②③），発表10点（到達目標①②④），最終レポート課題30点（到達目標①②③） 欠席遅刻，課題の提出遅れは減点対象とする。
テキスト
参考文献
吉川ひろみ，上野哲『倫理でスッキリ医療従事者のモヤモヤ解消法』（シービーアール）
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
コース選択枠で入学した学生は，必ず履修すること 【実務経験を生かした実践的な教育について】 医療福祉現場において実務経験を有する教員が，多職種連携アプローチの実際について紹介し，学生はよりよいチーム医療福祉について考える。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	オリエンテーション よりよいチームとは ヘルスサポーターマインド	よりよいチームになるために必要なことを考える。
第2回	グループワーク①	講義資料及び関係資料を読んでグループワークに必要なことを考える。発表が円滑に進むための役割分担などの準備をする。
第3回	グループワーク②	講義資料及び関係資料を読んでグループワークに必要なことを考える。発表が円滑に進むための役割分担などの準備をする。
第4回	グループワーク③	講義資料及び関係資料を読んでグループワークに必要なことを考える。発表が円滑に進むための役割分担などの準備をする。
第5回	グループワーク④	講義資料及び関係資料を読んでグループワークに必要なことを考える。発表が円滑に進むための役割分担などの準備をする。
第6回	グループワーク⑤	講義資料及び関係資料を読んでグループワークに必要なことを考える。発表が円滑に進むための役割分担などの準備をする。
第7回	当事者さんの体験から考える	事前に提供された資料を確認し，必要に応じ調べ学習をしておく。
第8回	振り返りとまとめ	これまでの授業を振り返って考えをまとめる。

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

授業科目名
チーム医療福祉演習（Q3）
担当教員氏名
麻生 浩司 伊藤 泰三 井上 誠 上野 陽子 梅井 凡子 大古場 良太 岡村 和典 越智 あゆみ 金井 秀作 加利川 真理 古山 千佳子 佐藤 紀代子 高木 雅之 津田 哲也 手島 洋 永野 なおみ 細川 淳嗣 堀江 真由美 増田 久美子 森 大志 楊 慧敏
研究室の場所
三原キャンパス 3405研究室
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
担当教員ごとに後日指定する。
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
各コースの横断的小グループによる演習形式の対面授業。講義，小グループでのディスカッション，資料の作成および中グループでの発表。
単位数
1

時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
必修
履修要件
全学科 4 年次対象
免許等指定科目
看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目
キーワード
チーム医療，主体的学習，討論，学習方法
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ
【到達目標】 ①専門職種の専門性を認め，相互の理解を深めると共に，共通の専門用語を駆使して多職種で多面的な討論検討ができる。 ②患者・障害者の要求に応えるために，各専門職がどのように連携しチーム医療を支えるべきか，各専門職としての役割は何かを考え，説明することができる。 ③患者・障害者のための保健医療およびチーム医療のあり方を理解し，説明することができる。 この科目は，地域包括ケアシステムを発展させる科目として位置づけられており，これまで学んできた専門知識や技術にもとづき，学生主導で行われる。
授業の内容
学内・現場実習終了後の学生が，これまでに学んできた専門知識・技術や実習での経験にもとづき，コース横断的な小グループで事例（医学事例，地域事例，倫理事例）を中心とした多面的な討論検討を行ったり，ロールプレイ等を用いて具体的なチームアプローチを経験する。さらに，討論検討内容やロールプレイの経験等をまとめて資料を作成し，発表する。
成績評価の方法
グループワーク 60点（到達目標①） 発表 10点（到達目標②③） 課題レポート 30点（到達目標②③）
テキスト
吉川ひろみ，上野 哲 著『倫理ですっきり 医療従事者のモヤモヤ解消法』（シービーアール）2020
参考文献
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
【実務経験を生かした実践的な教育について】 学生は，具体的な事例について多職種連携アプローチについてディスカッションし，考える。医療福祉現場の実務経験を有する教員が指導する。 これまでの講義，学内実験・実習，臨床実習で学んだことを思い起こし，グループでよく議論すること。 初日に手引きを配布するので，そのスケジュールに従って行動する。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	オリエンテーション，自己紹介，アイスブレイク	チーム医療福祉演習の手引きおよびテキストを読む。 学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第2回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第3回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。

第4回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第5回	中グループで発表（倫理または地域事例）	発表の準備。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第6回	医学事例の紹介，事例情報の読み込み 10時20分前後に担当事例を公表	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する
第7回	各コースの実習室等でデモンストレーションの実施	デモンストレーションの準備。
第8回	各コースの実習室等でデモンストレーションの実施	デモンストレーションの準備。
第9回	各グループで医学事例の検討	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について振り返る。
第10回	各グループで医学事例の検討	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について振り返る。
第11回	医学事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ，グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	当事者への質問を考えておく。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について振り返る。
第12回	医学事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ，グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	当事者への質問を考えておく。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について振り返る。
第13回	医学事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ，グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	当事者への質問を考えておく。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について振り返る。
第14回	中グループで発表（医学事例）	発表の準備。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について振り返る。
第15回	チーム医療福祉演習全体のまとめと振り返り	これまでの学習を振り返る。

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
在宅看護実習（訪問）（Q1・Q2）
担当教員氏名
岡田 ゆみ 沖西 紀代子 加利川 真理 菅井 敏行 俵 志江
研究室の場所
菅井（3418研究室）岡田（3422研究室）沖西（3414研究室）俵（3417研究室）加利川(3416研究室)
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
面接は随時(要予約) 場所は研究室
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
臨地実習
単位数
2
時間数
90
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
必修
履修要件
看護学コース4年次対象
免許等指定科目
看護師国家試験受験資格に係る必修科目
キーワード

生活と医療、訪問看護、家族看護、継続看護、社会資源、地域包括ケアシステム、多職種連携
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ
【実習の目的】 １． 地域で生活しながら看護を必要とする人々と家族のニーズを明らかにし、その人らしい生活が送れるように支援する基礎的能力を養うことができる。 ２． 地域ケアシステムと関係職種との連携・協働について学び、地域における看護の機能と看護職の役割を説明することができる。 【授業の目標】 １． 訪問看護師および訪問看護ステーションの機能と役割を説明できる ２． 地域に住む多様なライフステージや健康状態にある人のニーズを捉えることができる ３． 対象者とその家族の背景や関係性を理解し、それがどのように健康や生活に影響するかを捉えたうえで、支援のあり方を考えることができる ４． 対象者とその家族の健康状態や生活環境を捉え、訪問看護計画を立案することができる。また、訪問看護計画に基づいた看護実践について説明できる ５． 地域包括ケアシステムの中で看護がどのように提供され、また関係職種とどのように連携・協働しているかを説明できる 【カリキュラム上の位置付け】 在宅看護論および在宅看護展開論、在宅看護実践論で習得した知識・態度を、臨床の場において統合する科目として位置付けている。
授業の内容
１． 対象者とその家族の生活の場から、訪問看護の対象となる人々について理解を深める。 ２． 訪問看護を利用し、在宅で療養している複数の対象者の自宅を同行訪問し、事例ごとの訪問看護技術や支援方法の特性について学ぶ。 ３． 実習指導者の指導の下、ケアの一部を実施する。 ４． 在宅で療養する対象者の看護過程の展開を行う。 ５． 利用者を取り巻くサービス提供者と訪問看護との連携・協働の実際を学ぶ。 ６． 学内カンファレンスをとおり、様々な実習施設で学んだ学生と学びの共有をする。
成績評価の方法
実習目標の達成度、記録物、レポート、在宅看護実習自己評価表をもとに評価する。
テキスト
在宅看護論および在宅看護展開論、在宅看護実践論で使用したテキストおよび配布資料
参考文献
適宜紹介する
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
在宅看護実習要綱に示した事前学修の内容を参考に、在宅看護論など既習科目の復習を十分に行い、実習に必要なと思われる知識や技術を身につけたうえで、実習に臨むこととする。 詳細については、実習オリエンテーションにて説明する。 【実務経験を生かした実践的な教育について】 本科目は、地域や在宅における看護実践を有する教員が臨地の看護師と連携して実習指導を行う。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回		「在宅看護実習」実習要綱を参照すること
授業計画		
在宅看護実習要綱を参照		
シラバス備考		
URLリンク		
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください		

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
基礎看護実習Ⅱ（Q4）
担当教員氏名
青井 聡美 池田 ひろみ 奥田 玲子 川野 綾 澤岡 美咲 土路生 明美 山田 裕紀 渡辺 陽子
研究室の場所
学生便覧参照
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
随時（要予約）
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
臨地実習
単位数
2
時間数
90
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
必修
履修要件
看護学コース2年次対象
免許等指定科目

看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目 養護教諭1種免許課程認定に係る必修科目		
キーワード		
援助的人間関係 健康障害をもつ対象者の看護 看護過程 看護診断 看護計画 看護援助 SOAP記録 個人情報の保護 守秘義務 プライバシーの保護 健康状態のアセスメント バイタルサイン測定		
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ		
【授業の到達目標】 ①健康障害をもつ対象の多様な価値観や生活背景を尊重しながら、看護者として必要とされる倫理的態度と姿勢に基づき、対象の気持ちに寄り添い、信頼関係を形成し援助的人間関係を築くよう関わることができる。 ②治療や検査を受ける対象の身体および、心理社会的側面の全体像を理解し、対象の看護上の問題の解決に向けて、看護過程にそって計画、実施、評価することを通して、根拠ある看護実践をおこなうことができる。 ③安全なケア環境の提供をめざして、チームの一員として協働できる。 ④看護専門職として学修し続け成長していくために適切な姿勢・態度で行動できる。 ⑤対象に提供した自らの看護を振り返り、より良い看護の実現に向けて、看護の専門性を考察し、専門職としての成長していくための自己の課題を明らかにできる。 【カリキュラム上の位置づけ】 看護学概論、日常生活援助方法論Ⅰ・Ⅱ、診療に伴う看護方法論、フィジカルアセスメント、看護理論と実践で学修した知識と技術を臨床の場において統合して実践する科目として位置づけている。		
授業の内容		
①日常生活援助を必要とする一人の患者を受持ち、看護過程の展開に基づき看護援助を行う。 ②実習前日に、担当教員または実習指導者と行動計画について話し合い、必要な日常生活援助について自己学修する。 ③行動計画を活用し、担当教員および実習指導担当者の助言を受け、必要に応じて実習計画を修正し、実習を行う。 ④看護援助を実施する際には、必ず担当教員または実習指導担当者とともに行う。 ⑤看護援助を実施した後、必ず患者の状態と観察した内容を実習指導担当者に報告する。 ⑥実習終了後、行動計画を活用し、学んだことや今後の課題についてまとめる。 ⑦毎日病棟ごとでカンファレンスを行い、学びの共有を行う。		
成績評価の方法		
基礎看護実習Ⅱルーブリックに基づき評価する。 （到達目標①20点、到達目標②50点、到達目標③10点、到達目標④10点、到達目標⑤10点）		
テキスト		
「令和5年度入学生用臨地実習要綱」、「令和6年度基礎看護実習Ⅰ・Ⅱ実習要綱」、「日常生活援助方法論Ⅰ・Ⅱ授業ノート」配布資料等		
参考文献		
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)		
【実務経験を活かした実践的な教育について】看護師として実務経験をもつ教員が、その経験を活かして臨地において病棟看護師と連携し看護実践の指導を行う。 看護学概論、日常生活援助方法論Ⅰ・Ⅱ、診療に伴う看護方法論、フィジカルアセスメント、看護理論と実践で学修した内容を復習して実習に臨むこと。 基礎看護実習技術ノートに手順等を記載し持参すること。 実習日数が不足した場合は記録提出にかかわらず再履修となるので、健康管理には十分留意すること。 インフルエンザ感染症流行期であるため、実習前に必ずインフルエンザワクチンを接種し、実習に臨むこと。 実習後の提出物については、提出期限を厳守すること。（＊期日を過ぎた場合は受理しない）		

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	【学内】 基礎看護実習Ⅱオリエンテーション 検温の仕方と観察、報告の仕方 受持ち患者に必要なかつ関連する知識・技術の自己学修	基礎看護実習技術ノートを作成すること。
第2回	【病院実習】 病棟オリエンテーション 看護過程を展開しながら受持ち患者の援助を行う。	様式1「行動計画」の記録を行う。

第3回	【病院実習】 看護過程を展開しながら受持ち患者の援助を行う。	様式1「行動計画」の記録を行う
第4回	【病院実習】 看護過程を展開しながら受持ち患者の援助を行う。	様式1「行動計画」の記録を行う。
第5回	【学内】 看護過程の展開：情報収集した内容を整理し、看護診断を導く。 2つの看護診断に対して看護計画を立案する。	様式2「アセスメント」に収集した情報を整理し、看護診断を導いておくこと。
第6回	【病院実習】 看護過程を展開しながら受持ち患者の援助を行う。	様式1「行動計画」の記録を行う。
第7回	【病院実習】 看護過程を展開しながら受持ち患者の援助を行う。 午後：個人面談	様式1「行動計画」の記録を行う。 個人面談までに、様式5「基礎看護実習Ⅱルーブリック（自己評価）」中間評価を行っておくこと
第8回	【病院実習】 看護過程を展開しながら受持ち患者の援助を行う。	様式1「行動計画」の記録を行う。
第9回	【病院実習】 看護過程を展開しながら受持ち患者の援助を行う。	様式1「行動計画」の記録を行う。
第10回	【病院実習】 看護過程を展開しながら受持ち患者の援助を行う。 最終カンファレンス 午後：個人面談	個人面談までに、様式5「基礎看護実習Ⅱルーブリック（自己評価）」最終評価を行っておくこと。

授業計画
基礎看護実習Ⅱ実習要綱参照
シラバス備考
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください
基礎看護実習2 ルーブリック.pdf

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
地域包括ケア実習（Q3）
担当教員氏名
麻生 浩司 上野 陽子 加利川 真理 土路生 明美
研究室の場所
学生便覧参照
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
面接は随時(要予約)
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
臨地実習
単位数
1
時間数
45
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
必修
履修要件
看護学コース3年次対象 基礎看護実習Ⅱ、地域看護学概論、地域看護対象論Ⅰ、地域看護対象論Ⅱの単位を修得（修得見込みを含む）していること
免許等指定科目
看護師国家試験受験資格に係る必修科目
キーワード

地域包括ケアシステム、多職種連携、継続支援
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ 【知識・技能】 １．地域で暮らす人々が多様なレベルの健康・発達・生活上の課題を有し、各々固有の価値観・信条や人生観、生活背景をもっていることを具体的に説明できる。 ２．地域で暮らす人々が抱える健康・発達・生活上の課題と地域の特徴との関連を、実習先の地域の特徴とともに具体的に説明できる。 ３．人々が地域で自分らしく暮らし続けられるよう、地域の医療・福祉・介護に関する専門機関が果たしている役割と機能を、実習先の地域包括ケア体制を踏まえて具体的に説明できる。 【思考・判断・表現】 ４．保健医療福祉制度および地域包括ケア体制を構成する医療・福祉・介護に関する多職種の役割・機能を踏まえて、ケア対象者を中心とした効果的な多職種連携・協働のあり方について考察できる。 ５．地域での療養を必要とする人々が、生活の場の移行を円滑に行い、継ぎ目のないケアを受けながら主体的に生活することを実現するために看護職の果たす役割を、在宅医療に関連する制度を踏まえて考察できる。 【主体性・協働性】 ６．対象者や専門職者らと、場と状況に応じたコミュニケーションスキルを活用して報告、連絡、相談ができる。 ７．学生としての適切な姿勢・態度で援助場面に参加できる。 ８．実習で関わるすべての人に対して、価値観や信条、生活背景を尊重する行動をとると共に、地域で暮らす人々が抱える様々な健康問題を支援する取り組みについて倫理的な観点から考察できる。 【カリキュラム上の位置づけ】 これまで学修した地域包括ケアシステムを発展させる科目や看護学専門領域科目で習得した知識・態度を、臨床の場において統合する科目として位置付けている。
授業の内容 実習施設は、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、障害者生活支援センター、就労支援事業所である。 １．臨地でのオリエンテーション 実習施設の概要や活動内容、多職種、他機関の連携等について指導者から説明を受ける。 ２．実習指導者への同行実習 主に、家庭訪問や相談、調整場面の見学、事業・地域活動への参加、地域ケア会議やサービス担当者会議等の参加、対象者が行う作業やリクリエーションの参加を行う。 ３．カンファレンス 臨地でのカンファレンスと実習最終日に他の施設で実習を行った学生間との学びの共有を行う。 ４．担当教員との面談 自己の学修状況および成果を確認するために、ルーブリックを用いて実習目標の達成を評価し、担当教員との面談を通して今後の課題を明確にする。
成績評価の方法 地域包括ケア実習ルーブリックに基づき評価する。 １．地域で暮らす健康及び生活課題をもつ人々を支える地域の取り組みを理解する 35点（到達目標①②③） ２．地域の包括的支援体制の実際と、課題解決に向けた取り組みを理解する 35点（到達目標④⑤） ３．看護学生として、対象の尊厳を守る姿勢を保ち、実習で関わる対象者や専門職者らとの円滑な人間関係の構築と倫理観を身につけることができる 30点（到達目標⑥⑦⑧）
テキスト 既修の科目の講義で使用したテキストおよび配布資料。参考書籍、文献は随時紹介する。
参考文献 適宜紹介する。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等) ・実習要綱に記載のある事前課題を参考に、これまでの既修科目の復習と事前学修を十分に行い、実習に必要な知識や態度を身につけたうえで、実習に臨む。なお、実習の詳細については、オリエンテーションにて説明する。 ・事前に自宅から実習先までの経路を調べておく。 【実務経験を生かした実践的な教育について】 豊富な看護職経験を有する教員と臨地の実習指導者（看護師、保健師、ケアマネジャー、精神保健福祉士等）が連携して、地域の医療・介護・福祉専門職の役割について指導を行う。
授業計画

授業計画
「地域包括ケア実習要綱」参照
シラバス備考
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください
地域包括ケア実習ルーブリック.pdf

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
統合実習Ⅱ（看護）（Q2）
担当教員氏名
青井 聡美 池田 ひろみ 井上 誠 上野 陽子 岡田 淳子 岡田 ゆみ 沖西 紀代子 奥田 玲子 黒田 寿美恵 菅井 敏行 俵 志江 松森 直美 山中 道代 渡辺 陽子
研究室の場所
学生便覧を参照
連絡先電話番号
学生便覧を参照
オフィスアワー
教員個別に空いた時間に対応します（要予約）
E-mail/HP
学生便覧を参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
臨地にて実習を行う
単位数
1
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
必修

履修要件
看護学コース4年次対象 看護研究の基礎、統合実習Ⅰ、地域包括ケア実習、急性期看護実習、慢性病看護実習、高齢者看護実習、精神看護実習、周産期看護実習、小児看護実習、在宅看護実習（訪問）の単位を修得（修得見込みを含む）していること。
免許等指定科目
看護師国家試験受験資格に係る必修科目
キーワード
探究、理論と実践の統合、科学的根拠に基づく看護実践、看護専門職としての専門性の明確化
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ
【学修の到達目標】 保健医療福祉組織において展開される看護の機能や活動について、既知の理論・研究成果の実践的活用を探究し、保健医療福祉サービスを受ける人々への最大限の利益享受を目指す姿勢を養う。さらに他者と協働してケアの質改善に取り組み、看護専門職として役割と責任を果たす能力および態度を養う。 ①既知の理論・研究知見と保健医療福祉組織において展開される関心のある看護の機能や看護活動に焦点を当て、既知の理論・研究知見と保健医療福祉組織で展開される実践とを比較検討しながら科学的に探究することで、保健医療福祉サービスを受ける人々への最大限の利益享受を目指した看護活動を考察することができる。 ②看護活動を科学的に探究し、他者と協働してケアの質改善に取り組む過程を通して、看護専門職としての専門性を発揮していくことの責務を考察することができる。 ③自らが目指す看護専門職に必要な知識・技術・態度の修得に向け、主体的・自律的に学修に取り組むことができる。
【カリキュラム上の位置づけ】 看護学に関する既修の知識と技術を臨地で統合して実践する科目に位置づけている。
授業の内容
各自が関心のある看護学分野を選択し、既知の理論・研究知見を整理する過程で自らの探究テーマを設定し、テーマに基づいた実習計画を立案する。 臨床指導者に対して、各自の探究テーマ・実習計画のプレゼンテーションを行い、助言を受けた後に実習計画の再調整を行い、対象者に対して科学的根拠に基づいた看護を実践する。
成績評価の方法
授業の目標①～③を統合実習Ⅱのルーブリックに基づき評価する。
テキスト
指定しない。 既修得科目のテキスト・資料、検索データベースを用いて検索・収集した研究論文等を活用する。
参考文献
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
【実務経験をいかした実践的な教育について】 多様な専門分野における看護師経験を有する教員が、臨床指導者と協働して学生指導にあたる。 【履修上のアドバイス】 ・本実習は、事前学修を含めた取り組みが重要である。十分に事前準備を行い、自分自身の探究テーマと、テーマを明らかにするための実習計画を明確にして実習に臨む。 ・基本的な感染対策行動を習慣づけるとともに、健康管理に十分留意する。 ・医療や看護行為を患者・家族に実施する場合は、指導教員・臨地実習指導者の助言を受けて実践する。 ・実習先までの交通費が必要となる。

授業計画
授業計画
「統合実習Ⅱ」実習要綱参照

シラバス備考
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください
R7 統合実習ルーブリック.pdf

シラバス参照

シラバス検索 > 検索結果一覧 > シラバス参照

授業科目名
キャリアビジョン（デベロップメント）（Q1）三原C
担当教員氏名
原田 淳
研究室の場所
学生便覧参照
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
特に時間帯を定めない（事前にメール、チャット、あるいは、電話で連絡し面談の予約をすること）。
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
原則として対面授業。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の受講レポートに授業の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを記す。
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
全コース2年次対象
免許等指定科目
キーワード
キャリア形成，ストレスマネジメント，マインドフルネス
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ

本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けるマインドフルネスを習得する。

【到達目標】

＜知識・技能の観点＞

1. 心理・社会的ストレスのメカニズムと、ストレスが心身や行動に与える影響について説明できる。

2. 瞑想的運動法、呼吸法、瞑想法がストレスマネジメントに有効な理由を説明できる。

＜思考力・判断力・表現力の観点＞

3. 自身の認知や行動を客観的にとらえ言語化できるようになる。

＜主体性・協働性の観点＞

4. 演習で行うペアワーク・グループワークに積極的に参加している。

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は、全学共通教育科目「キャリア開発」（キャリア）の一つとして位置づけられている。

授業の内容
心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りを行うことにより望ましい認知のあり方について考える。
成績評価の方法
講義中の演習50%、期末レポート50%で評価する。
テキスト
テキスト（教科書）は特に指定しない。
参考文献
参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
演習はグループワークを行うため、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 企業に勤務経験のある教員が、その経験をふまえて、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習（呼吸を整える）	
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習（微細な動きを意識する）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを受講レポートに記しておく。
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習（ブリージング・エクササイズ）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを受講レポートに記しておく。
第4回	瞑想的運動法 ・実習（ブリージングエクササイズ、アイソメトリック運動）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを受講レポートに記しておく。
第5回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを受講レポートに記しておく。
第6回	好き・嫌いの感情を克服する ・好き・嫌いが生じるしくみ ・『人間万事塞翁が馬』	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを受講レポートに記しておく。
第7回	呼吸の意識化、呼吸法 ・実習（呼吸の意識化、呼吸法）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを受講レポートに記しておく。

第8回	レジリエンス ・レジリエンスとは ・演習（ライフラインチャート）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第9回	瞑想法 ・実習（リラクセーション反応、ヴィパッサナー瞑想）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第10回	“いま、ここ”を生きる ・マインドフルネス	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第11回	環境調整の方法 ・実習（セクショナルブリージング、完全呼吸法）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第12回	不安への対処 ・実習（オープンモニタリング瞑想）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第13回	執着・こだわりからの解放 ・実習（呼吸法、瞑想法）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第14回	仕事とストレス ・東洋思想の教える仕事への取り組み方	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第15回	まとめ ・実習（アイソメトリック運動、呼吸法、瞑想法） ・授業評価アンケート ・受講レポート提出に関する説明	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください
ルーブリック（キャリアビジョン（ストレスマネジメント））.pdf

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
インターンシップ（Q4）
担当教員氏名
原田 淳
研究室の場所
広島キャンパス キャリアセンター
連絡先電話番号
オフィスアワー
随時（事前にメール、チャット、あるいは、電話で連絡し面談の予約をすること）。
E-mail/HP
授業形態
ハイブリット
授業の形式・方式
ハイブリッド授業。通年集中講義。 事前学習及び事後学習は、授業日程にしたがって、主に講義形式及び演習形式で実施する。 就業体験は、授業等のない休日・休暇の期間に実施する。 原則として、事前学習、就業体験、事後学習の欠席・遅刻・早退は認めない。 すべての授業への参加と就業体験が義務づけられる。
単位数
2
時間数
60
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
保健福祉学科2年次対象 保健福祉学部3年生対象
免許等指定科目
キーワード

自己分析、就業体験、職業選択、職業適性、ビジネスマナー
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめるため、就業体験に取り組む。 本科目の目標は、多様な職場や職業に対して関心を持ち、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とする。 【到達目標】 ＜知識・技能の観点＞ 1. ビジネスマナーの基本について理解している。 2. 自己PRの基本について理解している。 ＜思考力・判断力・表現力の観点＞ 3. 将来の進路・就職について考え、就業体験先について検討する。 ＜主体性・協働性の観点＞ 4. 事前学習に積極的に参加している。 【カリキュラム上の位置づけ】 本科目は、全学共通教育科目「キャリア開発」（キャリア）の一つとして位置づけられている。また、進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担うものである。
授業の内容 企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。 事前学習では、ガイダンス、ビジネスマナー講座、自己目標の設定等に取り組む。 就業体験は、授業等のない休日・休暇の期間に実施する。 事後学習では、就業体験の発表を行うとともに、実習報告書を作成し提出する。
成績評価の方法 事前学習の課題（20％）、受入先の評価（30％）、事後学習の発表と実習報告書等（50％）を総合して評価する。課題については、履修登録者を対象とするガイダンス（Teamsによるオンライン）で提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び修行体験における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。
テキスト
事前学習の資料、および、報告書等の様式は、Teamsからダウンロードする。
参考文献
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等) 履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。 履修登録者は、Teamsのチーム『R6インターンシップ（三原キャンパス）』のメンバーとして登録し、チーム内の会議としてガイダンス（オンライン、4月下旬を予定）を実施するので、出席すること（履修登録せずにガイダンスに出席したい場合は、事前にメール、あるいは、チャットで担当教員に連絡すること）。 授業に関する連絡は、Teamsのチームに掲示する。 受講のルールについては、ガイダンスにおいて提示する。 正当な理由なく、履修の途中での放棄、事前学習、就業体験、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 受入先の企業等において、実践的な研修を行う。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	ガイダンス	コースカタログ・シラバスを読んでおく。
第2回	応募手続き等の説明	ガイダンスの内容をよく理解する。
第3回	応募手続きとビジネスマナー等事前学習	前回の復習および就業体験に関する情報を収集しておく。
第4回	事前学習、グループワーク	就業体験先の情報収集をしておく。
第5回	就業体験	就業体験先について理解をはかり、事前学習の復習をしておく。
第6回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第7回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。

第8回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第9回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第10回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第11回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第12回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第13回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第14回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第15回	事後学習および発表準備	就業体験時の記録をまとめておく。
第16回	事後学習および発表	就業体験時の記録をまとめて、発表資料を作成する。

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
地域情報発信論（Q2）
担当教員氏名
広谷 大助 藤井 宣彰 吉田 倫子
研究室の場所
学生便覧参照
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
対面授業（状況によってはオンライン（リアルタイム）で実施） 前期集中講義（4日間。2025年8月25日（月）～8月28日（木）の予定） サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
保健福祉学科（2021年度入学以前の看護学科，理学療法学科，作業療法学科，コミュニケーション障害学科，人間福祉学科を含む） 2～4年次対象
免許等指定科目
キーワード

新聞，取材，ディベート，ディスカッション，記事，グループワーク，プレゼンテーション

授業の目標とカリキュラム上の位置づけ

【授業の目標】

知能・技能の観点

①自分で考える：授業内容や関連する新たな内容に対して，自分で考え，理解し説明することができる

思考力・判断力・表現力の観点

②調べる：必要な情報を適切な方法で収集し，活用しやすい内容に整理できる。

③文章を構成する：自分の考えを正確にわかりやすく，そして説得力ある形で文章にすることができる。

④プレゼンテーション力：自分の考えを正確にわかりやすく説明でき，質問や批判に適切に対応できる。

⑤コミュニケーション力：他の人の意見を聞き，その内容を理解した上で，積極的に自分の意見を述べることができる。

主体性・協調性の観点

⑥関心度：テーマについて関心があり，テーマについて更に深く掘り下げたいと思っている。

⑦問題を発見する・問いを立てる：新たな課題を発見することができる。あるいは，どんなことを掘り下げればよいかという問いを設定し，その解決をはかることができる。

⑧協調性：他の人の意見を聞き，その上で，ともに問題について考えることができる。また，グループの他の人と協働して作業をすることができる。

⑨リーダーシップ：グループ内の異なる主張や対立を把握した上で，自ら率先してメンバーに問いかけ，グループ内の意見をとりまとめることができる。また，グループメンバーの積極的な参加を促すような発言や行動ができる。

【カリキュラム上の位置づけ】

全学共通教育科目・地域課題

授業の内容

新聞で報じられた地域の情報を素材として，新聞の読み方，取材対象の見方，記事作成の手法を学ぶとともに，新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。

テーマに沿った記事を読み，課題を設定した上で，現地へ出向いて取材し，意見交換を経て記事をまとめるなど，地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに，グループで課題解決への提案をまとめ，プレゼンテーションを行うことを通じて議論を深める。

成績評価の方法

課題レポート（50％）（到達目標①②③⑥⑦）

グループ討議，ポスター発表を含む，授業への参加度（50％）（到達目標④⑤⑧⑨）

なお，単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする

テキスト

事前に配付される新聞記事を用いる

参考文献

適宜紹介する

備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)

日頃より新聞に親しみ，幅広く地域の情報に触れるとともに，報じられている内容に関する情報を積極的に集め，自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。

集中講義の詳細な日程・テーマ等は事前説明会（7月上中旬にオンライン(Teams)にて開催）にて説明する。事前説明会には必ず参加すること。参加がない場合は受講を認めない。

また，本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため，4日間全ての出席が必須となる。よって，1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。

なお，フィールドワークにかかる費用及び試読期間中の新聞購読代金（250円の予定）は自己負担となる。

【実務経験を活かした実践的な教育について】

長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により，取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。

授業計画

授業計画

授業の流れは概ね次のとおり（一部変更の可能性あり）

事前課題：試読期間（7月下旬）に配付された新聞を読み，記事を選んで概要をまとめ，意見を述べる

- 第1日：オリエンテーション，事前課題の確認，テーマに関する講義
第2日：取材計画，取材実習（フィールドワーク），記事風レポート作成
第3日：記事風レポート発表，グループ討議，プレゼンテーション準備
第4日：プレゼンテーション最終準備，プレゼンテーション，振り返り討議

期間中の課題：翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む

事後課題：授業で学び得たことを踏まえて，新たな課題を発見し，レポートをまとめる

シラバス備考

URLリンク

科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

【科目ルーブリック改訂案】「地域情報発信論」.pdf

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
チーム医療福祉論（Q2）
担当教員氏名
梅井 凡子 永野 なおみ 長谷川 純 吉川 ひろみ 渡辺 陽子
研究室の場所
渡辺（3415）, 吉川（3404）, 梅井（2504）, 長谷川（3517）, 永野（4524）
連絡先電話番号
学生便覧を参照
オフィスアワー
各教員に連絡を取り日程調整すること
E-mail/HP
学生便覧を参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
グループワークを中心とする
単位数
1
時間数
15
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
全コース必修
履修要件
1年次必修科目
免許等指定科目
キーワード

ヘルスケア専門職，ヘルスサポーターマインド，チームアプローチ，患者中心医療，利用者主体のサービス，リハビリテーション，倫理
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ
【授業の目標】 1. 異なる専門領域の学生が共に学ぶ機会を得ることにより，お互いを尊重する姿勢を学ぶ。 2. ケアチームの概念，チームワークの難しさと効果，リーダーシップ，組織管理について学習する。 3. グループワークを通して連携の方法論とグループダイナミクスについて考察する。 上記により将来よりよいチームアプローチを実践するための基礎を培う。 具体的な到達目標と成績評価との関係 知識・技能の観点 ①疾病・障害予防，リハビリテーション，福祉において，どの専門職がどのように関わるかについて説明できる。 思考・判断・表現の観点 ②講義の内容を参考に，各専門職の役割と連携・協働のあり方について，自己の考えを述べることができる。 主体性・協働性の観点 ③課題に主体的に取り組み，その成果を提出締め切りまでに提出できる。 ④他の学生と互恵的関係を築き，グループの学修成果への責任を果たすことができる。 【科目の位置づけ】 「地域包括ケアシステムを発展させる科目」群に位置づけられている。
授業の内容
学科横断的に編成するグループで，演習を通してチームとしての成長を経験する。
成績評価の方法
授業後の課題60点（到達目標①②③），発表10点（到達目標①②④），最終レポート課題30点（到達目標①②③） 欠席遅刻，課題の提出遅れは減点対象とする。
テキスト
参考文献
吉川ひろみ，上野哲『倫理でスッキリ医療従事者のモヤモヤ解消法』（シービーアール）
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
コース選択枠で入学した学生は，必ず履修すること 【実務経験を生かした実践的な教育について】 医療福祉現場において実務経験を有する教員が，多職種連携アプローチの実際について紹介し，学生はよりよいチーム医療福祉について考える。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	オリエンテーション よりよいチームとは ヘルスサポーターマインド	よりよいチームになるために必要なことを考える。
第2回	グループワーク①	講義資料及び関係資料を読んでグループワークに必要なことを考える。発表が円滑に進むための役割分担などの準備をする。
第3回	グループワーク②	講義資料及び関係資料を読んでグループワークに必要なことを考える。発表が円滑に進むための役割分担などの準備をする。
第4回	グループワーク③	講義資料及び関係資料を読んでグループワークに必要なことを考える。発表が円滑に進むための役割分担などの準備をする。
第5回	グループワーク④	講義資料及び関係資料を読んでグループワークに必要なことを考える。発表が円滑に進むための役割分担などの準備をする。
第6回	グループワーク⑤	講義資料及び関係資料を読んでグループワークに必要なことを考える。発表が円滑に進むための役割分担などの準備をする。
第7回	当事者さんの体験から考える	事前に提供された資料を確認し，必要に応じ調べ学習をしておく。
第8回	振り返りとまとめ	これまでの授業を振り返って考えをまとめる。

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

授業科目名
チーム医療福祉演習（Q3）
担当教員氏名
麻生 浩司 伊藤 泰三 井上 誠 上野 陽子 梅井 凡子 大古場 良太 岡村 和典 越智 あゆみ 金井 秀作 加利川 真理 古山 千佳子 佐藤 紀代子 高木 雅之 津田 哲也 手島 洋 永野 なおみ 細川 淳嗣 堀江 真由美 増田 久美子 森 大志 楊 慧敏
研究室の場所
三原キャンパス 3405研究室
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
担当教員ごとに後日指定する。
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
各コースの横断的小グループによる演習形式の対面授業。講義，小グループでのディスカッション，資料の作成および中グループでの発表。
単位数
1

時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
必修
履修要件
全学科 4 年次対象
免許等指定科目
看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目
キーワード
チーム医療，主体的学習，討論，学習方法
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ
【到達目標】 ①専門職種の専門性を認め，相互の理解を深めると共に，共通の専門用語を駆使して多職種で多面的な討論検討ができる。 ②患者・障害者の要求に応えるために，各専門職がどのように連携しチーム医療を支えるべきか，各専門職としての役割は何かを考え，説明することができる。 ③患者・障害者のための保健医療およびチーム医療のあり方を理解し，説明することができる。 この科目は，地域包括ケアシステムを発展させる科目として位置づけられており，これまで学んできた専門知識や技術にもとづき，学生主導で行われる。
授業の内容
学内・現場実習終了後の学生が，これまでに学んできた専門知識・技術や実習での経験にもとづき，コース横断的な小グループで事例（医学事例，地域事例，倫理事例）を中心とした多面的な討論検討を行ったり，ロールプレイ等を用いて具体的なチームアプローチを経験する。さらに，討論検討内容やロールプレイの経験等をまとめて資料を作成し，発表する。
成績評価の方法
グループワーク 60点（到達目標①） 発表 10点（到達目標②③） 課題レポート 30点（到達目標②③）
テキスト
吉川ひろみ，上野 哲 著『倫理ですっきり 医療従事者のモヤモヤ解消法』（シービーアール）2020
参考文献
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
【実務経験を生かした実践的な教育について】 学生は，具体的な事例について多職種連携アプローチについてディスカッションし，考える。医療福祉現場の実務経験を有する教員が指導する。 これまでの講義，学内実験・実習，臨床実習で学んだことを思い起こし，グループでよく議論すること。 初日に手引きを配布するので，そのスケジュールに従って行動する。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	オリエンテーション，自己紹介，アイスブレイク	チーム医療福祉演習の手引きおよびテキストを読む。 学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第2回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第3回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。

第4回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第5回	中グループで発表（倫理または地域事例）	発表の準備。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第6回	医学事例の紹介，事例情報の読み込み 10時20分前後に担当事例を公表	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する
第7回	各コースの実習室等でデモンストレーションの実施	デモンストレーションの準備。
第8回	各コースの実習室等でデモンストレーションの実施	デモンストレーションの準備。
第9回	各グループで医学事例の検討	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について振り返る。
第10回	各グループで医学事例の検討	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について振り返る。
第11回	医学事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ，グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	当事者への質問を考えておく。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について振り返る。
第12回	医学事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ，グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	当事者への質問を考えておく。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について振り返る。
第13回	医学事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ，グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	当事者への質問を考えておく。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について振り返る。
第14回	中グループで発表（医学事例）	発表の準備。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について振り返る。
第15回	チーム医療福祉演習全体のまとめと振り返り	これまでの学習を振り返る。

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
基礎臨床実習Ⅰ（Q2）（理学）
担当教員氏名
飯田 忠行 梅井 凡子 大古場 良太 岡村 和典 小野 武也 金井 秀作 金指 美帆 佐藤 勇太 島谷 康司 田中 聡 積山 和加子 西上 智彦 長谷川 正哉
研究室の場所
学生便覧参照
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
各教員により異なるので事前に調整し予約をすること。
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
学外臨床実習施設の臨床実習指導者の指導下での臨床実習を実施する。 新型コロナウイルスを含む感染症の感染拡大防止のために学内実習もしくはオンライン実習に変更する場合がある。
単位数
1
時間数
45
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
理学療法学コース必修

履修要件		
理学療法学コース2年次対象		
免許等指定科目		
理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード		
総合リハビリテーション、医学的リハビリテーション、リハビリテーション医学、チーム医療、理学療法士、運動療法、物理療法		
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ		
基礎臨床実習Ⅰでは、医療現場における理学療法の位置付けと理学療法業務の概要を実際の臨床場面を見学させることによって把握させる。 また、実習指導者の指導・監督の下で、患者とのコミュニケーションを図ったり、患者の移動を補助的に行ったりすることで医療人としての責任感の育成や動機付けの向上を目指す。 理学療法学コース専門領域特有の科目であり、臨床実習に位置付けられる。		
授業の内容		
臨床実習施設にて5日間、実習指導者の下で臨床実習を実施する。 以下の内容を実習目標とする。 １）実習施設の概要を理解する。２）他の医療職の臨床を見学し、理学療法部門を含めたチーム医療としての各部門の位置付けを理解する。３）処方から退院までの理学療法業務の流れを理解する。４）情報収集の実践を行い、処方箋、カルテの読み方から問診の取り方、関節可動域測定法などを理解する。５）実習指導者の指導や他部門からの情報収集、患者への問診などを通じ医療人としての適切な倫理観と態度を身に付ける。		
成績評価の方法		
実習指導者からの報告と出席状況、実習後に課すレポートの提出と内容によって総合的に評価する。 無断欠席（実習前オリエンテーションおよび実習終了後の報告会を含む）を行うとその時点で実習が中止になることがある。 正当な理由なく欠席が実習日数の1/5を超えた場合は、評価の対象とみなさない。 「臨床実習の手引き」記載内容および別途大学から指示された事項に違反があった場合、実習中止もしくは単位認定不可と判断することがある。 レポート、評価表、感想、出席表などの提出書類の不備は減点対象とする。 臨床実習前報告などのFormsが指定された期日までに回答されなかった場合は減点対象とする。		
テキスト		
参考文献		
実習地での経験に応じ、各自が他の教科の教科書や参考文献を用意すること。 豊田輝／編『症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈実践テキスト』（羊土社） 鶴見隆正編『標準理学療法学・臨床実習とケーススタディー・第3版』（医学書院）		
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)		
【実務経験を活かした実践的な教育について】 理学療法士として必要な基礎的能力を身に付けるため、理学療法の臨床現場において実際に理学療法を実施している場面を医療機関等にて見学する。 理学療法士としての経験が5年以上である実習指導者の指導の下、対象者からの情報収集を経験する。		

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	基礎臨床実習Ⅰでは、医療現場における理学療法の位置付けと理学療法業務の概要を、実際の臨床場面を見学させることによって把握させる。また、実習指導者の指導・監督の下で、患者とのコミュニケーションを図ったり、患者の移動を補助的に行ったりすることで、医療人としての責任感の育成や動機付けの向上を目指す。	学内で学修した事項を整理しておくこと。 臨床実習施設の概要について確認しておくこと。 体調管理に努めること。
授業計画		
シラバス備考		

URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください
基礎臨床実習 1.xlsx

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
基礎臨床実習Ⅱ（Q4）（理学）
担当教員氏名
飯田 忠行 梅井 凡子 大古場 良太 岡村 和典 小野 武也 金井 秀作 金指 美帆 佐藤 勇太 島谷 康司 田中 聡 積山 和加子 西上 智彦 長谷川 正哉
研究室の場所
学生便覧参照
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
各教員により異なるので事前に調整し予約をすること。
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
学外臨床実習施設の臨床実習指導者の指導下での臨床実習を実施する。 新型コロナウイルスを含む感染症の感染拡大防止のために学内実習もしくはオンライン実習に変更する場合がある。
単位数
4
時間数
180
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
理学療法学コース必修

履修要件
理学療法学コース3年次生対象
免許等指定科目
理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目
キーワード
総合リハビリテーション、医学的リハビリテーション、リハビリテーション医学、チーム医療、理学療法士、運動療法、物理療法
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ
基礎臨床実習Ⅱでは、臨床実習場面で実習指導者の指導・監督の下に、とくに理学療法評価に関する実習を行う。学内での講義や実技実習で学んだ各種の評価手技を対象の方（患者）に適用する場合の注意点や反応の実際について学ぶ。 理学療法学コース専門領域特有の科目であり、臨床実習に位置付けられる。
授業の内容
基礎臨床実習Ⅱの実習は、臨床実習施設において20日間以上行われる。 その内容は、各施設における実習指導者の指導・監督の下、実際の対象の方（患者）に対して理学療法評価を行い、その結果の解釈・統合・検証、さらに治療計画の立案までを経験する。 学内においては実習前オリエンテーションを、実習終了後には報告会を行い、次の総合臨床実習に繋げていく。
成績評価の方法
実習前の知識・技能評価、出席と実習指導者による報告書、実習後の課題等により総合的に評定する。 実習前の知識・技能評価を受験しない場合や不合格判定の場合には臨床実習に臨むことができない。 無断欠席（実習前オリエンテーションおよび実習終了後の報告会を含む）を行うとその時点で実習が中止になることがある。 正当な理由なく欠席が実習日数の1/5を超えた場合は、評価の対象とみなさない。 「臨床実習の手引き」記載内容および別途大学から指示された事項に違反があった場合、実習中止もしくは単位認定不可と判断することがある。 レポート、評価表、感想、出席表などの提出書類の不備は減点対象とする。 臨床実習前報告などのFormsが指定された期日までに回答されなかった場合は減点対象とする。
テキスト
豊田輝／編『症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈実践テキスト』（羊土社）
参考文献
実習施設で担当した症例に応じ、各自が他の教科の教科書や参考文献を用意すること。 鶴見隆正編『標準理学療法学・臨床実習とケーススタディー・第2版』（医学書院）
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
【実務経験を活かした実践的な教育について】 学外臨床実習施設において理学療法士としての実務経験が5年以上かつ臨床実習指導者要件を満たしている臨床実習指導者の下で理学療法業務を経験する。基礎臨床実習Ⅱにおいては理学療法プロセスにおける検査測定を中心とした実際の理学療法を経験する。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	基礎臨床実習Ⅱでは、臨床実習場面で実習指導者の指導・監督の下に、特に理学療法評価に関する実習を行う。学内の講義・実習で学んだ各種の評価手技を患者に適用する場合の注意点や患者の反応の実際について学ぶ。	学内で学修した事項を整理しておくこと。 臨床実習施設の概要について確認しておくこと。 体調管理に努めること。

授業計画
シラバス備考
URLリンク

科目ループがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
地域臨床実習（Q4）
担当教員氏名
飯田 忠行 梅井 凡子 大古場 良太 岡村 和典 小野 武也 金井 秀作 金指 美帆 佐藤 勇太 島谷 康司 田中 聡 積山 和加子 西上 智彦 長谷川 正哉
研究室の場所
学生便覧参照
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
各教員により異なるので事前相談し予約をすること
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
学外臨床実習施設の臨床実習指導者の指導下での臨床実習を実施する。 新型コロナウイルス感染を含む感染症の拡大防止のために学内実習もしくはオンライン実習に変更する場合がある。
単位数
1
時間数
45
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
理学療法学コース必修

履修要件
理学療法学コース3年次対象
免許等指定科目
理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目
キーワード
総合リハビリテーション、医学的リハビリテーション、リハビリテーション医学、チーム医療、理学療法士、運動療法、物理療法、地域理学療法
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ
地域臨床実習では、理学療法対象者に対する理学療法アプローチの見学、一部を補助・体験することを目的とする。 実際には、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション利用者に対する理学療法やケアプランの立案過程を見学する。 本実習を通して、対象者が地域で生活するために、「活動」と「参加」の結びつきを基軸とした「心身機能」「背景因子」も含めた包括的な理学療法の学修を目指す。 本科目は理学療法学コース専門領域特有の科目であり臨床実習に位置付けられる。
授業の内容
実習施設にて5日間、臨床実習指導者の下で臨床実習を実施する。 以下の内容を実習目標とする。 １）施設および通所・訪問リハビリテーション等の概要を理解する。２）主治医の指示書やケアプラン等の各種記録物の閲覧、本人・家族や関連職種から可能な範囲で必要な情報を聴取し、情報収集の必要性を理解する。３）バイタルサインの測定、心身機能の評価、自覚症状の訴え等、通所・訪問リハビリテーションを実施する上で必要なリスク管理に関する評価方法の習得と対応の重要性を理解する。４）急変時の連絡・連携方法、理学療法士が行うべき救急処置等を理解する。５）通所・訪問リハビリテーション利用者に対する理学療法やケアプランの立案過程を理解する。６）対象者の生活に根ざした包括的な理学療法を理解する。７）一連の体験を通じ、理学療法士としての適切な倫理観と態度を身に付ける。
成績評価の方法
実習指導者からの報告と出席状況、実習後に課すレポートの提出と内容によって総合的に評価する。 無断欠席（実習前オリエンテーションおよび実習終了後の報告会を含む）を行うとその時点で実習が中止になることがある。 正当な理由なく欠席が実習日数の1/5を超えた場合は、評価の対象とみなさない。 「臨床実習の手引き」記載内容および別途大学から指示された事項に違反があった場合、実習中止もしくは単位認定不可と判断することがある。 レポート、評価表、感想、出席表などの提出書類の不備は減点対象とする。 臨床実習前報告などのFormsが指定された期日までに回答されなかった場合は減点対象とする。
テキスト
参考文献
実習地での経験に応じ、各自が他の教科の教科書や参考文献を用意すること。 鶴見隆正／編『標準理学療法学・臨床実習とケーススタディー・第2版』（医学書院） 豊田輝／編『症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈実践テキスト』（羊土社）
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
【実務経験を活かした実践的な教育について】 理学療法士として必要な基礎的能力を身に付けるため、理学療法の臨床現場において実際に理学療法を実施している場面を医療機関等にて見学する。理学療法士としての経験が5年以上である実習指導者の指導の下、対象者からの情報収集を経験する。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	地域臨床実習では、通所・訪問リハビリテーションにおける理学療法の位置付けと理学療法業務の概要を、実際の臨床場面を見学・一部補助や体験させることによって把握させる。また、実習指導者の指導・監督の下で、対象者とのコミュニケーションを図ったり、対象者の移動を補助的に行ったりすることで、医療人としての責任感の育成や動機づけの向上を目指す。	学内で学修した事項を整理しておくこと。 臨床実習施設の概要について確認しておくこと。 体調管理に努めること。
授業計画		

シラバス備考
URLリンク
科目ループバックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
キャリアビジョン（デベロップメント）（Q1）三原C
担当教員氏名
原田 淳
研究室の場所
学生便覧参照
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
特に時間帯を定めない（事前にメール、チャット、あるいは、電話で連絡し面談の予約をすること）。
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
原則として対面授業。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の受講レポートに授業の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを記す。
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
全コース2年次対象
免許等指定科目
キーワード
キャリア形成，ストレスマネジメント，マインドフルネス
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ

本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けるマインドフルネスを習得する。

【到達目標】

＜知識・技能の観点＞

1. 心理・社会的ストレスのメカニズムと、ストレスが心身や行動に与える影響について説明できる。

2. 瞑想的運動法、呼吸法、瞑想法がストレスマネジメントに有効な理由を説明できる。

＜思考力・判断力・表現力の観点＞

3. 自身の認知や行動を客観的にとらえ言語化できるようになる。

＜主体性・協働性の観点＞

4. 演習で行うペアワーク・グループワークに積極的に参加している。

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は、全学共通教育科目「キャリア開発」（キャリア）の一つとして位置づけられている。

授業の内容
心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りを行うことにより望ましい認知のあり方について考える。
成績評価の方法
講義中の演習50%、期末レポート50%で評価する。
テキスト
テキスト（教科書）は特に指定しない。
参考文献
参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
演習はグループワークを行うため、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 企業に勤務経験のある教員が、その経験をふまえて、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習（呼吸を整える）	
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習（微細な動きを意識する）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを受講レポートに記しておく。
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習（ブリージング・エクササイズ）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを受講レポートに記しておく。
第4回	瞑想的運動法 ・実習（ブリージングエクササイズ、アイソメトリック運動）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを受講レポートに記しておく。
第5回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを受講レポートに記しておく。
第6回	好き・嫌いの感情を克服する ・好き・嫌いが生じるしくみ ・『人間万事塞翁が馬』	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを受講レポートに記しておく。
第7回	呼吸の意識化、呼吸法 ・実習（呼吸の意識化、呼吸法）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを受講レポートに記しておく。

第8回	レジリエンス ・レジリエンスとは ・演習（ライフラインチャート）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第9回	瞑想法 ・実習（リラクセーション反応、ヴィパッサナー瞑想）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第10回	“いま、ここ”を生きる ・マインドフルネス	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第11回	環境調整の方法 ・実習（セクショナルブリージング、完全呼吸法）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第12回	不安への対処 ・実習（オープンモニタリング瞑想）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第13回	執着・こだわりからの解放 ・実習（呼吸法、瞑想法）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第14回	仕事とストレス ・東洋思想の教える仕事への取り組み方	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第15回	まとめ ・実習（アイソメトリック運動、呼吸法、瞑想法） ・授業評価アンケート ・受講レポート提出に関する説明	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ループリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください
ループリック（キャリアビジョン（ストレスマネジメント））.pdf

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
インターンシップ（Q4）
担当教員氏名
原田 淳
研究室の場所
広島キャンパス キャリアセンター
連絡先電話番号
オフィスアワー
随時（事前にメール、チャット、あるいは、電話で連絡し面談の予約をすること）。
E-mail/HP
授業形態
ハイブリット
授業の形式・方式
ハイブリッド授業。通年集中講義。 事前学習及び事後学習は、授業日程にしたがって、主に講義形式及び演習形式で実施する。 就業体験は、授業等のない休日・休暇の期間に実施する。 原則として、事前学習、就業体験、事後学習の欠席・遅刻・早退は認めない。 すべての授業への参加と就業体験が義務づけられる。
単位数
2
時間数
60
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
保健福祉学科2年次対象 保健福祉学部3年生対象
免許等指定科目
キーワード

自己分析、就業体験、職業選択、職業適性、ビジネスマナー
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめるため、就業体験に取り組む。 本科目の目標は、多様な職場や職業に対して関心を持ち、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とする。 【到達目標】 ＜知識・技能の観点＞ 1. ビジネスマナーの基本について理解している。 2. 自己PRの基本について理解している。 ＜思考力・判断力・表現力の観点＞ 3. 将来の進路・就職について考え、就業体験先について検討する。 ＜主体性・協働性の観点＞ 4. 事前学習に積極的に参加している。 【カリキュラム上の位置づけ】 本科目は、全学共通教育科目「キャリア開発」（キャリア）の一つとして位置づけられている。また、進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担うものである。
授業の内容 企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。 事前学習では、ガイダンス、ビジネスマナー講座、自己目標の設定等に取り組む。 就業体験は、授業等のない休日・休暇の期間に実施する。 事後学習では、就業体験の発表を行うとともに、実習報告書を作成し提出する。
成績評価の方法 事前学習の課題（20％）、受入先の評価（30％）、事後学習の発表と実習報告書等（50％）を総合して評価する。課題については、履修登録者を対象とするガイダンス（Teamsによるオンライン）で提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び修行体験における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。
テキスト
事前学習の資料、および、報告書等の様式は、Teamsからダウンロードする。
参考文献
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等) 履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。 履修登録者は、Teamsのチーム『R6インターンシップ（三原キャンパス）』のメンバーとして登録し、チーム内の会議としてガイダンス（オンライン、4月下旬を予定）を実施するので、出席すること（履修登録せずにガイダンスに出席したい場合は、事前にメール、あるいは、チャットで担当教員に連絡すること）。 授業に関する連絡は、Teamsのチームに掲示する。 受講のルールについては、ガイダンスにおいて提示する。 正当な理由なく、履修の途中での放棄、事前学習、就業体験、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 受入先の企業等において、実践的な研修を行う。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	ガイダンス	コースカタログ・シラバスを読んでおく。
第2回	応募手続き等の説明	ガイダンスの内容をよく理解する。
第3回	応募手続きとビジネスマナー等事前学習	前回の復習および就業体験に関する情報を収集しておく。
第4回	事前学習、グループワーク	就業体験先の情報収集をしておく。
第5回	就業体験	就業体験先について理解をはかり、事前学習の復習をしておく。
第6回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第7回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。

第8回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第9回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第10回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第11回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第12回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第13回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第14回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第15回	事後学習および発表準備	就業体験時の記録をまとめておく。
第16回	事後学習および発表	就業体験時の記録をまとめて、発表資料を作成する。

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
地域情報発信論（Q2）
担当教員氏名
広谷 大助 藤井 宣彰 吉田 倫子
研究室の場所
学生便覧参照
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
対面授業（状況によってはオンライン（リアルタイム）で実施） 前期集中講義（4日間。2025年8月25日（月）～8月28日（木）の予定） サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
保健福祉学科（2021年度入学以前の看護学科，理学療法学科，作業療法学科，コミュニケーション障害学科，人間福祉学科を含む） 2～4年次対象
免許等指定科目
キーワード

新聞，取材，ディベート，ディスカッション，記事，グループワーク，プレゼンテーション
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ
【授業の目標】 知能・技能の観点 ①自分で考える：授業内容や関連する新たな内容に対して，自分で考え，理解し説明することができる 思考力・判断力・表現力の観点 ②調べる：必要な情報を適切な方法で収集し，活用しやすい内容に整理できる。 ③文章を構成する：自分の考えを正確にわかりやすく，そして説得力ある形で文章にすることができる。 ④プレゼンテーション力：自分の考えを正確にわかりやすく説明でき，質問や批判に適切に対応できる。 ⑤コミュニケーション力：他の人の意見を聞き，その内容を理解した上で，積極的に自分の意見を述べるができる。 主体性・協調性の観点 ⑥関心度：テーマについて関心があり，テーマについて更に深く掘り下げたいと思っている。 ⑦問題を発見する・問いを立てる：新たな課題を発見することができる。あるいは，どんなことを掘り下げればよいかという問いを設定し，その解決をはかることができる。 ⑧協調性：他の人の意見を聞き，その上で，ともに問題について考えることができる。また，グループの他の人と協働して作業をすることができる。 ⑨リーダーシップ：グループ内の異なる主張や対立を把握した上で，自ら率先してメンバーに問いかけ，グループ内の意見をとりまとめることができる。また，グループメンバーの積極的な参加を促すような発言や行動ができる。 【カリキュラム上の位置づけ】 全学共通教育科目・地域課題
授業の内容
新聞で報じられた地域の情報を素材として，新聞の読み方，取材対象の見方，記事作成の手法を学ぶとともに，新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み，課題を設定した上で，現地へ出向いて取材し，意見交換を経て記事をまとめるなど，地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに，グループで課題解決への提案をまとめ，プレゼンテーションを行うことを通じて議論を深める。
成績評価の方法
課題レポート（50％）（到達目標①②③⑥⑦） グループ討議，ポスター発表を含む，授業への参加度（50％）（到達目標④⑤⑧⑨） なお，単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする
テキスト
事前に配付される新聞記事を用いる
参考文献
適宜紹介する
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
日頃より新聞に親しみ，幅広く地域の情報に触れるとともに，報じられている内容に関する情報を積極的に集め，自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は事前説明会（7月上中旬にオンライン(Teams)にて開催）にて説明する。事前説明会には必ず参加すること。参加がない場合は受講を認めない。 また，本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため，4日間全ての出席が必須となる。よって，1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお，フィールドワークにかかる費用及び試読期間中の新聞購読代金（250円の予定）は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により，取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。

授業計画
授業計画
授業の流れは概ね次のとおり（一部変更の可能性あり） 事前課題：試読期間（7月下旬）に配付された新聞を読み，記事を選んで概要をまとめ，意見を述べる

- 第1日：オリエンテーション，事前課題の確認，テーマに関する講義
第2日：取材計画，取材実習（フィールドワーク），記事風レポート作成
第3日：記事風レポート発表，グループ討議，プレゼンテーション準備
第4日：プレゼンテーション最終準備，プレゼンテーション，振り返り討議

期間中の課題：翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む

事後課題：授業で学び得たことを踏まえて，新たな課題を発見し，レポートをまとめる

シラバス備考

URLリンク

科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

【科目ルーブリック改訂案】「地域情報発信論」.pdf

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
チーム医療福祉論（Q2）
担当教員氏名
梅井 凡子 永野 なおみ 長谷川 純 吉川 ひろみ 渡辺 陽子
研究室の場所
渡辺（3415）, 吉川（3404）, 梅井（2504）, 長谷川（3517）, 永野（4524）
連絡先電話番号
学生便覧を参照
オフィスアワー
各教員に連絡を取り日程調整すること
E-mail/HP
学生便覧を参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
グループワークを中心とする
単位数
1
時間数
15
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
全コース必修
履修要件
1年次必修科目
免許等指定科目
キーワード

ヘルスケア専門職，ヘルスサポーターマインド，チームアプローチ，患者中心医療，利用者主体のサービス，リハビリテーション，倫理
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ
【授業の目標】 1. 異なる専門領域の学生が共に学ぶ機会を得ることにより，お互いを尊重する姿勢を学ぶ。 2. ケアチームの概念，チームワークの難しさと効果，リーダーシップ，組織管理について学習する。 3. グループワークを通して連携の方法論とグループダイナミクスについて考察する。 上記により将来よりよいチームアプローチを実践するための基礎を培う。 具体的な到達目標と成績評価との関係 知識・技能の観点 ①疾病・障害予防，リハビリテーション，福祉において，どの専門職がどのように関わるかについて説明できる。 思考・判断・表現の観点 ②講義の内容を参考に，各専門職の役割と連携・協働のあり方について，自己の考えを述べることができる。 主体性・協働性の観点 ③課題に主体的に取り組み，その成果を提出締め切りまでに提出できる。 ④他の学生と互恵的関係を築き，グループの学修成果への責任を果たすことができる。 【科目の位置づけ】 「地域包括ケアシステムを発展させる科目」群に位置づけられている。
授業の内容
学科横断的に編成するグループで，演習を通してチームとしての成長を経験する。
成績評価の方法
授業後の課題60点（到達目標①②③），発表10点（到達目標①②④），最終レポート課題30点（到達目標①②③） 欠席遅刻，課題の提出遅れは減点対象とする。
テキスト
参考文献
吉川ひろみ，上野哲『倫理でスッキリ医療従事者のモヤモヤ解消法』（シービーアール）
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
コース選択枠で入学した学生は，必ず履修すること 【実務経験を生かした実践的な教育について】 医療福祉現場において実務経験を有する教員が，多職種連携アプローチの実際について紹介し，学生はよりよいチーム医療福祉について考える。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	オリエンテーション よりよいチームとは ヘルスサポーターマインド	よりよいチームになるために必要なことを考える。
第2回	グループワーク①	講義資料及び関係資料を読んでグループワークに必要なことを考える。発表が円滑に進むための役割分担などの準備をする。
第3回	グループワーク②	講義資料及び関係資料を読んでグループワークに必要なことを考える。発表が円滑に進むための役割分担などの準備をする。
第4回	グループワーク③	講義資料及び関係資料を読んでグループワークに必要なことを考える。発表が円滑に進むための役割分担などの準備をする。
第5回	グループワーク④	講義資料及び関係資料を読んでグループワークに必要なことを考える。発表が円滑に進むための役割分担などの準備をする。
第6回	グループワーク⑤	講義資料及び関係資料を読んでグループワークに必要なことを考える。発表が円滑に進むための役割分担などの準備をする。
第7回	当事者さんの体験から考える	事前に提供された資料を確認し，必要に応じ調べ学習をしておく。
第8回	振り返りとまとめ	これまでの授業を振り返って考えをまとめる。

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ループリンクがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
チーム医療福祉演習（Q3）
担当教員氏名
麻生 浩司 伊藤 泰三 井上 誠 上野 陽子 梅井 凡子 大古場 良太 岡村 和典 越智 あゆみ 金井 秀作 加利川 真理 古山 千佳子 佐藤 紀代子 高木 雅之 津田 哲也 手島 洋 永野 なおみ 細川 淳嗣 堀江 真由美 増田 久美子 森 大志 楊 慧敏
研究室の場所
三原キャンパス 3405研究室
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
担当教員ごとに後日指定する。
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
各コースの横断的小グループによる演習形式の対面授業。講義，小グループでのディスカッション，資料の作成および中グループでの発表。
単位数
1

時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
必修
履修要件
全学科 4 年次対象
免許等指定科目
看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目
キーワード
チーム医療，主体的学習，討論，学習方法
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ
【到達目標】 ①専門職種の専門性を認め，相互の理解を深めると共に，共通の専門用語を駆使して多職種で多面的な討論検討ができる。 ②患者・障害者の要求に応えるために，各専門職がどのように連携しチーム医療を支えるべきか，各専門職としての役割は何かを考え，説明することができる。 ③患者・障害者のための保健医療およびチーム医療のあり方を理解し，説明することができる。 この科目は，地域包括ケアシステムを発展させる科目として位置づけられており，これまで学んできた専門知識や技術にもとづき，学生主導で行われる。
授業の内容
学内・現場実習終了後の学生が，これまでに学んできた専門知識・技術や実習での経験にもとづき，コース横断的な小グループで事例（医学事例，地域事例，倫理事例）を中心とした多面的な討論検討を行ったり，ロールプレイ等を用いて具体的なチームアプローチを経験する。さらに，討論検討内容やロールプレイの経験等をまとめて資料を作成し，発表する。
成績評価の方法
グループワーク 60点（到達目標①） 発表 10点（到達目標②③） 課題レポート 30点（到達目標②③）
テキスト
吉川ひろみ，上野 哲 著『倫理ですっきり 医療従事者のモヤモヤ解消法』（シービーアール）2020
参考文献
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
【実務経験を生かした実践的な教育について】 学生は，具体的な事例について多職種連携アプローチについてディスカッションし，考える。医療福祉現場の実務経験を有する教員が指導する。 これまでの講義，学内実験・実習，臨床実習で学んだことを思い起こし，グループでよく議論すること。 初日に手引きを配布するので，そのスケジュールに従って行動する。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	オリエンテーション，自己紹介，アイスブレイク	チーム医療福祉演習の手引きおよびテキストを読む。 学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第2回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第3回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。

第4回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第5回	中グループで発表（倫理または地域事例）	発表の準備。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第6回	医学事例の紹介，事例情報の読み込み 10時20分前後に担当事例を公表	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する
第7回	各コースの実習室等でデモンストレーションの実施	デモンストレーションの準備。
第8回	各コースの実習室等でデモンストレーションの実施	デモンストレーションの準備。
第9回	各グループで医学事例の検討	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について振り返る。
第10回	各グループで医学事例の検討	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について振り返る。
第11回	医学事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ，グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	当事者への質問を考えておく。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について振り返る。
第12回	医学事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ，グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	当事者への質問を考えておく。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について振り返る。
第13回	医学事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ，グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	当事者への質問を考えておく。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について振り返る。
第14回	中グループで発表（医学事例）	発表の準備。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について振り返る。
第15回	チーム医療福祉演習全体のまとめと振り返り	これまでの学習を振り返る。

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
総合臨床実習Ⅰ（作業）（Q1・Q2）
担当教員氏名
池内 克馬 今元 佑輔 織田 靖史 古山 千佳子 坂本 千晶 助川 文子 高木 雅之 田中 睦英 西田 征治 久野 真矢 増田 久美子 吉川 ひろみ
研究室の場所
2510研究室
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
臨床実習施設における実習。作業療法士の臨床実習指導者の下で9週間の臨床実習を行う。実習終了後、学内において事例報告書作成および発表を行う。※状況によって学外実習の代替として学内演習・オンラインで行う場合がある。
単位数
8
時間数
405
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
必須
履修要件

作業療法学科4年次生対象
免許等指定科目
作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目
キーワード
臨床実習，診療（作業療法）参加型実習，作業療法評価，作業療法計画立案，作業療法介入，事例報告
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ
【目的】 総合臨床実習では，評価により収集した情報から適切な作業療法計画を立案し，実施した結果を再評価によって確認するという作業療法過程を経験し，クライアントを中心としたチームアプローチの中で作業療法士の役割を理解することを目的とする。 【目標】 臨床実習指導者の指導・監督のもとで，典型的な障害特性を呈するクライアントに対して，以下のことができるようになることを一般目標とする。 ＜知識・技術＞ 許容される臨床技能を実践できる。 ＜思考・判断・表現＞ 臨床実習指導者の作業療法の臨床思考過程（クリニカルリーズニング）を説明し，作業療法の計画立案ができる。 ＜主体性・協働性＞ 作業療法士としての倫理観や基本的態度を身につける。 【カリキュラム上の位置付け】 「専門領域特有の科目」の「臨床実習」に位置する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 学外の臨床実習施設において作業療法士としての実務経験が5年以上の実習指導者のもとで診療（作業療法）参加型実習形態に基づいて実践的教育を行う。また，科目担当教員も作業療法士としての実務経験が5年以上であり，臨床実習指導者と連携する。実習終了後は事例報告書および発表に関して実践的教育を行う。
授業の内容
医療機関等に身を置き，診療（作業療法）参加型実習に基づいた臨床実習指導者の指導のもとでクライアントに接し，学内で学んだ作業療法理論に関する知識と技能および態度を身につける。実習終了後，学内において事例報告書を作成し，実習セミナーにおいて発表する。
成績評価の方法
総合臨床実習報告書，臨床実習録（デイリーノート），事例報告書（または経験報告書），自己学習ポートフォリオ，実習セミナーにおける出席・報告，実習前OSCE，その他の提出課題に対して総合的に評価する。
テキスト
・県立広島大学保健福祉学部作業療法学科：総合臨床実習の手引き。 ・吉川ひろみ，齋藤さわ子：作業療法がわかるCOPM・AMPS実践ガイド。医学書院，2014。
参考文献
・日本作業療法士協会：作業療法臨床実習指針（2018）・作業療法臨床実習の手引き（2022）。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
実習施設では職員の一員という心構えで臨むことと，社会人としての対応に逸脱がないよう真摯に実習に取り組むことが必要である。 実習中は，守秘義務を遵守すること。また，自己の健康管理にも十分に配慮すること。 何かあった場合には，施設担当教員または科目担当教員に連絡を取るようにすること。 ※実習の領域は1期・2期で合わせて検討し配置決めをしている。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	臨床実習ガイダンス（学内）【対面、場合によってオンライン】	3年次までに学習した専門基礎科目，専門科目の復習を行うておくこと。
第2回	第1週目 作業療法過程を診療（作業療法）・参加型実習により学ぶ（学外：臨床実習施設） ※場合によって学内・オンラインに変更	臨床実習指導者より提示された課題について学修すること。

第3回	第2週目 作業療法過程を診療（作業療法）・参加型実習により学ぶ（学外：臨床実習施設） ※場合によって学内・オンラインに変更	実習を通して経験できたこと、学んだこと、調べたことをディリーノート、ポートフォリオとして作成してゆくこと。
第4回	第3週目 作業療法過程を診療（作業療法）・参加型実習により学ぶ（学外：臨床実習施設） ※場合によって学内・オンラインに変更	実習を通して経験できたこと、学んだこと、調べたことをディリーノート、ポートフォリオとして作成してゆくこと。
第5回	第4週目 作業療法過程を診療（作業療法）・参加型実習により学ぶ（学外：臨床実習施設） ※場合によって学内・オンラインに変更	実習を通して経験できたこと、学んだこと、調べたことをディリーノート、ポートフォリオとして作成してゆくこと。
第6回	第5週目 作業療法過程を診療（作業療法）・参加型実習により学ぶ（学外：臨床実習施設） ※場合によって学内・オンラインに変更	実習を通して経験できたこと、学んだこと、調べたことをディリーノート、ポートフォリオとして作成してゆくこと。
第7回	第6週目 作業療法過程を診療（作業療法）・参加型実習により学ぶ（学外：臨床実習施設） ※場合によって学内・オンラインに変更	実習を通して経験できたこと、学んだこと、調べたことをディリーノート、ポートフォリオとして作成してゆくこと。
第8回	第7週目 作業療法過程を診療（作業療法）・参加型実習により学ぶ（学外：臨床実習施設） ※場合によって学内・オンラインに変更	実習を通して経験できたこと、学んだこと、調べたことをディリーノート、ポートフォリオとして作成してゆくこと。
第9回	第8週目 作業療法過程を診療（作業療法）・参加型実習により学ぶ（学外：臨床実習施設） ※場合によって学内・オンラインに変更	実習を通して経験できたこと、学んだこと、調べたことをディリーノート、ポートフォリオとして作成してゆくこと。
第10回	第9週目 作業療法過程を診療（作業療法）・参加型実習により学ぶ（学外：臨床実習施設） ※場合によって学内・オンラインに変更	実習を通して経験できたこと、学んだこと、調べたことをディリーノート、ポートフォリオとして作成してゆくこと。
第11回	10週目 その1 施設担当教員の指導のもと事例報告書（レジュメ）を作成する（学内） ※場合によってオンラインで行う	実習を通して経過を追うことができた事例を選択し、ディリーノート、ポートフォリオから事例の情報をまとめておくこと。 また、実習の手引きに掲載されている事例報告書作成指針やサンプルを読んでおくこと。
第12回	10週目 その2 パワーポイント使用・口述発表による事例報告を行う（学内：実習後セミナー） ※場合によってオンラインで行う	事例発表に関する規定を順守してパワーポイントや口述発表の準備を行っていくこと。

授業計画
臨床実習施設における実施期間：9週間 ※実習前のオリエンテーションやガイダンス、実習後のセミナー発表等は、本科目に含まれる内容であるので、必ず出席・発表すること。 ※実習期間中は、実習施設の勤務体系に合わせた臨床実習を行う。
シラバス備考
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
キャリアビジョン（デベロップメント）（Q1）三原C
担当教員氏名
原田 淳
研究室の場所
学生便覧参照
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
特に時間帯を定めない（事前にメール、チャット、あるいは、電話で連絡し面談の予約をすること）。
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
原則として対面授業。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の受講レポートに授業の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを記す。
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
全コース2年次対象
免許等指定科目
キーワード
キャリア形成，ストレスマネジメント，マインドフルネス
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ

本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けるマインドフルネスを習得する。

【到達目標】

＜知識・技能の観点＞

1. 心理・社会的ストレスのメカニズムと、ストレスが心身や行動に与える影響について説明できる。

2. 瞑想的運動法、呼吸法、瞑想法がストレスマネジメントに有効な理由を説明できる。

＜思考力・判断力・表現力の観点＞

3. 自身の認知や行動を客観的にとらえ言語化できるようになる。

＜主体性・協働性の観点＞

4. 演習で行うペアワーク・グループワークに積極的に参加している。

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は、全学共通教育科目「キャリア開発」（キャリア）の一つとして位置づけられている。

授業の内容
心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りを行うことにより望ましい認知のあり方について考える。
成績評価の方法
講義中の演習50%、期末レポート50%で評価する。
テキスト
テキスト（教科書）は特に指定しない。
参考文献
参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
演習はグループワークを行うため、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 企業に勤務経験のある教員が、その経験をふまえて、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習（呼吸を整える）	
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習（微細な動きを意識する）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを受講レポートに記しておく。
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習（ブリージング・エクササイズ）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを受講レポートに記しておく。
第4回	瞑想的運動法 ・実習（ブリージングエクササイズ、アイソメトリック運動）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを受講レポートに記しておく。
第5回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを受講レポートに記しておく。
第6回	好き・嫌いの感情を克服する ・好き・嫌いが生じるしくみ ・『人間万事塞翁が馬』	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを受講レポートに記しておく。
第7回	呼吸の意識化、呼吸法 ・実習（呼吸の意識化、呼吸法）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを受講レポートに記しておく。

第8回	レジリエンス ・レジリエンスとは ・演習（ライフラインチャート）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第9回	瞑想法 ・実習（リラクセーション反応、ヴィパッサナー瞑想）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第10回	“いま、ここ”を生きる ・マインドフルネス	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第11回	環境調整の方法 ・実習（セクショナルブリージング、完全呼吸法）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第12回	不安への対処 ・実習（オープンモニタリング瞑想）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第13回	執着・こだわりからの解放 ・実習（呼吸法、瞑想法）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第14回	仕事とストレス ・東洋思想の教える仕事への取り組み方	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第15回	まとめ ・実習（アイソメトリック運動、呼吸法、瞑想法） ・授業評価アンケート ・受講レポート提出に関する説明	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ループリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください
ループリック（キャリアビジョン（ストレスマネジメント））.pdf

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
インターンシップ（Q4）
担当教員氏名
原田 淳
研究室の場所
広島キャンパス キャリアセンター
連絡先電話番号
オフィスアワー
随時（事前にメール、チャット、あるいは、電話で連絡し面談の予約をすること）。
E-mail/HP
授業形態
ハイブリット
授業の形式・方式
ハイブリッド授業。通年集中講義。 事前学習及び事後学習は、授業日程にしたがって、主に講義形式及び演習形式で実施する。 就業体験は、授業等のない休日・休暇の期間に実施する。 原則として、事前学習、就業体験、事後学習の欠席・遅刻・早退は認めない。 すべての授業への参加と就業体験が義務づけられる。
単位数
2
時間数
60
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
保健福祉学科2年次対象 保健福祉学部3年生対象
免許等指定科目
キーワード

自己分析、就業体験、職業選択、職業適性、ビジネスマナー
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめるため、就業体験に取り組む。 本科目の目標は、多様な職場や職業に対して関心を持ち、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とする。 【到達目標】 ＜知識・技能の観点＞ 1. ビジネスマナーの基本について理解している。 2. 自己PRの基本について理解している。 ＜思考力・判断力・表現力の観点＞ 3. 将来の進路・就職について考え、就業体験先について検討する。 ＜主体性・協働性の観点＞ 4. 事前学習に積極的に参加している。 【カリキュラム上の位置づけ】 本科目は、全学共通教育科目「キャリア開発」（キャリア）の一つとして位置づけられている。また、進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担うものである。
授業の内容 企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。 事前学習では、ガイダンス、ビジネスマナー講座、自己目標の設定等に取り組む。 就業体験は、授業等のない休日・休暇の期間に実施する。 事後学習では、就業体験の発表を行うとともに、実習報告書を作成し提出する。
成績評価の方法 事前学習の課題（20％）、受入先の評価（30％）、事後学習の発表と実習報告書等（50％）を総合して評価する。課題については、履修登録者を対象とするガイダンス（Teamsによるオンライン）で提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び修行体験における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。
テキスト
事前学習の資料、および、報告書等の様式は、Teamsからダウンロードする。
参考文献
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等) 履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。 履修登録者は、Teamsのチーム『R6インターンシップ（三原キャンパス）』のメンバーとして登録し、チーム内の会議としてガイダンス（オンライン、4月下旬を予定）を実施するので、出席すること（履修登録せずにガイダンスに出席したい場合は、事前にメール、あるいは、チャットで担当教員に連絡すること）。 授業に関する連絡は、Teamsのチームに掲示する。 受講のルールについては、ガイダンスにおいて提示する。 正当な理由なく、履修の途中での放棄、事前学習、就業体験、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 受入先の企業等において、実践的な研修を行う。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	ガイダンス	コースカタログ・シラバスを読んでおく。
第2回	応募手続き等の説明	ガイダンスの内容をよく理解する。
第3回	応募手続きとビジネスマナー等事前学習	前回の復習および就業体験に関する情報を収集しておく。
第4回	事前学習、グループワーク	就業体験先の情報収集をしておく。
第5回	就業体験	就業体験先について理解をはかり、事前学習の復習をしておく。
第6回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第7回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。

第8回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第9回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第10回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第11回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第12回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第13回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第14回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第15回	事後学習および発表準備	就業体験時の記録をまとめておく。
第16回	事後学習および発表	就業体験時の記録をまとめて、発表資料を作成する。

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
地域情報発信論（Q2）
担当教員氏名
広谷 大助 藤井 宣彰 吉田 倫子
研究室の場所
学生便覧参照
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
対面授業（状況によってはオンライン（リアルタイム）で実施） 前期集中講義（4日間。2025年8月25日（月）～8月28日（木）の予定） サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
保健福祉学科（2021年度入学以前の看護学科，理学療法学科，作業療法学科，コミュニケーション障害学科，人間福祉学科を含む） 2～4年次対象
免許等指定科目
キーワード

新聞，取材，ディベート，ディスカッション，記事，グループワーク，プレゼンテーション
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ
【授業の目標】 知能・技能の観点 ①自分で考える：授業内容や関連する新たな内容に対して，自分で考え，理解し説明することができる 思考力・判断力・表現力の観点 ②調べる：必要な情報を適切な方法で収集し，活用しやすい内容に整理できる。 ③文章を構成する：自分の考えを正確にわかりやすく，そして説得力ある形で文章にすることができる。 ④プレゼンテーション力：自分の考えを正確にわかりやすく説明でき，質問や批判に適切に対応できる。 ⑤コミュニケーション力：他の人の意見を聞き，その内容を理解した上で，積極的に自分の意見を述べるができる。 主体性・協調性の観点 ⑥関心度：テーマについて関心があり，テーマについて更に深く掘り下げたいと思っている。 ⑦問題を発見する・問いを立てる：新たな課題を発見することができる。あるいは，どんなことを掘り下げればよいかという問いを設定し，その解決をはかることができる。 ⑧協調性：他の人の意見を聞き，その上で，ともに問題について考えることができる。また，グループの他の人と協働して作業をすることができる。 ⑨リーダーシップ：グループ内の異なる主張や対立を把握した上で，自ら率先してメンバーに問いかけ，グループ内の意見をとりまとめることができる。また，グループメンバーの積極的な参加を促すような発言や行動ができる。 【カリキュラム上の位置づけ】 全学共通教育科目・地域課題
授業の内容
新聞で報じられた地域の情報を素材として，新聞の読み方，取材対象の見方，記事作成の手法を学ぶとともに，新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み，課題を設定した上で，現地へ出向いて取材し，意見交換を経て記事をまとめるなど，地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに，グループで課題解決への提案をまとめ，プレゼンテーションを行うことを通じて議論を深める。
成績評価の方法
課題レポート（50％）（到達目標①②③⑥⑦） グループ討議，ポスター発表を含む，授業への参加度（50％）（到達目標④⑤⑧⑨） なお，単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする
テキスト
事前に配付される新聞記事を用いる
参考文献
適宜紹介する
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
日頃より新聞に親しみ，幅広く地域の情報に触れるとともに，報じられている内容に関する情報を積極的に集め，自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は事前説明会（7月上中旬にオンライン(Teams)にて開催）にて説明する。事前説明会には必ず参加すること。参加がない場合は受講を認めない。 また，本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため，4日間全ての出席が必須となる。よって，1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。 なお，フィールドワークにかかる費用及び試読期間中の新聞購読代金（250円の予定）は自己負担となる。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により，取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。

授業計画
授業計画
授業の流れは概ね次のとおり（一部変更の可能性あり） 事前課題：試読期間（7月下旬）に配付された新聞を読み，記事を選んで概要をまとめ，意見を述べる

- 第1日：オリエンテーション，事前課題の確認，テーマに関する講義
第2日：取材計画，取材実習（フィールドワーク），記事風レポート作成
第3日：記事風レポート発表，グループ討議，プレゼンテーション準備
第4日：プレゼンテーション最終準備，プレゼンテーション，振り返り討議

期間中の課題：翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む

事後課題：授業で学び得たことを踏まえて，新たな課題を発見し，レポートをまとめる

シラバス備考

URLリンク

科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

【科目ルーブリック改訂案】「地域情報発信論」.pdf

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
コミュニケーション障害診断法（Q3・Q4）（～R6入学生）
担当教員氏名
今川 記恵 小畠 理恵子 津田 哲也 中村 文 細川 淳嗣 堀江 真由美 坊岡 峰子
研究室の場所
学生便覧参照
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
各担当教員と要予約 成人（坊岡、津田、中村） 小児（堀江、細川、小畠、今川）
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
講義形式と演習形式いずれも実施します
単位数
3
時間数
45
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
必修
履修要件
コミュニケーション障害学コース2年次対象
免許等指定科目

言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目
キーワード
成人のコミュニケーション障害、小児のコミュニケーション障害、情報収集、評価、診断
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ
<知識・技能の観点> ① 成人分野では仮想症例の、小児分野では子ども自身の（自由遊び場面からの）行動観察から障害の診断に必要な情報を得ることができる。 ② 未だ診断のついていない患者さんに対して鑑別診断に必要な情報収集のためのインテーク面接を行えるようになる。 ③ 対象者・児の家族との面接から障害の診断に必要な情報を得ることができる。 <思考・判断・表現の観点> ④ インテーク面接に基づき対象者・児のコミュニケーション障害について仮説が立てられるようになる。 <主体性・協働性の観点> ⑤ 能動的な態度で学修し、グループワークで協働できる。
授業の内容
講義、演習を通し、コミュニケーション障害の診断に関わる基本的な考え方に基づき、障害の特徴および背景情報の収集の方法、臨床手続きの流れについて学び、鑑別診断の手がかりを掴むスキルを獲得する。
成績評価の方法
成人分野：グループワーク20%（到達目標①②③④⑤）、まとめシート30%（到達目標①②③④）、試験45%（到達目標①②③④）、ピア評価5%（到達目標⑤） 小児分野：レポート評価90%（到達目標①②③④）提出締切に遅れた場合は当該レポートの評価点は評点に0.6を乗じた点とする。 グループワーク10%（到達目標⑤） 授業の構成上、成人分野で10コマ以上の欠席、小児分野で7コマ以上の欠席の場合、当該分野の評価は0点とする（＝いずれかの分野で0点の場合、単位修得できない）。 成人分野・小児分野それぞれで6割以上の成績を単位修得の条件とする。 科目の総合成績は、成人分野に0.6、小児分野に0.4を乗じ、合計した点数とする。
テキスト
・深浦順一・爲数哲司・内山量史 編著：言語聴覚士のための臨床実習テキストー成人編、建帛社、2017 ・適宜、資料を配布する
参考文献
・深浦順一・内山千鶴子 編著：言語聴覚士のための臨床実習テキストー小児編、建帛社、2017 ・これまでに履修したコミュニケーション障害学に関連する授業のテキスト、参考文献、配布資料
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
これまでに学んだコミュニケーション障害についてよく復習して臨んでください。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	1週目 診断法の導入（成人＆小児） （１）診断法のゴールと進め方（成人＆小児説明） （２）医療面接について （３）リハ全体の流れの中でのSTによる鑑別診断の位置づけ （４）鑑別診断に必要な視点 （５）観察記録、まとめシートへの整理の仕方	成人・小児分野の概論科目の復習をしておくこと
第2回	2週目（成人） （１）講義『認知症と失語症』 （２）教員デモ 1 視聴、グループワーク、全体討議、まとめシート作成	第1回目の授業内容を復習しておくこと
第3回	3週目（成人） （０）前回のフィードバック （１）教員デモ 2 視聴、グループワーク、全体討議、まとめシート作成 （２）講義『dysarthriaと発語失行』	前回までの内容を復習しておくこと

第4回	4週目（成人） （0）前回のフィードバック （1）教員デモ3 視聴、グループワーク、全体討議、まとめシート作成 （2）学生デモ課題の提示、ピアアセスメントについて説明	前回までの授業内容を復習しておくこと
第5回	5週目（成人） （0）前回のフィードバック （1）学生デモ課題の準備	前回までの授業内容を復習しておくこと。 担当のデモ課題（事例）に対する理解を深めたうえで実演や討議進行ができるようにグループで協力して準備しておくこと。
第6回	6週目（成人） （0）前回のフィードバック （1）学生デモ1 視聴、グループワーク、全体討議、まとめシート作成 （2）学生デモ2 視聴、グループワーク、全体討議、まとめシート作成	前回までの授業内容を復習しておくこと。 担当のデモ課題（事例）に対する理解を深めたうえで実演や討議進行ができるようにグループで協力して準備しておくこと。
第7回	7週目（成人） （0）前回のフィードバック （1）学生デモ3 視聴、グループワーク、全体討議、まとめシート作成 （2）学生デモ4 視聴、グループワーク、全体討議、まとめシート作成	前回までの授業内容を復習しておくこと。 担当のデモ課題（事例）に対する理解を深めたうえで実演や討議進行ができるようにグループで協力して準備しておくこと。
第8回	8週目（成人） （0）前回のフィードバック （1）学生デモ5 視聴、グループワーク、全体討議、まとめシート作成 （2）学生デモ6 視聴、グループワーク、全体討議、まとめシート作成	前回までの授業内容を復習しておくこと。 担当のデモ課題（事例）に対する理解を深めたうえで実演や討議進行ができるようにグループで協力して準備しておくこと。
第9回	9週目（成人） インテーク面接による診断テスト	8週目までの復習をしておくこと
第10回	10週目（小児） （1）小児の行動観察の視点についての解説 （2）トランスクリプトの作成方法の説明 自由遊び場面を見ながらトランスクリプトの作成 トランスクリプトの作成練習 （3）小児の自由遊び場面の行動観察（ケース1）	小児分野の概論科目の復習をしておくこと 指示された動画を視聴しておくこと
第11回	11週目（小児） （1）自由遊び場面ビデオを見て大人のコミュニケーション機能を学習 （2）教員による親へのインテーク面接シミュレーション インテーク面接での聴き取り方（深め方）を考える （3）学生同士の面接シミュレーション 発表準備	第10回の講義の復習をしておくこと
第12回	12週目（小児） （1）学生同士の面接シミュレーション 発表 （2）小児の自由遊び場面を見て報告書を作成（ケース2） （3）報告書内容 発表準備（ケース2）	新版K式発達検査の授業配布資料を理解しておくこと
第13回	13週目（小児） （1）報告書内容の発表とまとめ（ケース2） （2）言語・コミュニケーションに支援が必要な子どもの行動観察の視点についての解説 （3）実習記録の書き方の説明	第12回の講義の復習をしておくこと
第14回	14週目（小児） （1）小児の自由遊び場面から評価をまとめる（ケース3） （2）評価の説明（ケース3） （3）今後の方針（ケース3）	第10回～第13回の講義の復習をしておくこと
第15回	15週目（小児） （1）訓練計画の立案 発表準備（ケース3） （2）訓練計画の立案 発表準備（ケース3） （3）訓練計画の立案 発表（ケース3）	第10回～14回の講義の復習をしておくこと

授業計画

シラバス備考

これまでの授業（コミュニケーション障害学に関連する各系の概論・演習）で学んだことが横断的・統合的に求められる授業です。 グループワーク、クラス全体での討議を通して学ぶ機会を多く設定しています。グループメンバーと協力して取り組み、グループ・クラス全体で盛んに討議することで理解を深めましょう。
【実務経験を活かした実践的な教育について】 病院や施設などで長年の臨床経験のある教員が担当する。本学部附属診療センターなどでの経験にも基づき、臨床現場で役立つ講義、演習となるよう構成する。
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください
コミュニケーション障害診断法（ルーブリック）.pdf

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
チーム医療福祉論（Q2）
担当教員氏名
梅井 凡子 永野 なおみ 長谷川 純 吉川 ひろみ 渡辺 陽子
研究室の場所
渡辺（3415）, 吉川（3404）, 梅井（2504）, 長谷川（3517）, 永野（4524）
連絡先電話番号
学生便覧を参照
オフィスアワー
各教員に連絡を取り日程調整すること
E-mail/HP
学生便覧を参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
グループワークを中心とする
単位数
1
時間数
15
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
全コース必修
履修要件
1年次必修科目
免許等指定科目
キーワード

ヘルスケア専門職，ヘルスサポーターマインド，チームアプローチ，患者中心医療，利用者主体のサービス，リハビリテーション，倫理
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ
【授業の目標】 - 異なる専門領域の学生が共に学ぶ機会を得ることにより，お互いを尊重する姿勢を学ぶ。 - ケアチームの概念，チームワークの難しさと効果，リーダーシップ，組織管理について学習する。 - グループワークを通して連携の方法論とグループダイナミクスについて考察する。 上記により将来よりよいチームアプローチを実践するための基礎を培う。 具体的な到達目標と成績評価との関係 知識・技能の観点 ①疾病・障害予防，リハビリテーション，福祉において，どの専門職がどのように関わるかについて説明できる。 思考・判断・表現の観点 ②講義の内容を参考に，各専門職の役割と連携・協働のあり方について，自己の考えを述べることができる。 主体性・協働性の観点 ③課題に主体的に取り組み，その成果を提出締め切りまでに提出できる。 ④他の学生と互恵的関係を築き，グループの学修成果への責任を果たすことができる。 【科目の位置づけ】 「地域包括ケアシステムを発展させる科目」群に位置づけられている。
授業の内容
学科横断的に編成するグループで，演習を通してチームとしての成長を経験する。
成績評価の方法
授業後の課題60点（到達目標①②③），発表10点（到達目標①②④），最終レポート課題30点（到達目標①②③） 欠席遅刻，課題の提出遅れは減点対象とする。
テキスト
参考文献
吉川ひろみ，上野哲『倫理でスッキリ医療従事者のモヤモヤ解消法』（シービーアール）
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
コース選択枠で入学した学生は，必ず履修すること 【実務経験を生かした実践的な教育について】 医療福祉現場において実務経験を有する教員が，多職種連携アプローチの実際について紹介し，学生はよりよいチーム医療福祉について考える。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	オリエンテーション よりよいチームとは ヘルスサポーターマインド	よりよいチームになるために必要なことを考える。
第2回	グループワーク①	講義資料及び関係資料を読んでグループワークに必要なことを考える。発表が円滑に進むための役割分担などの準備をする。
第3回	グループワーク②	講義資料及び関係資料を読んでグループワークに必要なことを考える。発表が円滑に進むための役割分担などの準備をする。
第4回	グループワーク③	講義資料及び関係資料を読んでグループワークに必要なことを考える。発表が円滑に進むための役割分担などの準備をする。
第5回	グループワーク④	講義資料及び関係資料を読んでグループワークに必要なことを考える。発表が円滑に進むための役割分担などの準備をする。
第6回	グループワーク⑤	講義資料及び関係資料を読んでグループワークに必要なことを考える。発表が円滑に進むための役割分担などの準備をする。
第7回	当事者さんの体験から考える	事前に提供された資料を確認し，必要に応じ調べ学習をしておく。
第8回	振り返りとまとめ	これまでの授業を振り返って考えをまとめる。

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

授業科目名
チーム医療福祉演習（Q3）
担当教員氏名
麻生 浩司 伊藤 泰三 井上 誠 上野 陽子 梅井 凡子 大古場 良太 岡村 和典 越智 あゆみ 金井 秀作 加利川 真理 古山 千佳子 佐藤 紀代子 高木 雅之 津田 哲也 手島 洋 永野 なおみ 細川 淳嗣 堀江 真由美 増田 久美子 森 大志 楊 慧敏
研究室の場所
三原キャンパス 3405研究室
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
担当教員ごとに後日指定する。
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
各コースの横断的小グループによる演習形式の対面授業。講義，小グループでのディスカッション，資料の作成および中グループでの発表。
単位数
1

時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
必修
履修要件
全学科 4 年次対象
免許等指定科目
看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目
キーワード
チーム医療，主体的学習，討論，学習方法
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ
【到達目標】 ①専門職種の専門性を認め，相互の理解を深めると共に，共通の専門用語を駆使して多職種で多面的な討論検討ができる。 ②患者・障害者の要求に応えるために，各専門職がどのように連携しチーム医療を支えるべきか，各専門職としての役割は何かを考え，説明することができる。 ③患者・障害者のための保健医療およびチーム医療のあり方を理解し，説明することができる。 この科目は，地域包括ケアシステムを発展させる科目として位置づけられており，これまで学んできた専門知識や技術にもとづき，学生主導で行われる。
授業の内容
学内・現場実習終了後の学生が，これまでに学んできた専門知識・技術や実習での経験にもとづき，コース横断的な小グループで事例（医学事例，地域事例，倫理事例）を中心とした多面的な討論検討を行ったり，ロールプレイ等を用いて具体的なチームアプローチを経験する。さらに，討論検討内容やロールプレイの経験等をまとめて資料を作成し，発表する。
成績評価の方法
グループワーク 60点（到達目標①） 発表 10点（到達目標②③） 課題レポート 30点（到達目標②③）
テキスト
吉川ひろみ，上野 哲 著『倫理ですっきり 医療従事者のモヤモヤ解消法』（シービーアール）2020
参考文献
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
【実務経験を生かした実践的な教育について】 学生は，具体的な事例について多職種連携アプローチについてディスカッションし，考える。医療福祉現場の実務経験を有する教員が指導する。 これまでの講義，学内実験・実習，臨床実習で学んだことを思い起こし，グループでよく議論すること。 初日に手引きを配布するので，そのスケジュールに従って行動する。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	オリエンテーション，自己紹介，アイスブレイク	チーム医療福祉演習の手引きおよびテキストを読む。 学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第2回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第3回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。

第4回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第5回	中グループで発表（倫理または地域事例）	発表の準備。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第6回	医学事例の紹介，事例情報の読み込み 10時20分前後に担当事例を公表	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する
第7回	各コースの実習室等でデモンストレーションの実施	デモンストレーションの準備。
第8回	各コースの実習室等でデモンストレーションの実施	デモンストレーションの準備。
第9回	各グループで医学事例の検討	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について振り返る。
第10回	各グループで医学事例の検討	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について振り返る。
第11回	医学事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ，グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	当事者への質問を考えておく。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について振り返る。
第12回	医学事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ，グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	当事者への質問を考えておく。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について振り返る。
第13回	医学事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ，グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	当事者への質問を考えておく。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について振り返る。
第14回	中グループで発表（医学事例）	発表の準備。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について振り返る。
第15回	チーム医療福祉演習全体のまとめと振り返り	これまでの学習を振り返る。

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
臨床実習Ⅲ（コミュ）（Q1～Q4）
担当教員氏名
今川 記恵 小澤 由嗣 小島 理恵子 佐藤 紀代子 津田 哲也 中村 文 長谷川 純 細川 淳嗣 堀江 真由美 坊岡 峰子
研究室の場所
学生便覧参照
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
各担当教員と要予約
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
学外実習，学部附属診療センターの診察見学など
単位数
4
時間数
160
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
必修
履修要件

コミュニケーション障害学科 4 年次対象。 臨床実習Ⅱの単位を修得し、さらに専門必修科目である発達系障害学演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、認知系障害学演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、聴覚系障害学概論Ⅱ及び聴覚系障害学演習Ⅳ・Ⅴ、発声発語・嚥下系障害学概論Ⅲ及び演習Ⅲの単位をすべて修得していること。		
免許等指定科目		
言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード		
言語聴覚療法、言語聴覚士の役割、評価・訓練、実践力、チームアプローチ		
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ		
目標 ○知識・技能の観点：①臨床実習Ⅰ・Ⅱで学んだコミュニケーション障害の臨床に関する知識や技能を臨床のなかで実践し、応用するための総合的な能力を身につける。 ○思考・判断・表現の観点：②対象のケースなどについて、評価・分析した内容を簡潔に整理し、説明できる。③コミュニケーション障害をもつ人を、一人の人として全人的にとらえ対応する能力を身につける。 ○主体性・協働性の観点：④主体的に考え、指導者に積極的に質問などができる。⑤多職種からの情報収集や情報共有などを通じて、チームアプローチの実際を理解する。⑥地域における言語聴覚士の役割を理解し、ボランティアなどとも協働できる。		
授業の内容		
学外の医療施設や福祉施設において、実習指導者の指導監督のもとに、言語聴覚療法の現場でしか学べない内容を学修し、さらに言語聴覚士のあり方も考えていく。 本学部附属診療センターでの診察場面の見学も含め、関連職種との連携や患者・家族なども含むチーム・アプローチの実際も学ぶ。 地域の失語症友の会の定例会で行なう、言語訓練を立案・実施する。		
成績評価の方法		
学外実習における指導者からの報告・総評、実習報告会の発表、附属診療センターでの診察見学、失語症友の会での訓練計画立案・実施等の内容を総合的に評価する。（到達目標①②③④⑤⑥）		
テキスト		
実習指導者の指示に従う。		
参考文献		
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)		
臨床実習の総まとめとして、これまでの学修内容を活かし、能動的に取り組んでほしい。出席日数が不足した場合は単位認定ができないため、しっかり健康管理をすること。 ガイダンスの内容をしっかりと理解し、必要な書類の提出の遅れなどが無いように留意すること。 学外の言語聴覚士の指導者やご協力頂く患者さんに感謝し、相応の態度で取り組むことを心がけてほしい。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 言語聴覚士としての実務経験を有する教員および学外医療福祉施設指導者が、臨床実習（見学，検査，評価，訓練計画立案，訓練など）の内容について、助言・指導・解説を行なう。		

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	○学外実習は指定する外部の臨床施設において、4週間の実習を実施する。実習後には学内の報告会で報告する。 ○本学部附属診療センターでの診察場面の見学。 ○地域の失語症友の会の定例会で行なう、言語訓練を立案・実施する。	これまでに学修した内容を整理・復習しておく。 学外実習にむけて、検査の実施練習などを行っておく。 事前に開催する臨床実習オリエンテーションにおいて説明する、実習に対する心構えや準備について理解し、準備しておく。
授業計画		
臨床実習に関する資料を配布し、オリエンテーションなどを行ったうえで実施する。コミュニケーション障害学コース「臨床実習の手引き」を参照。 準備学習については、各実習指導者、教員の指示を仰ぐこと。		
シラバス備考		

URLリンク
科目ループリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください
臨床実習ループリック（4年）2025.pdf

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
キャリアビジョン（デベロップメント）（Q1）三原C
担当教員氏名
原田 淳
研究室の場所
学生便覧参照
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
特に時間帯を定めない（事前にメール、チャット、あるいは、電話で連絡し面談の予約をすること）。
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
原則として対面授業。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の受講レポートに授業の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを記す。
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
全コース2年次対象
免許等指定科目
キーワード
キャリア形成，ストレスマネジメント，マインドフルネス
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ

本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成するうえで必要不可欠となる適切にストレスをコントロールする方法について理解することである。そして、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を実習することにより、自分自身の身体感覚や呼吸に集中し、意識を“いま、ここ”に向けるマインドフルネスを習得する。

【到達目標】

＜知識・技能の観点＞

1. 心理・社会的ストレスのメカニズムと、ストレスが心身や行動に与える影響について説明できる。

2. 瞑想的運動法、呼吸法、瞑想法がストレスマネジメントに有効な理由を説明できる。

＜思考力・判断力・表現力の観点＞

3. 自身の認知や行動を客観的にとらえ言語化できるようになる。

＜主体性・協働性の観点＞

4. 演習で行うペアワーク・グループワークに積極的に参加している。

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は、全学共通教育科目「キャリア開発」（キャリア）の一つとして位置づけられている。

授業の内容
心理・社会的なストレスの特徴について解説し、ストレスマネジメントの方向性について示す。対処法のひとつとして、心身相関的アプローチによる実践的なストレスマネジメントの技法を紹介する。また、ストレスとなる事象に直面したときに生じる心の動きについて説明し、過去の体験の振り返りを行うことにより望ましい認知のあり方について考える。
成績評価の方法
講義中の演習50%、期末レポート50%で評価する。
テキスト
テキスト（教科書）は特に指定しない。
参考文献
参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
演習はグループワークを行うため、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 企業に勤務経験のある教員が、その経験をふまえて、社会や職場で必要となるストレスのコントロールについて解説する。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	オリエンテーション ・現代社会とストレス ・ストレスマネジメントの必要性 ・実習（呼吸を整える）	
第2回	ストレスとストレス反応 ・ストレスが身体におよぼす影響 ・ストレスが心におよぼす影響 ・ストレスが行動におよぼす影響 ・実習（微細な動きを意識する）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを受講レポートに記しておく。
第3回	心理・社会的ストレスの特徴 ・心理・社会的ストレスのしくみ ・心理・社会的ストレスのパターン ・実習（ブリージング・エクササイズ）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを受講レポートに記しておく。
第4回	瞑想的運動法 ・実習（ブリージングエクササイズ、アイソメトリック運動）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを受講レポートに記しておく。
第5回	ストレスマネジメントの方向性 ・安定した心とは	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを受講レポートに記しておく。
第6回	好き・嫌いの感情を克服する ・好き・嫌いが生じるしくみ ・『人間万事塞翁が馬』	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを受講レポートに記しておく。
第7回	呼吸の意識化、呼吸法 ・実習（呼吸の意識化、呼吸法）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを受講レポートに記しておく。

第8回	レジリエンス ・レジリエンスとは ・演習（ライフラインチャート）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第9回	瞑想法 ・実習（リラクセーション反応、ヴィパッサナー瞑想）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第10回	“いま、ここ”を生きる ・マインドフルネス	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第11回	環境調整の方法 ・実習（セクショナルブリージング、完全呼吸法）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第12回	不安への対処 ・実習（オープンモニタリング瞑想）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第13回	執着・こだわりからの解放 ・実習（呼吸法、瞑想法）	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第14回	仕事とストレス ・東洋思想の教える仕事への取り組み方	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。
第15回	まとめ ・実習（アイソメトリック運動、呼吸法、瞑想法） ・授業評価アンケート ・受講レポート提出に関する説明	前回の要約、演習・実習の内容、気づいたこと・理解したことを 受講レポートに記しておく。

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ループリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください
ループリック（キャリアビジョン（ストレスマネジメント））.pdf

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
インターンシップ（Q4）
担当教員氏名
原田 淳
研究室の場所
広島キャンパス キャリアセンター
連絡先電話番号
オフィスアワー
随時（事前にメール、チャット、あるいは、電話で連絡し面談の予約をすること）。
E-mail/HP
授業形態
ハイブリット
授業の形式・方式
ハイブリッド授業。通年集中講義。 事前学習及び事後学習は、授業日程にしたがって、主に講義形式及び演習形式で実施する。 就業体験は、授業等のない休日・休暇の期間に実施する。 原則として、事前学習、就業体験、事後学習の欠席・遅刻・早退は認めない。 すべての授業への参加と就業体験が義務づけられる。
単位数
2
時間数
60
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
保健福祉学科2年次対象 保健福祉学部3年生対象
免許等指定科目
キーワード

自己分析、就業体験、職業選択、職業適性、ビジネスマナー
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめるため、就業体験に取り組む。 本科目の目標は、多様な職場や職業に対して関心を持ち、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とする。 【到達目標】 ＜知識・技能の観点＞ 1. ビジネスマナーの基本について理解している。 2. 自己PRの基本について理解している。 ＜思考力・判断力・表現力の観点＞ 3. 将来の進路・就職について考え、就業体験先について検討する。 ＜主体性・協働性の観点＞ 4. 事前学習に積極的に参加している。 【カリキュラム上の位置づけ】 本科目は、全学共通教育科目「キャリア開発」（キャリア）の一つとして位置づけられている。また、進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担うものである。
授業の内容 企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。 事前学習では、ガイダンス、ビジネスマナー講座、自己目標の設定等に取り組む。 就業体験は、授業等のない休日・休暇の期間に実施する。 事後学習では、就業体験の発表を行うとともに、実習報告書を作成し提出する。
成績評価の方法 事前学習の課題（20％）、受入先の評価（30％）、事後学習の発表と実習報告書等（50％）を総合して評価する。課題については、履修登録者を対象とするガイダンス（Teamsによるオンライン）で提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び修行体験における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。
テキスト
事前学習の資料、および、報告書等の様式は、Teamsからダウンロードする。
参考文献
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等) 履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。 履修登録者は、Teamsのチーム『R6インターンシップ（三原キャンパス）』のメンバーとして登録し、チーム内の会議としてガイダンス（オンライン、4月下旬を予定）を実施するので、出席すること（履修登録せずにガイダンスに出席したい場合は、事前にメール、あるいは、チャットで担当教員に連絡すること）。 授業に関する連絡は、Teamsのチームに掲示する。 受講のルールについては、ガイダンスにおいて提示する。 正当な理由なく、履修の途中での放棄、事前学習、就業体験、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 受入先の企業等において、実践的な研修を行う。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	ガイダンス	コースカタログ・シラバスを読んでおく。
第2回	応募手続き等の説明	ガイダンスの内容をよく理解する。
第3回	応募手続きとビジネスマナー等事前学習	前回の復習および就業体験に関する情報を収集しておく。
第4回	事前学習、グループワーク	就業体験先の情報収集をしておく。
第5回	就業体験	就業体験先について理解をはかり、事前学習の復習をしておく。
第6回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第7回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。

第8回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第9回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第10回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第11回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第12回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第13回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第14回	就業体験	就業体験先の指示に従うこと。
第15回	事後学習および発表準備	就業体験時の記録をまとめておく。
第16回	事後学習および発表	就業体験時の記録をまとめて、発表資料を作成する。

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
地域情報発信論（Q2）
担当教員氏名
広谷 大助 藤井 宣彰 吉田 倫子
研究室の場所
学生便覧参照
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
対面授業（状況によってはオンライン（リアルタイム）で実施） 前期集中講義（4日間。2025年8月25日（月）～8月28日（木）の予定） サテライトキャンパスひろしまで実施 期間中のフィールドワークを含む
単位数
2
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
保健福祉学科（2021年度入学以前の看護学科，理学療法学科，作業療法学科，コミュニケーション障害学科，人間福祉学科を含む） 2～4年次対象
免許等指定科目
キーワード

新聞，取材，ディベート，ディスカッション，記事，グループワーク，プレゼンテーション

授業の目標とカリキュラム上の位置づけ

【授業の目標】

知能・技能の観点

①自分で考える：授業内容や関連する新たな内容に対して，自分で考え，理解し説明することができる

思考力・判断力・表現力の観点

②調べる：必要な情報を適切な方法で収集し，活用しやすい内容に整理できる。

③文章を構成する：自分の考えを正確にわかりやすく，そして説得力ある形で文章にすることができる。

④プレゼンテーション力：自分の考えを正確にわかりやすく説明でき，質問や批判に適切に対応できる。

⑤コミュニケーション力：他の人の意見を聞き，その内容を理解した上で，積極的に自分の意見を述べることができる。

主体性・協調性の観点

⑥関心度：テーマについて関心があり，テーマについて更に深く掘り下げたいと思っている。

⑦問題を発見する・問いを立てる：新たな課題を発見することができる。あるいは，どんなことを掘り下げればよいかという問いを設定し，その解決をはかることができる。

⑧協調性：他の人の意見を聞き，その上で，ともに問題について考えることができる。また，グループの他の人と協働して作業をすることができる。

⑨リーダーシップ：グループ内の異なる主張や対立を把握した上で，自ら率先してメンバーに問いかけ，グループ内の意見をとりまとめることができる。また，グループメンバーの積極的な参加を促すような発言や行動ができる。

【カリキュラム上の位置づけ】

全学共通教育科目・地域課題

授業の内容

新聞で報じられた地域の情報を素材として，新聞の読み方，取材対象の見方，記事作成の手法を学ぶとともに，新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。

テーマに沿った記事を読み，課題を設定した上で，現地へ出向いて取材し，意見交換を経て記事をまとめるなど，地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに，グループで課題解決への提案をまとめ，プレゼンテーションを行うことを通じて議論を深める。

成績評価の方法

課題レポート（50％）（到達目標①②③⑥⑦）

グループ討議，ポスター発表を含む，授業への参加度（50％）（到達目標④⑤⑧⑨）

なお，単位の認定には事前課題・事後課題を含む全ての課題レポートの提出を必須とする

テキスト

事前に配付される新聞記事を用いる

参考文献

適宜紹介する

備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)

日頃より新聞に親しみ，幅広く地域の情報に触れるとともに，報じられている内容に関する情報を積極的に集め，自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。

集中講義の詳細な日程・テーマ等は事前説明会（7月上中旬にオンライン(Teams)にて開催）にて説明する。事前説明会には必ず参加すること。参加がない場合は受講を認めない。

また，本科目は基本グループで作業やフィールドワーク等を行うため，4日間全ての出席が必須となる。よって，1日でも出席できないことが予め分かっている場合には受講を避けること。

なお，フィールドワークにかかる費用及び試読期間中の新聞購読代金（250円の予定）は自己負担となる。

【実務経験を活かした実践的な教育について】

長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により，取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。

授業計画

授業計画

授業の流れは概ね次のとおり（一部変更の可能性あり）

事前課題：試読期間（7月下旬）に配付された新聞を読み，記事を選んで概要をまとめ，意見を述べる

- 第1日：オリエンテーション，事前課題の確認，テーマに関する講義
第2日：取材計画，取材実習（フィールドワーク），記事風レポート作成
第3日：記事風レポート発表，グループ討議，プレゼンテーション準備
第4日：プレゼンテーション最終準備，プレゼンテーション，振り返り討議

期間中の課題：翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む

事後課題：授業で学び得たことを踏まえて，新たな課題を発見し，レポートをまとめる

シラバス備考

URLリンク

科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

【科目ルーブリック改訂案】「地域情報発信論」.pdf

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
チーム医療福祉論（Q2）
担当教員氏名
梅井 凡子 永野 なおみ 長谷川 純 吉川 ひろみ 渡辺 陽子
研究室の場所
渡辺（3415）, 吉川（3404）, 梅井（2504）, 長谷川（3517）, 永野（4524）
連絡先電話番号
学生便覧を参照
オフィスアワー
各教員に連絡を取り日程調整すること
E-mail/HP
学生便覧を参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
グループワークを中心とする
単位数
1
時間数
15
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
全コース必修
履修要件
1年次必修科目
免許等指定科目
キーワード

ヘルスケア専門職，ヘルスサポーターマインド，チームアプローチ，患者中心医療，利用者主体のサービス，リハビリテーション，倫理
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ
【授業の目標】 1. 異なる専門領域の学生が共に学ぶ機会を得ることにより，お互いを尊重する姿勢を学ぶ。 2. ケアチームの概念，チームワークの難しさと効果，リーダーシップ，組織管理について学習する。 3. グループワークを通して連携の方法論とグループダイナミクスについて考察する。 上記により将来よりよいチームアプローチを実践するための基礎を培う。 具体的な到達目標と成績評価との関係 知識・技能の観点 ①疾病・障害予防，リハビリテーション，福祉において，どの専門職がどのように関わるかについて説明できる。 思考・判断・表現の観点 ②講義の内容を参考に，各専門職の役割と連携・協働のあり方について，自己の考えを述べるができる。 主体性・協働性の観点 ③課題に主体的に取り組み，その成果を提出締め切りまでに提出できる。 ④他の学生と互恵的関係を築き，グループの学修成果への責任を果たすことができる。 【科目の位置づけ】 「地域包括ケアシステムを発展させる科目」群に位置づけられている。
授業の内容
学科横断的に編成するグループで，演習を通してチームとしての成長を経験する。
成績評価の方法
授業後の課題60点（到達目標①②③），発表10点（到達目標①②④），最終レポート課題30点（到達目標①②③） 欠席遅刻，課題の提出遅れは減点対象とする。
テキスト
参考文献
吉川ひろみ，上野哲『倫理でスッキリ医療従事者のモヤモヤ解消法』（シービーアール）
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
コース選択枠で入学した学生は，必ず履修すること 【実務経験を生かした実践的な教育について】 医療福祉現場において実務経験を有する教員が，多職種連携アプローチの実際について紹介し，学生はよりよいチーム医療福祉について考える。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	オリエンテーション よりよいチームとは ヘルスサポーターマインド	よりよいチームになるために必要なことを考える。
第2回	グループワーク①	講義資料及び関係資料を読んでグループワークに必要なことを考える。発表が円滑に進むための役割分担などの準備をする。
第3回	グループワーク②	講義資料及び関係資料を読んでグループワークに必要なことを考える。発表が円滑に進むための役割分担などの準備をする。
第4回	グループワーク③	講義資料及び関係資料を読んでグループワークに必要なことを考える。発表が円滑に進むための役割分担などの準備をする。
第5回	グループワーク④	講義資料及び関係資料を読んでグループワークに必要なことを考える。発表が円滑に進むための役割分担などの準備をする。
第6回	グループワーク⑤	講義資料及び関係資料を読んでグループワークに必要なことを考える。発表が円滑に進むための役割分担などの準備をする。
第7回	当事者さんの体験から考える	事前に提供された資料を確認し，必要に応じ調べ学習をしておく。
第8回	振り返りとまとめ	これまでの授業を振り返って考えをまとめる。

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

授業科目名
チーム医療福祉演習（Q3）
担当教員氏名
麻生 浩司 伊藤 泰三 井上 誠 上野 陽子 梅井 凡子 大古場 良太 岡村 和典 越智 あゆみ 金井 秀作 加利川 真理 古山 千佳子 佐藤 紀代子 高木 雅之 津田 哲也 手島 洋 永野 なおみ 細川 淳嗣 堀江 真由美 増田 久美子 森 大志 楊 慧敏
研究室の場所
三原キャンパス 3405研究室
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
担当教員ごとに後日指定する。
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
各コースの横断的小グループによる演習形式の対面授業。講義，小グループでのディスカッション，資料の作成および中グループでの発表。
単位数
1

時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
必修
履修要件
全学科 4 年次対象
免許等指定科目
看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目
キーワード
チーム医療，主体的学習，討論，学習方法
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ
【到達目標】 ①専門職種の専門性を認め，相互の理解を深めると共に，共通の専門用語を駆使して多職種で多面的な討論検討ができる。 ②患者・障害者の要求に応えるために，各専門職がどのように連携しチーム医療を支えるべきか，各専門職としての役割は何かを考え，説明することができる。 ③患者・障害者のための保健医療およびチーム医療のあり方を理解し，説明することができる。 この科目は，地域包括ケアシステムを発展させる科目として位置づけられており，これまで学んできた専門知識や技術にもとづき，学生主導で行われる。
授業の内容
学内・現場実習終了後の学生が，これまでに学んできた専門知識・技術や実習での経験にもとづき，コース横断的な小グループで事例（医学事例，地域事例，倫理事例）を中心とした多面的な討論検討を行ったり，ロールプレイ等を用いて具体的なチームアプローチを経験する。さらに，討論検討内容やロールプレイの経験等をまとめて資料を作成し，発表する。
成績評価の方法
グループワーク 60点（到達目標①） 発表 10点（到達目標②③） 課題レポート 30点（到達目標②③）
テキスト
吉川ひろみ，上野 哲 著『倫理ですっきり 医療従事者のモヤモヤ解消法』（シービーアール）2020
参考文献
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
【実務経験を生かした実践的な教育について】 学生は，具体的な事例について多職種連携アプローチについてディスカッションし，考える。医療福祉現場の実務経験を有する教員が指導する。 これまでの講義，学内実験・実習，臨床実習で学んだことを思い起こし，グループでよく議論すること。 初日に手引きを配布するので，そのスケジュールに従って行動する。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	オリエンテーション，自己紹介，アイスブレイク	チーム医療福祉演習の手引きおよびテキストを読む。 学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第2回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第3回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。

第4回	各グループで倫理事例または地域事例の検討	テキストを読む。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第5回	中グループで発表（倫理または地域事例）	発表の準備。学外実習での経験を倫理的視点から振り返る。
第6回	医学事例の紹介，事例情報の読み込み 10時20分前後に担当事例を公表	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について復習する
第7回	各コースの実習室等でデモンストレーションの実施	デモンストレーションの準備。
第8回	各コースの実習室等でデモンストレーションの実施	デモンストレーションの準備。
第9回	各グループで医学事例の検討	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について振り返る。
第10回	各グループで医学事例の検討	チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について振り返る。
第11回	医学事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ，グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	当事者への質問を考えておく。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について振り返る。
第12回	医学事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ，グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	当事者への質問を考えておく。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について振り返る。
第13回	医学事例検討の続きと発表資料作成と発表方法の打合せ，グループにより当事者からサービスを受けた経験を聞く場合がある	当事者への質問を考えておく。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について振り返る。
第14回	中グループで発表（医学事例）	発表の準備。チーム医療福祉に関わる各専門職の役割と機能について振り返る。
第15回	チーム医療福祉演習全体のまとめと振り返り	これまでの学習を振り返る。

授業計画
シラバス備考
URLリンク
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
ソーシャルワーク実習Ⅰ（Q3・Q4）
担当教員氏名
伊藤 泰三 梶原 豪人 國定 美香 田中 聡子 手島 洋 永野 なおみ 松宮 透高 楊 慧敏 米倉 裕希子
研究室の場所
学生便覧参照
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
事前に予約してください。可能な限り対応します。
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
集中実習
単位数
2
時間数
60
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
必修
履修要件
人間福祉学コース2年次対象 ソーシャルワーク実習指導Ⅱにおいて実施される中間試験に合格すること。
免許等指定科目

社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目
キーワード
ソーシャルワーク、社会福祉士、配属実習、相談援助
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ
○授業の目標・ねらい 1. 社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を体得すること、2. 支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握できること、3. 生活上の課題に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成・実施・評価ができること、4. 施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解できること、5. 総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解できること、以上の5点を目標とする。 特に、ソーシャルワーク実習Ⅰでは、利用者理解にかかわる、上記1および2を中心に学ぶことを目標とする。 ○カリキュラム上の位置け：専門領域特有の科目（ソーシャルワーク実践を修得する科目）
授業の内容
○授業全体の内容の概要 実習施設において、60時間以上の配属実習を行う。 ソーシャルワーク実習を通して、実習日誌の作成、実習課題達成の自己評価を行う。実習指導者及び実習指導担当教員(実習巡回訪問指導)から次に掲げる事項について十分な個別指導を受ける。 ①利用者やその関係者、関係機関、住民等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成 ②利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成 ③利用者や地域の状況を理解し、生活上の課題の把握、支援計画の作成と実施及び評価 ④多職種連携及びチームアプローチの実践的理解 ⑤当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ ⑥地域で分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解 ⑦関係機関等の経営やサービスの管理運営の実践（チームマネジメントや人材管理の理解を含む） ⑧社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解 ⑨ソーシャルワーク実践に求められる技術の実践的理解 特に、ソーシャルワーク実習Ⅰでは、上記①②⑧の内容について重点的に学んでいく。 ○授業修了時の達成課題（到達目標） 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、課題把握、社会資源活用等、総合的かつ包括的に対応できる能力を修得する。
成績評価の方法
実習指導者による評価、学生の自己評価、及び実習担当教員による評価に基づき、総合的に判断する。
テキスト
・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編（2021）『ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習[社会専門] 最新社会福祉士養成講座』中央法規出版 ・県立広島大学「ソーシャルワーク実習の手引き」
参考文献
担当教員より紹介する。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
実習先から、本学健康診断項目の他に、検便検査等を求められる場合がある。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 ソーシャルワーカーに必要な能力を身に付けるため、社会福祉の実践現場において、実習指導者の指導の下、支援の実験を経験する。実習指導者は、社会福祉士の資格取得後3年以上相談援助業務に従事した経験のある者であって、厚生労働大臣が別に定める基準を満たす講習会の課程を修了したものである。

授業計画
授業計画

配属施設・機関で、各自の実習課題を中心に学び、体験した内容や気づきを実習日誌に記録し、指導者に提出する。実習指導者の個別指導を受け、実習課題の達成度を測る自己評価を行う。合わせて、実習担当教員による巡回指導または帰校日指導を受ける。

シラバス備考

実習期間中に、おおそ1週間に1度教員による巡回指導,または帰校日指導を実施する。

URLリンク

科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（Q3・Q4）
担当教員氏名
伊藤 泰三 梶原 豪人 國定 美香 田中 聡子 手島 洋 永野 なおみ 松宮 透高 楊 慧敏 米倉 裕希子
研究室の場所
学生便覧参照
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
事前に予約してください。可能な限り対応します。
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
全体での講義やグループワーク、少人数でのグループ学習や個別指導など授業日程にしたがい、実践的な技術等を指導する。
単位数
1
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
必修
履修要件
人間福祉学コース1年次対象
免許等指定科目

社会福祉士国家試験受験資格に係る必修科目
キーワード
社会福祉士、実習指導、ソーシャルワーク実習
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ
ソーシャルワーク実習の意義・目的について理解する。そのために、社会福祉士に求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を理解する。また、ソーシャルワークに係る知識と技術について総合的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。 本授業は、2年次以降のソーシャルワーク実習に向けて導入的位置づけにある。 【授業の具体的な学修到達目標】 ①ソーシャルワーク実習の意義について理解し説明できる。 ②ソーシャルワーク実習の対象となる施設・機関を理解し説明できる。 ③ソーシャルワーク実習の対象となる施設・機関を必要とする利用者を理解し説明できる。 ④ソーシャルワークに係る知識や技術について具体的かつ实际的に理解し説明できる。 ⑤社会福祉士として求められる資質、技能、倫理について理解し説明できる。 ⑥ソーシャルワーク実習に向けての目標や達成課題を説明できる。 カリキュラム上の位置づけ：専門領域特有の科目（ソーシャルワーク実践を修得する科目）
授業の内容
講義やグループ学習、見学実習を通して実習分野に関する基本的な理解やソーシャルワークの技術、関連業務、守秘義務等について学ぶ。 2、3年次の配属実習に先立って、主として学内においてソーシャルワーク実習の意義を学ぶ。担当教員の講義、視聴覚教材の活用やロールプレイ、福祉現場職員や当事者・家族からの報告を交え、また、見学等を通して社会福祉施設・機関の実際や専門援助技術の方法を学ぶとともに、主体的に課題を発見していく。
成績評価の方法
(1) 授業への積極的な参加態度 40点（学修到達目標①②③④⑥） ・プレゼンテーション、グループワーク、振り返り など (2) 提出課題 60点（学修到達目標②③④⑤） ・ワークシート、プレゼンテーションスライド など (1)(2)を総合的に判断する。
テキスト
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）「ソーシャルワーク実習指導ソーシャルワーク実習〔社会専門〕」中央法規 ※ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ通して使用する。
参考文献
適宜授業内で紹介する。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
・初回に本学で作成した「実習の手引き」を配布する。 ・無断欠席禁止。 ・課題の提出期限厳守。 ・ソーシャルワーク実習を履修するための前提科目である。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	【授業テーマ】 実習の意義・目的 オリエンテーション 【授業内容】 ・実習とは ・ソーシャルワーカーに求められる役割 ・実習及び実習指導の意義と目的 ・実習の構造 【教科書該当部分】	・シラバスを確認する。 ・テキスト序章、第1章を読む。

	序章 講義-演習-実習の循環 第1章 ソーシャルワーク実習の目的と構造	
第2回	〔授業テーマ〕 見学実習の事前学習：見学施設に関する基本的な理解 〔授業内容〕 ・見学実習施設についての情報収集（現場体験学習の事前学習） ・ソーシャルワーク実習の分野と施設・機関の理解 ・現場体験学習および見学実習 〔教科書該当部分〕 第2章 実習先決定に向けた準備	・テキスト第2章を読む。 ・SW1_ワークシート（1）見学実習の施設・機関について調べ、見学実習で学びたいことを整理する。
第3回	〔授業テーマ〕 見学実習 〔授業内容〕 ・見学実習の実際 〔教科書該当部分〕 第2章 実習先決定に向けた準備 〔授業テーマ〕 見学実習のふりかえりと課題の整理 〔授業内容〕 ・見学実習の振り返りを発表（スーパービジョン） 〔教科書該当部分〕 第2章 実習先決定に向けた準備 ・計画の作成 〔教科書該当部分〕 第2章 実習先決定に向けた準備	・SW1_ワークシート（1）を復習する。
第4回	〔授業テーマ〕 実習分野に関する基本的な理解 〔授業内容〕 ・利用者理解 利用者本人の理解（ゲストスピーカー） 〔教科書該当部分〕 第6章 実習の実際	・SW1_ワークシート(2)見学実習での学びをまとめる。
第5回	〔授業テーマ〕 実習分野に関する基本的な理解 〔授業内容〕 ・利用者理解 家族の理解（ゲストスピーカー） 〔教科書該当部分〕 第6章 実習の実際	・SW1_ワークシート(3)ゲストスピーカーの講義に向けた事前学習を行い、質問したい内容等を整理しまとめる。
第6回	〔授業テーマ〕 実習分野に関する基本的な理解 〔授業内容〕 ・利用者理解 家族の理解（ゲストスピーカー） 〔教科書該当部分〕 第6章 実習の実際	・SW1_ワークシート(4)ゲストスピーカーの講義に向けた事前学習を行い、質問したい内容等を整理しまとめる。
第7回	〔授業テーマ〕 実習分野に関する基本的な理解 〔授業内容〕 ・利用者理解の振り返りと発表	・SW1_ワークシート(3)(4)および講義内容を振り返り発表できるように準備をする。

	・個別面談 〔教科書該当部分〕 第6章 実習の実際	
第8回	〔授業テーマ〕 実習分野に関する基本的な理解 〔授業内容〕 ・個別面談 〔教科書該当部分〕 第2章 実習先決定に向けた準備	・自己の関心や課題を整理し、実習希望調査を作成する。
第9回	〔授業テーマ〕 実習先での関連業務に関する基本的な理解 〔授業内容〕 ・実習報告会への参加 〔教科書該当部分〕 第2章 実習先決定に向けた準備	・実習報告会の発表レジュメに目を通し、報告者への質問等を整理する。
第10回	〔授業テーマ〕 実習分野に関する基本的な理解 ：児童・家庭福祉分野と社会保障・貧困に対する支援分野 〔授業内容〕 ・利用者やその関係者等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係形成 ・利用者やその関係者との援助関係の形成 ・保育技術等の理解 〔教科書該当部分〕 第6章 実習の実際	・SW1__ワークシート(5)児童分野：事例について考えてくる。 SW__ワークシート(6)で授業後の振り返りをまとめる。
第11回	〔授業テーマ〕 実習分野に関する基本的な理解 ：高齢者福祉分野と地域福祉と包括的支援体制分野 〔授業内容〕 ・利用者やその関係者等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係形成 ・利用者やその関係者との援助関係の形成 ・介護技術の理解 〔教科書該当部分〕 第6章 実習の実際（高齢分野）	・SW1__ワークシート(7)高齢分野：基本的な介護技術について調べまとめる。
第12回	〔授業テーマ〕 実習分野に関する基本的な理解 ：障害者福祉分野と保健医療分野 〔授業内容〕 ・利用者やその関係者等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係形成 ・利用者やその関係者との援助関係の形成 ・介護技術の理解 〔教科書該当部分〕 第6章 実習の実際（障害分野）	・SW1__ワークシート(8)障害分野：基本的なコミュニケーション技術について調べまとめる。
第13回	〔授業テーマ〕 ソーシャルワークに係る知識と技術に関する理解 〔授業内容〕 ・実習の心がまえと社会福祉士の価値 現場で働くSWの講話（ゲストスピーカー） 〔教科書該当部分〕 第6章 実習の実際	・SW1__ワークシート(9)ゲストスピーカーの講義に向けた事前学習を行い、質問したい内容等を整理しまとめる。
第14回	〔授業テーマ〕 個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解 実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解	・SW 1 __ワークシート(10)社会福祉士の倫理綱領と行動機関について調べてまとめる。

	【授業内容】 ・社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任 ・社会福祉士の倫理綱領と行動規範 ・ソーシャルワーク実習における個人情報の取り扱いに関するガイドラインに基づいた実習記録の記載について 【教科書該当部分】 第 6 章 実習の実際	
第15回	【授業のテーマ】 まとめ（総括） 【授業内容】 ・ソーシャルワーク実習指導Ⅰの学びの成果をまとめ発表する。 ・ソーシャルワーク実習Ⅰで学びたいことを整理し目標を立てる。	・ソーシャルワーク実習指導Ⅰでの学びを踏まえ、ソーシャルワーク実習Ⅰの目標をプレゼンできるよう準備する。
授業計画		
シラバス備考		
・事前学習（ワークシート）をもとにした授業を展開する。 ・グループについては初回授業で確認する。 ・グループ学習や、オリエンテーションや見学実習、ゲストスピーカーの講話、実習報告会などは合同授業、分野別のグループ学習など授業によって形態が異なるため、授業内容と教室を確認して出席する。 ・見学実習については、学外での授業のため、授業時間外で行い、現地集合・解散等もある。担当教員に十分確認する。 ・ソーシャルワーク実習Ⅰの実習希望調査票の提出は11月末ごろを予定している。		
URLリンク		
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください		

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
精神保健福祉実習指導Ⅰ（Q3・Q4）
担当教員氏名
大下 由美 越智 あゆみ 勝見 吉彰 金子 努 細羽 竜也 吉田 倫子
研究室の場所
学生便覧参照
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
メールまたはTeamsのチャットで随時対応します。
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
対面授業。履修学生を2つのグループに分ける（1クラス20人以下）。一部、グループ討議を取り入れる。
単位数
1
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
選択
履修要件
人間福祉学コース2年次対象
免許等指定科目
精神保健福祉士国家試験受験資格にかかわる必修科目
キーワード

精神保健福祉士，精神障害者，精神科病院，地域移行支援，地域生活支援
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ
この授業では，履修学生の到達目標を以下のように設定する。 ≪知識・技能の観点≫ ①精神保健福祉実習の意義について説明できる。 ②精神保健福祉士という国家資格が社会的に要請された背景やその職域について説明できる。 ≪思考・判断・表現の観点≫ ③精神障害者の置かれている現状や，その生活の実態や生活上の困難について，歴史的な背景をふまえて説明できる。 ④精神保健福祉士が精神障害者の相談・支援や社会的復権に果たす役割について説明できる。 ≪主体性・協働性の観点≫ ⑤準備学習を行い，調べた内容についてまとめ，授業時にわかりやすく説明できる。 ⑥グループワークにおいて，時間配分に気を配りながら，参加者全員の発言に耳を傾け，グループの意見をまとめることができる。 ＜カリキュラム上の位置づけ＞ 精神保健福祉士国家試験受験資格取得においての必修科目。3・4年次配当の精神保健福祉実習Ⅰ・Ⅱおよび精神保健福祉実習指導Ⅱ・Ⅲを履修するためには，精神保健福祉実習指導Ⅰを履修しなければならない。
授業の内容
この授業では，精神保健福祉士が要請されてきた社会的・歴史的背景について学ぶ。そして，精神保健福祉士が果たすべき役割や必要とされる職域について理解する。また，現場実習に必要な知識やマナーを身につけ，現場実習に臨むための基礎力を培い，実習への動機づけを高める。
成績評価の方法
・毎回のリアクション・ペーパー（5点×15回）（到達課題①②③④⑤） 授業内容をしっかりふまえた感想や質問であるかどうかで評価する。 ・授業時に提示する課題（25点）（到達目標③④⑥） 課題を3回設定する。提出先や期限については各担当教員からの指示にしたがうこと。 やむをえない事情がある場合のみ、提出期限の1週間後まで課題を受け取る。提出期限後の提出分については減点の対象となる。
テキスト
使用しない。資料を配布する。
参考文献
『県立広島大学 精神保健福祉実習の手引き』，その他、授業中に適宜紹介する。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)
精神保健福祉士国家試験受験資格の取得を希望する学生は，必ず履修すること。資格取得に迷っている場合は、まずは受講してみて、考えることをお勧めします。 受講条件：夏休みの課題を提出期限厳守で提出すること。提出がない場合は授業を履修できない。 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。授業内容と関係ない私語を禁止する。 この授業は実務経験のある教員等による授業科目である。

授業計画		
回数	授業計画	準備学習
第1回	精神保健福祉実習で学ぶこと（実習指導の意義）＋精神保健福祉士とは（精神保健福祉士の業務紹介） 担当教員：細羽・朝比奈	精神保健福祉士には，どのような役割と機能を期待されているのかについて考えてくる。
第2回	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解（事例学習） 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解を含む） 担当教員：金子	日本精神保健福祉士協会倫理綱領（実習の手引き）をよく読んでおくこと。
第3回	精神保健福祉士はなぜ必要か（精神保健医療福祉の現状：精神科病院とは，制度変革とMHSW） 担当教員：吉田	以下の記事をインターネットでダウンロードして読み、自分の考えを発表できるよう準備しておくこと。ハートネットTV「60歳からの青春 ー精神科病院40年をへてー」(2014年6月10日放送)の番組まるとテキスト https://www.nhk.or.jp/heart-net/article/4/
第4回	自己覚知はなぜ必要か（利用者のニーズを理解し，業務を実践するためのツール）	事前配布資料を読み，自己覚知の必要性について自分なりの考えをまとめ，口頭で報告できるよう準備しておくこと。

	担当教員：勝見	
第5回	精神科医療機関における記録の方法とその留意点を学習したうえで、「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解を図る。 担当教員：金子	事前に配布された模擬実習記録をもとに課題レポートを提出する。
第6回	精神保健福祉士が働く実践現場について理解を深める 担当教員：越智	精神保健福祉士が働く実践現場について調べてみる。
第7回	実習指導者や他職種の援助者との円滑な実践的態度（学ぶ姿勢） 担当教員：吉田	精神保健福祉士と連携する他職種について調べてみる。
第8回	実習ロールプレイ 担当教員：大下	初対面でのコミュニケーション過程で、自分が選択しやすい行動（緊張して顔が強張る、立ちすくんでしまうなど）について考察してくる。また、普段自分が使用している「非言語メッセージ」（表情、声の抑揚、高さ、大きさ、態度、立ち居振る舞いなど）について考察してくる。
第9回	精神障害当事者の語る実体験から、精神障害者のニーズについて考える。 担当教員：細羽・朝比奈	精神障害当事者の実体験が紹介されたホームページを調べてみる。
第10回	精神科医療の現状と利用者理解（精神科医療。主として病院の状況と入院している利用者の状況、また利用者とのかわり方） 担当教員：金子	精神科病院の入院者数や在院日数、日本の精神科病院が抱える現状について調べる。
第11回	地域で生活する当事者をお招きし、精神障害の当事者が地域で生活するうえでの苦労や楽しみ、生活の工夫や必要な支援などについて考える。 担当教員：細羽・朝比奈	外部講師が所属する事業所のホームページを見て、どのような事業を行っているか（例：法人の理念および運営している事業所の種類や特徴、地域とのつながりなど）を確認しておくこと。
第12回	精神保健福祉実習報告会（3・4年生の実習報告を聞き、現場実習の実際を知り、実習に向けての意識を高める）※映像視聴 担当教員：吉田	①実習に対する問題意識を深める重要な学びの機会であるという心構えを持つ。②積極的に質問すること。関心を持ったところやわからなかったところをメモしながら聞くことを心掛ける。
第13回	実習オリエンテーション（金子・越智）＋見学実習の説明（大下・勝見・吉田・朝比奈）	過去の実習報告書を読んで、実習のイメージを持つ。
第14回	精神保健福祉士が働く実践現場について理解を深める ※感想レポートの振り返り 担当教員：越智	各自が作成した感想レポートを読んでおく。
第15回	精神実習の流れ（個別面談、三者協議、事前学習等）の説明＋質疑応答（前半30分 越智） 実習記録の課題の振り返り（後半60分 金子）	「実習記録の課題」の添削結果を確認し、当日持参すること。
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク		
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください		

シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

授業科目名
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（Q1～Q4）
担当教員氏名
伊藤 泰三 梶原 豪人 國定 美香 田中 聡子 手島 洋 永野 なおみ 松宮 透高 楊 慧敏 米倉 裕希子
研究室の場所
学生便覧参照（ソーシャルワーク実習担当教員）
連絡先電話番号
学生便覧参照
オフィスアワー
事前予約してください。可能な限り対応します。
E-mail/HP
学生便覧参照
授業形態
対面
授業の形式・方式
全体での講義やグループワーク、少人数でのグループ学習や個別指導など授業日程にしたがい、実践的な技術等を指導する。
単位数
1
時間数
30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別
必修
履修要件
人間福祉学コース2年次対象、ソーシャルワーク実習指導Ⅰの単位を修得していること
免許等指定科目

社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目

キーワード

社会福祉士、実習指導、ソーシャルワーク実習

授業の目標とカリキュラム上の位置づけ

本授業は、ソーシャルワーク実習Ⅰの事前及び事後指導、そして次年度のソーシャルワーク実習Ⅱに向けた事前指導の位置づけにある。
授業の到達目標は、講義で学んだ知識・技術等を具体的かつ实际的に理解し、ソーシャルワークの専門職としてのアウトラインを掴むことである。そのため、以下の4点を授業の目標とする。

- 1.ソーシャルワーク実習の意義・目的について理解する。
- 2.学校で学んだ知識や技術等を具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得する。
- 3.ソーシャルワークの専門職として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- 4.具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てる能力を涵養する。

具体的な達成課題は以下の通りである。

- ①ソーシャルワーク実習Ⅰで配属される実習施設・機関の概要・利用者・必要とされる知識や技術を理解し説明できる。
- ②ソーシャルワーク実習Ⅰに向けての目標や達成課題を説明できる。
- ③ソーシャルワーク実習Ⅰを振り返り学びを深め、利用者の特性や背景について理解し説明することができる。
- ④社会福祉士として求められる資質、技能、倫理について理解し説明できる。
- ⑤ソーシャルワーク実習Ⅱの目的及び実習施設・機関について理解し説明できる。
- ⑥ソーシャルワーク実習Ⅰの自己評価を通して、ソーシャルワーク実習Ⅱに向けての目標や達成課題を説明できる。

カリキュラム上の位置づけ：専門領域特有の科目（ソーシャルワーク実践を修得する科目）

授業の内容

講義、個別指導や集団指導を通して、ソーシャルワーク実習Ⅰに関する事前学習及び事後学習を行う。前期は配属実習施設についての事前学習を行い、実習目的を明確にし、実習計画書を作成するとともに事前学習報告会で発表する。実習中は巡回指導により実習計画書の達成状況を確認する。後期は実習を振り返り、課題の整理を行い、実習報告書を作成するとともに実習での学びを深め実習報告会で発表する。また、ソーシャルワーク実習Ⅱの配属に向け、担当教員の講義、実習報告会への参加や現場理解等を通して、ソーシャルワークの展開や技術を学ぶとともに、主体的に課題を発見する。

成績評価の方法

授業態度【授業への積極的な参加及び事前学習報告会や実習報告会でのプレゼンテーションなど】40点(到達目標①②④⑥)、課題提出【ワークシート、実習に関する書類、実習計画書や実習報告書など】60点(到達目標①②③④⑤)である。
また、ソーシャルワーク実習指導Ⅱは、前期60点及び後期40点の合計100点とする。前期60点は中間試験として評価し、40点以上を合格とする。中間試験は、授業への積極的な態度、実習計画書等一式、授業内課題の期限内作成及び提出、事前学習報告会によって評価を行う。後期40点は、授業への積極的な態度、実習報告会、実習報告書の作成及び提出によって評価を行う。

テキスト

ソーシャルワーク実習指導Ⅰで使用した教科書及び手引きを継続して使用する。
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編（2021）『ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習[社会専門] 最新社会福祉士養成講座』中央法規出版
県立広島大学 『ソーシャルワーク実習の手引き(2024年度)』

参考文献

適時授業内で紹介する。
その他、実習領域ごとに必要な基礎文献を担当教員より紹介する。

備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)

- 【履修上の注意事項】
- ・本科目は「ソーシャルワーク実習Ⅰ」に連動するものであり、前期末に中間試験を実施する。中間試験に合格しなければソーシャルワーク実習Ⅰの履修はできない。
 - ・無断欠席禁止。
 - ・課題の提出期限厳守。
- 【実務経験を活かした実践的な教育について】
- ・実務経験のある外部講師による特別授業を実施する

授業計画

回数	授業計画	準備学習
----	------	------

第1回	[授業テーマ] オリエンテーション ソーシャルワーク実習Ⅰ及び実習スーパービジョンの目的と意義 [授業内容] ・ソーシャルワーク実習Ⅰの意義と目的 ・実習中のスーパービジョンについて ・個人票の作成	[事前課題] ・シラバスを確認する。 ・テキスト序章、第1章を読む。 [事後課題] ・個人票下書きの作成・提出
第2回	[授業テーマ] 実習施設・機関の理解 [授業内容] ・各分野の背景及び実習施設・機関の法的根拠 ・実習施設・機関が実施している事業や地域の理解	[事前課題] ・ワークシート(1)実習施設・機関の法的根拠及び概要の作成 [事後課題] ・ワークシート(1)実習施設・機関の法的根拠及び概要の完成
第3回	[授業テーマ] 実習施設・機関を必要とする利用者の理解 [授業内容] ・実習施設・機関を必要としている利用者の理解	[事前課題] ・ワークシート(2)利用者理解の作成 [事後課題] ・ワークシート(2)利用者理解の概要の完成
第4回	[授業テーマ] 実習施設・機関における関係職種とその専門性や業務に関する理解 [授業内容] ・実習先での関係職種とその専門性や業務に関する基本的な理解	[事前課題] ・ワークシート(3)関係職種の理解作成 [事後課題] ・ワークシート(3)関係職種の理解完成
第5回	[授業テーマ] ソーシャルワーク実習Ⅰの目標と達成課題を明確にする [授業内容] ・実習計画書の作成	[事前課題] ・手引きや教科書の該当箇所を読み実習で学びたい実習課題を整理する [事後課題] ・実習計画書の下書き
第6回	[授業テーマ] 実習施設・機関で必要とされるソーシャルワークの価値・知識・技術（１） [授業内容] ・実習記録の意義、目的 ・実習記録の書き方 ・記録作成における留意点	[事前課題] ・手引きや教科書の該当箇所を読み実習記録作成における留意点を確認する [事後課題] ・ワークシート(4)実習記録の作成
第7回	[授業テーマ] 実習施設・機関で必要とされるソーシャルワークの価値・知識・技術（２） [授業内容] ・アセスメントとプランニング （高齢、障害、児童分野）	[事前課題] ・手引きや教科書の該当箇所を読みアセスメントについて確認する [事後課題] ・ワークシート(5)アセスメントを作成する
第8回	[授業テーマ] 実習プログラムと実習計画書 [授業内容] ・三者協議	[事前課題] ・誓約書の作成・提出 ・手引きの該当箇所を確認し書類等を準備する [事後課題] ・三者協議報告書の作成 ・実習計画書清書の作成
第9回	[授業テーマ] プライバシーの保護と守秘義務等の理解 実習前オリエンテーション [授業内容] ・実習準備の確認 ・実習中の心がまえ、留意点の確認 ・実習終了後の手続きについての確認 ・実習における倫理、マナー等の理解	[事前課題] ・教科書や手引きの該当部分を読み確認する
第10回	[授業テーマ] ・スーパービジョン	[事前課題] ・自己評価（中間評価）を行う

	[内容] ・巡回指導	
第11回	[授業テーマ] 実習の振り返りと課題の整理(1) [授業内容] ・自己評価を行う ・グループ別に振り返りをする	[事前準備] ・実習記録等を整理する [事後課題] ・ワークシート（6）振り返りを作成する
第12回	[授業テーマ] 実習の振り返りと課題の整理(2) [授業内容] ・実習報告書の作成に向けたテーマの設定	[事前準備] ・実習記録等を整理する [事後課題] ・実習報告会の発表スライドを作成し準備する
第13回	[授業テーマ] 実習施設・機関における現場理解学習を通したソーシャルワークの展開についての理解(1) [授業内容] 現場理解を通して次年度の実習に向けて実習施設・機関の理解	[事前準備] ・手引きや教科書該当部分を読む [事後課題] ・ワークシート(7)を作成する
第14回	[授業テーマ] 実習施設・機関における現場理解学習を通したソーシャルワークの展開についての理解(2) [授業内容] 現場理解を通して次年度の実習に向けて実習施設・機関の理解	[事前準備] ・手引きや教科書該当部分を読む [事後課題] ・ワークシート(7)を作成する
第15回	[授業テーマ] ・2年生ソーシャルワーク実習Ⅰ 報告会 [授業内容] ・実習報告会で発表し、実習について振り返る	[事前準備] ・実習報告会の発表リハーサルを行う ・実習報告会の他者の発表資料を読み質問内容等を検討しておく [事後課題] ・他者の発表から気づいたことをまとめる
第16回	[授業テーマ] ・次年度のソーシャルワーク実習Ⅱの理解と準備 [授業内容] ・3年生ソーシャルワーク実習Ⅱ 報告会への参加	[事前準備] ・実習報告会の発表資料に目を通す ・実習報告書校正完了

授業計画

シラバス備考

・ソーシャルワーク実習Ⅱの実習希望調査票の提出は11月末ごろを予定している。それにともない、個別面談を実施する。

URLリンク

科目ループリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください

[ソーシャルワーク実習指導2_ループリック.pdf](#)